

令和元年12月23日  
第5回国分寺市障害者施策推進協議会  
資料3

**国分寺市**  
**障害福祉に関するアンケート調査**  
**集計結果報告書**

2019年11月

国分寺市

# 目次

第1章 調査概要	1	(2) 同居人の有無	38
1. 目的	3	(3) 同居人の属性	39
2. 調査項目	3	(4) 福祉施設入所の理由	41
3. 調査設計	4	(5) 福祉施設への入所年数	41
4. 回収状況	4	(6) 将来希望する暮らし	42
5. 調査結果を見る上での注意事項	4	(7) グループホームの利用を希望する時期	44
第2章 調査結果（一般）	5	7. 日中活動の場・就労について	45
1. 基本情報	7	(1) 平日昼間の過ごし方	45
(1) 記入者	7	(2) 働き方	48
(2) 年齢	7	(3) 就職支援の窓口	50
(3) 居住地域	9	(4) 現在の仕事への不満	51
(4) 生活をしていくための主な収入	9	(5) 現在の仕事への就労年数	52
(5) 収入の管理	12	(6) 現在の仕事を継続している理由	53
2. 障害の状況について	13	(7) 施設等に通所するうえでの不満	54
(1) 手帳の種類または診断名	13	(8) 今後の過ごし方の希望	55
(2) 身体障害者手帳（程度）	13	(9) 就労や就学をしていない理由	56
(3) 身体障害者手帳（障害の種類）	14	(10) 将来における一般企業への就職希望の有無	57
(4) 愛の手帳（程度）	14	(11) 一般企業への就職・継続するために必要だと思うこと	59
(5) 精神障害者保健福祉手帳（等級）	15	(12) 退職経験の有無	59
(6) 日常的に必要な医療的ケア（種類）	15	(13) 退職の理由	60
3. 福祉サービスの利用状況・利用意向	16	8. 外出について	61
(1) 福祉サービスの利用状況・利用意向	16	(1) 外出頻度	61
(2) 福祉サービスを利用していない理由	29	(2) 外出をしたくてもできない理由	62
4. 福祉サービス利用の満足度について	29	(3) 外出時に感じる困難や不便	63
(1) サービス等利用計画の作成の有無	29	9. 災害への備えについて	64
(2) サービス等利用計画の作成への意見	30	(1) 災害発生時に困ることや不安に感じること	64
(3) 相談支援専門員の支援の満足度	30	(2) 災害に対する備え	66
(4) 相談支援専門員の支援に満足の理由	31	(3) 災害発生時に頼れる人	67
(5) 相談支援専門員の支援に不満の理由	32	10. 相談や福祉の情報について	68
(6) 利用している福祉サービス事業者の所在地	33	(1) 福祉の窓口相談・機関の認知度	68
(7) 利用している福祉サービス事業者の満足度	34	(2) 福祉の窓口相談・機関の利用経験の有無	69
(8) 利用している福祉サービス事業者に不満の理由	36	(3) 福祉の窓口相談・機関の満足度	70
5. その他のサービスについて	37	(4) 福祉サービス等の情報の入手経路	71
(1) その他のサービスの利用状況・利用意向	37	11. ヘルプマークとヘルプカードについて	74
6. 住まいの場について	38	(1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度	74
(1) 現在の住まい	38	(2) ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無	74
		(3) ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無	75
		(4) ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由	75
		12. 障害を理由とする差別等について	76
		(1) 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無	76

(2) 差別やいやな思いを受けた場所	78	(1) 福祉サービスの利用状況・利用意向	112
(3) 差別やいやな思いを受けた相手	79	(2) 福祉サービスを利用していない理由	115
(4) 差別やいやな思いを受けた内容	80	4. 福祉サービス利用の満足度について	115
(5) 差別やいやな思いを受けた時の相談先	81	(1) サービス等利用計画の作成の有無	115
(6) 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由	82	(2) サービス等利用計画の作成への意見	116
1 3. 余暇活動について	83	(3) 相談支援専門員の支援の満足度	116
(1) 余暇の過ごし方	83	(4) 相談支援専門員の支援に満足の理由	117
(2) 文化芸術への関わり方	85	(5) 相談支援専門員の支援に不満の理由	117
(3) 鑑賞した文化芸術の種類	85	(6) 利用している福祉サービス事業者の所在地	118
(4) 制作した文化芸術の種類	86	(7) 利用している福祉サービス事業者の満足度	119
(5) 文化芸術活動に関わるために必要な支援	86	(8) 利用している福祉サービス事業者に不満の理由	120
(6) 過去1年の間の運動やスポーツ経験の有無	87	5. その他のサービスについて	121
(7) 運動やスポーツをする場所	88	(1) その他のサービスの利用状況・利用意向	121
(8) スポーツを行うために必要な支援	88	6. 教育・保育について	122
1 4. 成年後見制度について	89	(1) 通園・通所場所	122
(1) 成年後見制度の認知度と利用意向	89	(2) 通園・通所に関する困りごとや心配ごと	124
(2) 成年後見制度を利用しない理由	91	(3) 通学場所	125
1 5. 全体的な施策について	92	(4) 通学に関する困りごとや心配ごと	127
(1) 暮らしのために充実してほしいこと	92	7. 将来について	128
1 6. 自由意見	94	(1) 将来、就職するために必要だと思うこと	128
		(2) 将来希望する暮らし	129
		(3) グループホームの利用を希望する時期	131
第3章 調査結果（児童）	99	8. 外出について	132
1. 基本情報	101	(1) 外出頻度	132
(1) 記入者	101	(2) 外出をしたくてもできない理由	133
(2) 年齢	101	(3) 外出時に感じる困難や不便	134
(3) 居住地域	103	9. 災害への備えについて	135
(4) 現在の住まい	103	(1) 災害発生時に困ることや不安に感じること	135
(5) 同居人の属性	104	(2) 災害に対する備え	136
(6) 主な介助者以外で子育てを手伝ってくれる人の有無	105	1 0. 相談や福祉の情報について	137
2. 障害の状況について	106	(1) お子さまの日常生活に関する不安や課題	137
(1) 障害の状況（種類または診断名）	106	(2) 保護者の日常生活に関する不安や課題	140
(2) 身体障害者手帳（程度）	106	(3) 福祉の相談窓口・機関の認知度	142
(3) 身体障害者手帳（種類）	107	(4) 福祉の相談窓口・機関の利用経験の有無	143
(4) 愛の手帳（程度）	107	(5) 福祉の相談窓口・機関の満足度	144
(5) 精神障害者保健福祉手帳（等級）	108	(6) 福祉サービス等の情報の入手経路	145
(6) 日常的に必要な医療的ケア（種類）	108	1 1. ヘルプマークとヘルプカードについて	146
(7) お子さまの不調に気付いたきっかけ	109	(1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度	146
(8) お子さまの不調に気付いてから相談するまでの期間	111	(2) ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無	146
(9) お子さまの不調に気付いたが相談しなかった理由	111	(3) ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無	147
3. 福祉サービスの利用状況と利用意向について	112		

(4) ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由	147
1 2. 障害を理由とする差別等について	148
(1) 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無	148
(2) 差別やいやな思いを受けた場所	149
(3) 差別やいやな思いを受けた相手	150
(4) 差別やいやな思いを受けた内容	151
(5) 差別やいやな思いを受けた時の相談先	152
(6) 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由	153
1 3. 余暇活動について	153
(1) 余暇の過ごし方	153
(2) 文化芸術への関わり方	154
(3) 鑑賞した文化芸術の種類	154
(4) 制作した文化芸術の種類	155
(5) 文化芸術に関わるために必要な支援	155
(6) 過去1年の間の運動やスポーツ経験の有無	156
(7) 運動やスポーツをする場所	157
(8) スポーツを行うために必要な支援	157
1 4. 成年後見制度について	158
(1) 成年後見制度の認知度と利用傾向	158
(2) 成年後見制度を利用しない理由	160
1 5. 全体的な施策について	161
(1) 暮らしのために充実してほしいこと	161
1 6. 自由意見	164

## 第 1 章 調査概要

## 1. 目的

本調査は、令和3年度以降の「第4次国分寺市障害者計画・第4次国分寺市障害者計画実施計画・第6期国分寺市障害福祉計画・第2期国分寺市障害児福祉計画」の策定の一環として、障害のある方の生活の様子や福祉サービスに対するご意見等をいただき、新しい計画に反映するためのものである。

## 2. 調査項目

### 【一般向け】

- (1) 基本情報 (問1～問5)
- (2) 障害の状況について (問6)
- (3) 福祉サービスの利用状況と利用意向について (問7～問8)
- (4) 福祉サービス利用の満足度について (問9～問14)
- (5) その他のサービスについて (問15)
- (6) 住まいの場について (問16～問22)
- (7) 日中活動の場・就労について (問23～問35)
- (8) 外出について (問36～問37)
- (9) 災害への備えについて (問38～問40)
- (10) 相談や福祉の情報について (問41～問42)
- (11) ヘルプマークとヘルプカードについて (問43～問46)
- (12) 障害を理由とする差別等について (問47～問49)
- (13) 余暇活動について (問50～問57)
- (14) 成年後見制度について (問58～問59)
- (15) 全体的な施策について (問60)
- (16) 自由意見 (問61)

### 【児童向け】

- (1) 基本情報 (問1～問6)
- (2) 障害の状況について (問7～問10)
- (3) 福祉サービスの利用状況と利用意向について (問11～問12)
- (4) 福祉サービス利用の満足度について (問13～問18)
- (5) その他のサービスについて (問19)
- (6) 教育・保育について (問20～問23)
- (7) 将来について (問24～問26)
- (8) 外出について (問27～問28)
- (9) 災害への備えについて (問29～問30)
- (10) 相談や福祉の情報について (問31～問34)
- (11) ヘルプマークとヘルプカードについて (問35～問38)
- (12) 障害を理由とする差別等について (問39～問41)
- (13) 余暇活動について (問42～問49)
- (14) 成年後見制度について (問50～問51)
- (15) 全体的な施策について (問52)
- (16) 自由意見 (問53)

## 3. 調査設計

- (1) 調査地域……国分寺市全域
- (2) 調査対象……国分寺市在住の個人
- (3) 標本数……一般向け：2,650人  
児童向け：350人
- (4) 抽出方法……国分寺市住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (5) 調査方法……郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間……令和元年7月下旬～令和元年9月上旬

## 4. 回収状況

### 【一般向け】

- (1) 標本数 2,650人
- (2) 有効回収数 1,118人
- (3) 有効回収率 42.2%

### 【児童向け】

- (1) 標本数 350人
- (2) 有効回収数 157人
- (3) 有効回収率 44.9%

## 5. 調査結果を見る上での注意事項

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100.0%にならない場合がある。
- (2) n (Number of Casesの略) は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答者数に相当するかを示している。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (5) クロス集計を行う場合、属性等によってnが少ない場合がある。nが少ない場合、1人の回答がその属性全体の結果に大きく影響するため、定量的には適切な分析をすることが難しい。このため本報告書では分析軸の項目のうちnが10未満と少ない場合、本文中にふれていない。
- (6) クロス結果の帯グラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が全体の件数と一致しないことがある。
- (7) 割合の表記については、以下のとおりとする。

表記	約4割(4割)	4割以上	4割半ば	5割近く	約5割(5割)
範囲	39.0～41.0% (40.0%)	41.1～43.9%	44.0～46.0%	46.1～48.9%	49.0～51.0% (50.0%)

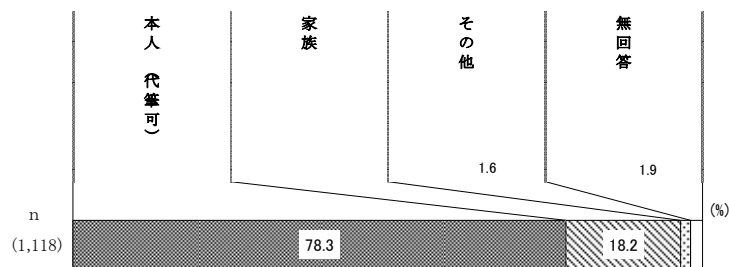
## 第2章 調査結果（一般）

1. 基本情報

(1) 記入者

問1 この調査票を記入していただく方はどなたですか。(1つに○)

図1-1-1 記入者 全体

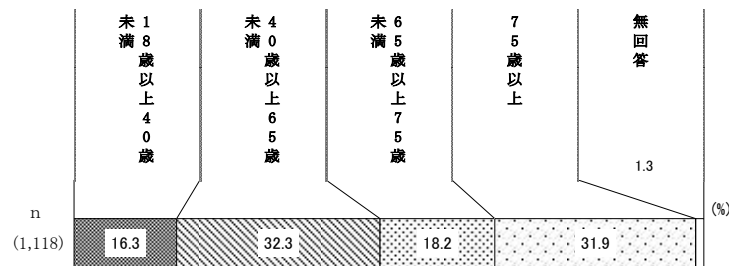


記入者について聞いたところ、「本人(代筆可)」が8割近く(78.3%)で最も高かった。次いで、「家族」(18.2%)の順になっている。

(2) 年齢

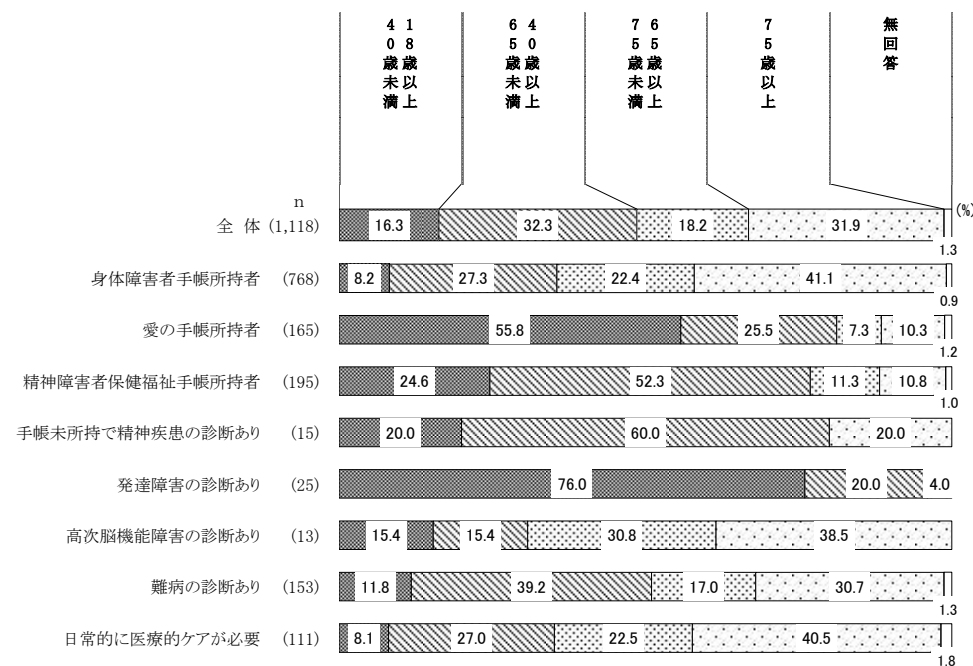
問2 あなた(ご本人)の年齢を教えてください。

図1-2-1 年齢 全体



年齢について聞いたところ、「40歳以上65歳未満」が3割以上(32.3%)で最も高かった。以下、「75歳以上」(31.9%)、「65歳以上75歳未満」(18.2%)、「18歳以上40歳未満」(16.3%)の順になっている。

図1-2-2 年齢 障害種別

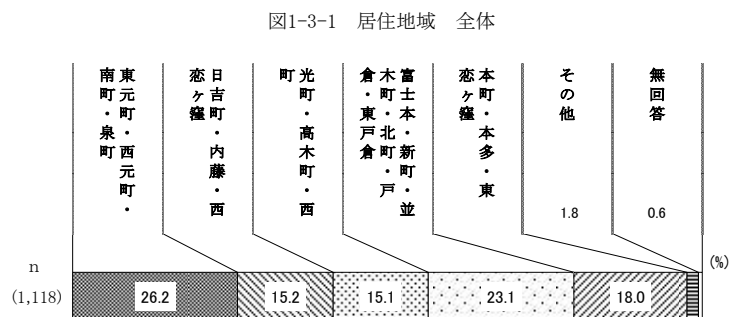


障害種別にみると、発達障害の診断を受けている人の7割半ば(76.0%)、愛の手帳所持者の5割半ば(55.8%)が「18歳以上40歳未満」となっている。また、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人の6割(60.0%)、精神障害者保健福祉手帳所持者の5割以上(52.3%)が「40歳以上65歳未満」、身体障害者手帳所持者の4割以上(41.1%)が「75歳以上」、高次脳機能障害の診断を受けている人の約3割(30.8%)が「65歳以上75歳未満」となっている。



(3) 居住地域

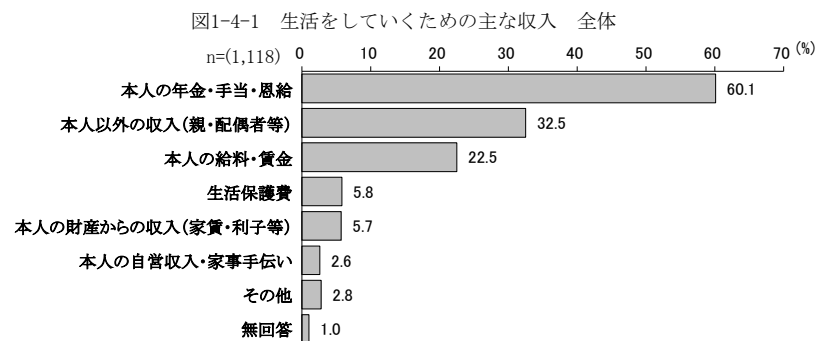
問3 あなた（ご本人）のお住まいの地域はどこですか。（1つに○）



居住地域について聞いたところ、「東元町・西元町・南町・泉町」が3割近く（26.2%）で最も高かった。以下、「富士本・新町・並木町・北町・戸倉・東戸倉」（23.1%）、「本町・本多・東恋ヶ窪」（18.0%）、「日吉町・内藤・西恋ヶ窪」（15.2%）、「光町・高木町・西町」（15.1%）の順になっている。

(4) 生活をしていくための主な収入

問4 あなた（ご本人）が現在の生活をしていくうえでの主な収入は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



生活していくための主な収入について聞いたところ、「本人の年金・手当・恩給」が6割（60.1%）で最も高かった。以下、「本人以外の収入（親・配偶者等）」（32.5%）、「本人の給料・賃金」（22.5%）の順になっている。

図1-4-2 生活をしていくための主な収入 年齢別

	全体 (n)	本人の年金・手当・恩給	本人以外の収入(親・配偶者等)	本人の給料・賃金	生活保護費	本人の財産からの収入(家賃・利子等)	本人の自営収入・家事手伝い	その他	無回答
全体	1,118	60.1	32.5	22.5	5.8	5.7	2.6	2.8	1.0
18歳以上40歳未満	182	41.2	51.1	44.5	3.8	-	2.2	1.6	-
40歳以上65歳未満	361	38.2	38.5	39.3	10.2	3.0	2.5	2.8	1.1
65歳以上75歳未満	204	75.0	27.5	9.8	6.4	7.4	5.9	1.5	0.5
75歳以上	357	84.0	20.4	2.0	2.0	10.4	1.1	4.2	0.3

年齢別にみると、「本人の年金・手当・恩給」については、75歳以上が8割半ば（84.0%）、65歳以上75歳未満が7割半ば（75.0%）で高くなっている。また、「本人以外の収入（親・配偶者等）」については、18歳以上40歳未満が5割以上（51.1%）、「本人の給料・賃金」については18歳以上40歳未満が4割半ば（44.5%）、40歳以上65歳未満が約4割（39.3%）で高くなっている。

図1-4-3 生活をしていくための主な収入 障害種別

	全 体 (n)	本人の年金・手当・恩給	本人以外の収入（親・配偶者等）	本人の給料・賃金	生活保護費	本人の財産からの収入（家賃・利子等）	伝 い 本人の自営収入・家事手	そ の 他	無 回 答
全体	1,118	60.1	32.5	22.5	5.8	5.7	2.6	3.0	1.0
身体障害者手帳所持者	768	65.2	25.8	18.5	4.7	7.0	3.0	3.3	0.5
愛の手帳所持者	165	63.6	39.4	30.9	3.0	1.2	1.8	1.8	-
精神障害者保健福祉手帳所持者	195	59.5	36.4	23.6	17.9	3.6	2.6	3.1	0.5
手帳未所持で精神疾患の診断あり	15	60.0	20.0	13.3	26.7	-	-	6.7	-
発達障害の診断あり	25	48.0	60.0	28.0	8.0	-	4.0	8.0	-
高次脳機能障害の診断あり	13	84.6	15.4	15.4	-	-	-	15.4	-
難病の診断あり	153	49.7	46.4	22.2	2.6	5.9	2.0	1.3	1.3
日常的に医療的ケアが必要	111	72.1	20.7	13.5	10.8	8.1	2.7	2.7	1.8

障害種別にみると、「本人の年金・手当・恩給」については、高次脳機能障害の診断を受けている人が8割半ば（84.6%）、日常的に医療的ケアが必要な人が7割以上（72.1%）で全体に比べて高くなっている。また、「本人以外の収入（親・配偶者等）」については、発達障害の診断を受けている人が6割（60.0%）、難病の診断を受けている人が5割近く（46.4%）、「本人の給料・賃金」については、愛の手帳所持者が約3割（30.9%）、「生活保護費」については、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人が3割近く（26.7%）、精神障害者保健福祉手帳所持者が2割近く（17.9%）で高くなっている。

（5）収入の管理

問5 あなた（ご本人）が収入を管理していますか。

図1-5-1 収入の管理 全体

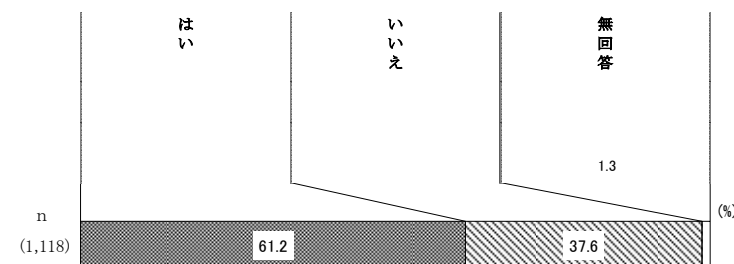
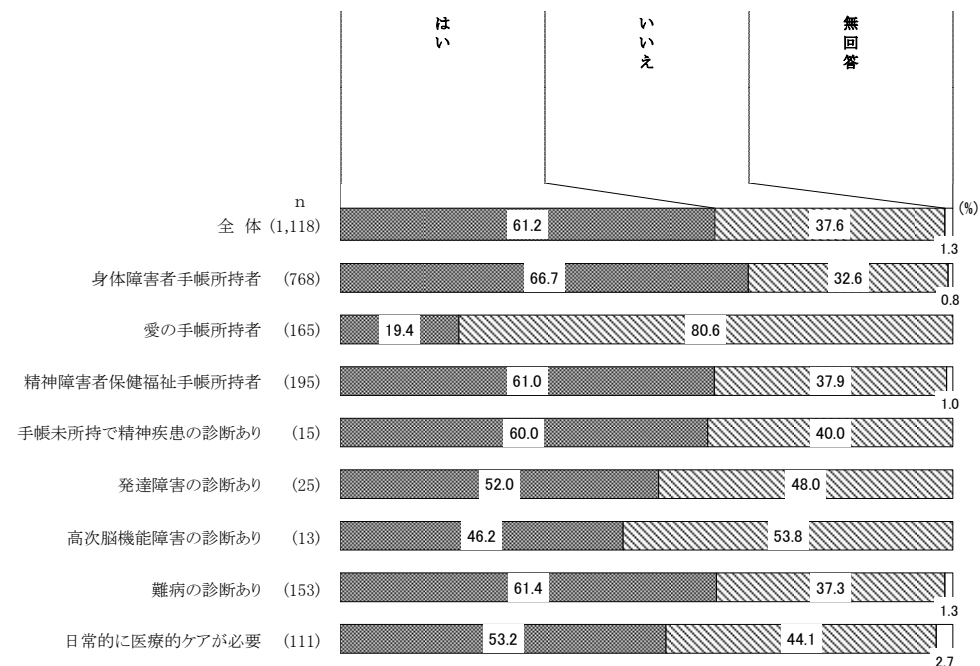


図1-5-2 収入の管理 障害種別



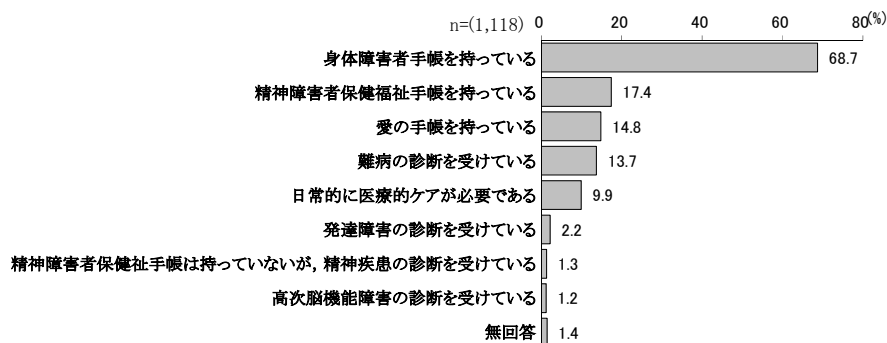
障害種別にみると、「いいえ」については、愛の手帳所持者が約8割（80.6%）、高次脳機能障害の診断を受けている人が5割以上（53.8%）、発達障害の診断を受けている人が5割近く（48.0%）で全体に比べて高くなっている。

## 2. 障害の状況について

### (1) 手帳の種類または診断名

問6 あなた（ご本人）がお持ちの障害者手帳または受けている診断名などについておたずねします。（あてはまるものすべてに○）

図2-1-1 障害の状況（種類または診断名） 全体

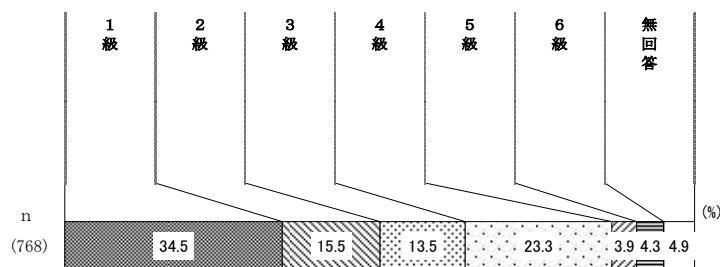


手帳の種類または診断名について聞いたところ、「身体障害者手帳を持っている」が7割近く（68.7%）で最も高かった。以下、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」（17.4%）、「愛の手帳を持っている」（14.8%）、「難病の診断を受けている」（13.7%）の順になっている。

### (2) 身体障害者手帳（程度）

問6 手帳に書いてある障害の程度（総合等級）は何級ですか。

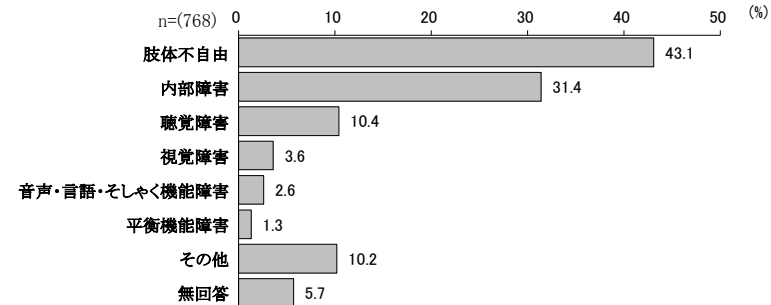
図2-2-1 身体障害者手帳（程度） 全体



### (3) 身体障害者手帳（障害の種類）

問6 どのような障害ですか。

図2-3-1 身体障害者手帳（障害の種類） 全体



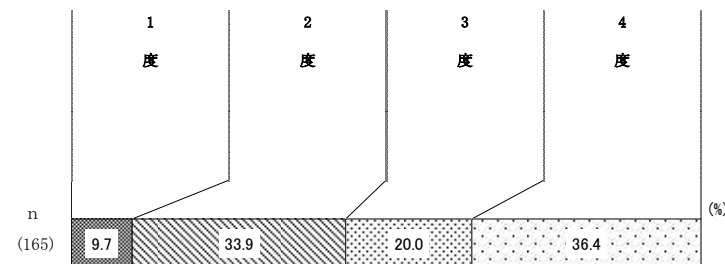
※内部障害（心臓・呼吸器・じん臓・ぼうこう・直腸・小腸・肝臓・免疫機能障害）

障害の種類について聞いたところ、「肢体不自由」が約4割（43.1%）で最も高かった。以下、「内部障害」（31.4%）、「聴覚障害」（10.4%）、「視覚障害」（3.6%）の順になっている。

### (4) 愛の手帳（程度）

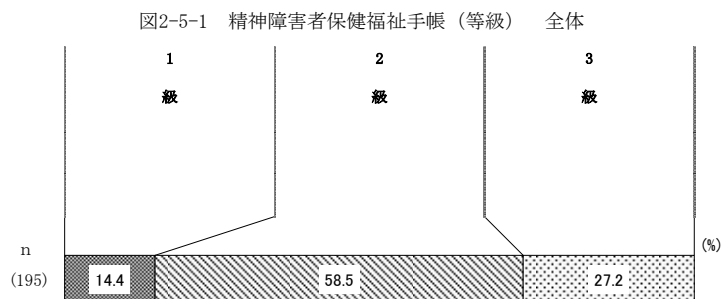
問6 手帳に書いてある障害はどの程度ですか。

図2-4-1 愛の手帳（程度） 全体



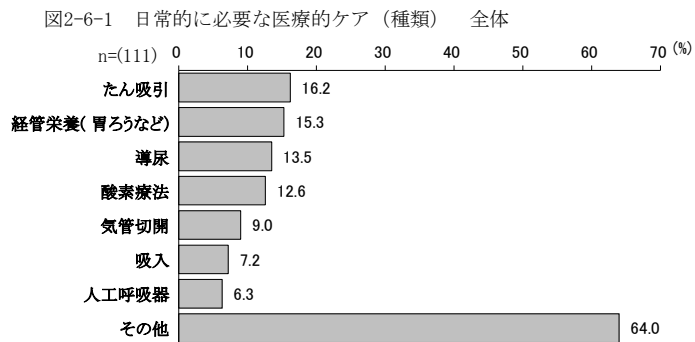
(5) 精神障害者保健福祉手帳（等級）

問6 手帳に書いてある障害は何級ですか。



(6) 日常的に必要な医療的ケア（種類）

問6 受けている医療的ケアは何ですか。



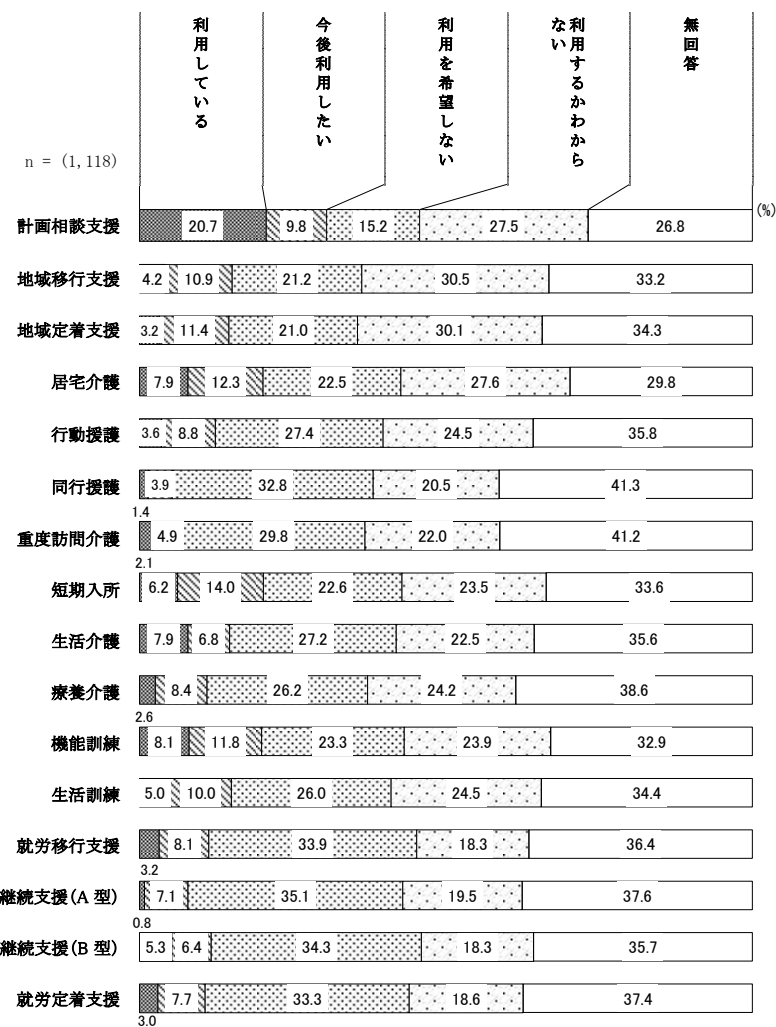
日常的に必要な医療的ケアの種類について聞いたところ、「たん吸引」が2割近く（16.2%）でも高かった。以下、「経管栄養(胃ろうなど)」(15.3%)、「導尿」(13.5%)、「酸素療法」(12.6%)の順になっている。また、「その他」(64.0%)では、具体的に「透析」や「ペースメーカー」などが多く記載されていた。

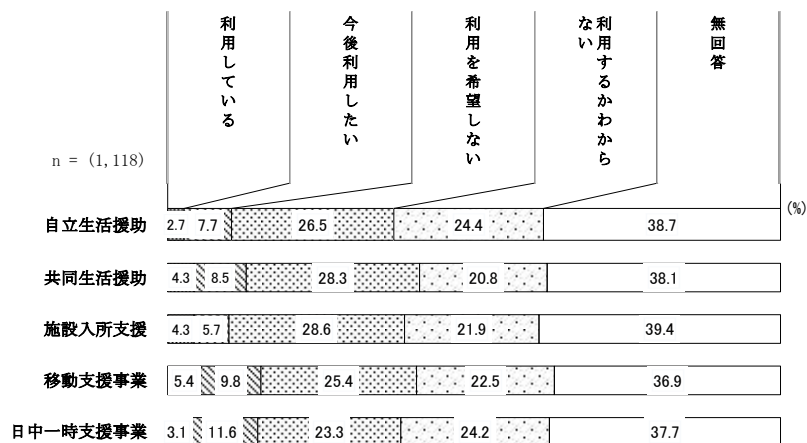
3. 福祉サービスの利用状況・利用意向

(1) 福祉サービスの利用状況・利用意向

問7 あなた（ご本人）が、利用しているサービス、また、今後利用したいと思うサービスについておたずねします。サービスごとに、あてはまるもの1つに○をしてください。

図3-1-1 福祉サービスの利用状況・利用意向 全体（次ページに続く）

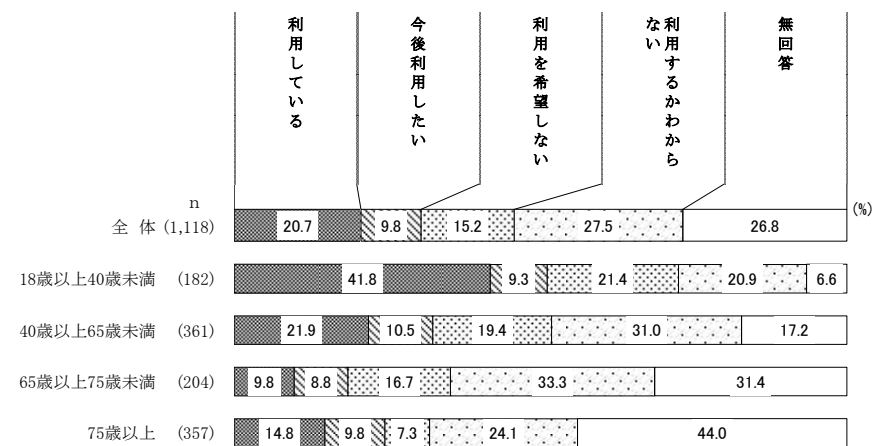




福祉サービスの利用状況・利用意向について聞いたところ、「利用している」と回答した割合が高い項目については、「計画相談支援」(20.7%)、「機能訓練」(8.1%)、「居宅介護」(7.9%)、「生活介護」(7.9%)となっている。

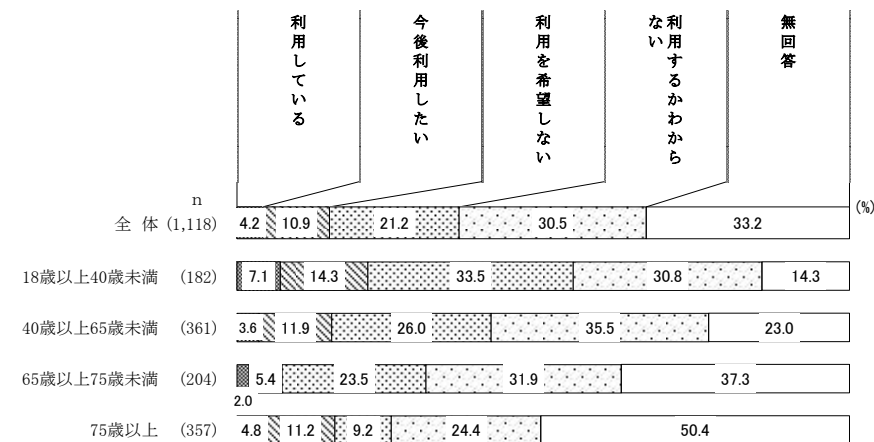
また、「今後利用したい」と回答した割合が高い項目については、「短期入所」(14.0%)、「居宅介護」(12.3%)となっている。

図3-1-2 計画相談支援の利用状況・利用意向 年齢別



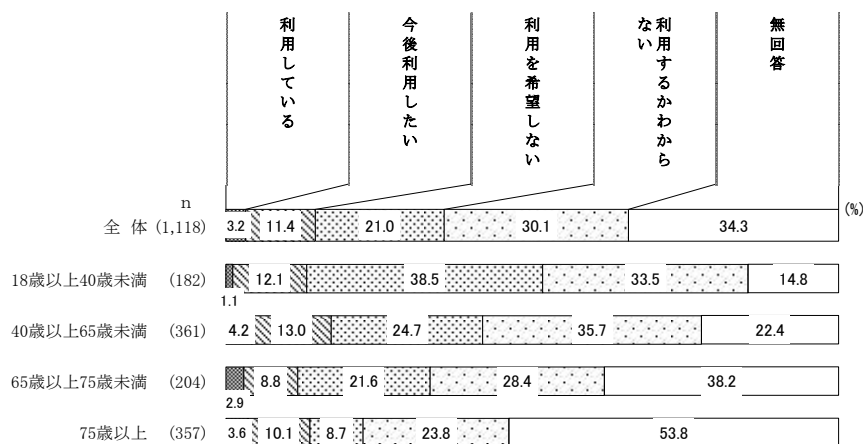
年齢別にみると、「利用している」については、18歳以上40歳未満が4割以上(41.8%)で全体に比べて高くなっている。また、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満、40歳以上65歳未満、75歳以上で約1割(9.3%、10.5%、9.8%)となっている。

図3-1-3 地域移行支援の利用状況・利用意向 年齢別



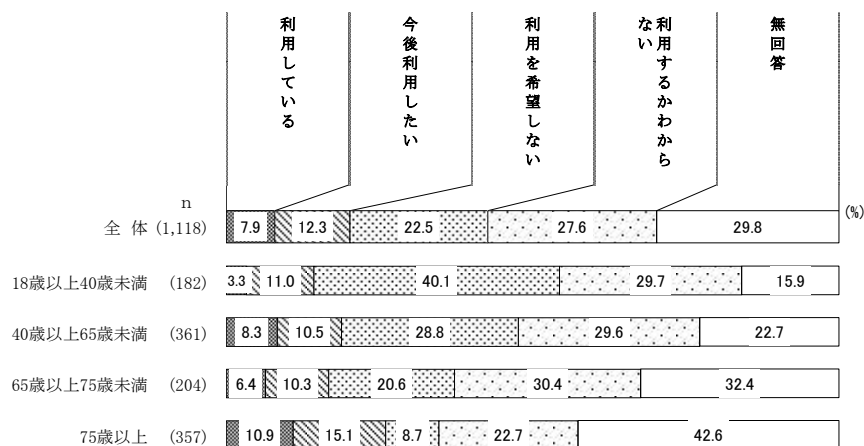
年齢別にみると、「今後利用したい」は、18歳以上40歳未満と40歳以上65歳未満、75歳以上で1割程度(14.3%、11.9%、11.2%)となっている。

図3-1-4 地域定着支援の利用状況・利用意向 年齢別



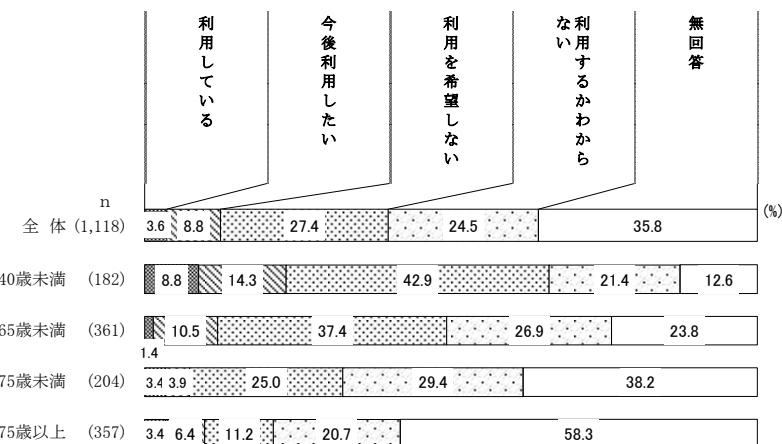
年齢別にみると、「今後利用したい」は、18歳以上40歳未満と40歳以上65歳未満、75歳以上で1割程度（12.1%、13.0%、10.1%）となっている。

図3-1-5 居宅介護（ホームヘルプ）の利用状況・利用意向 年齢別



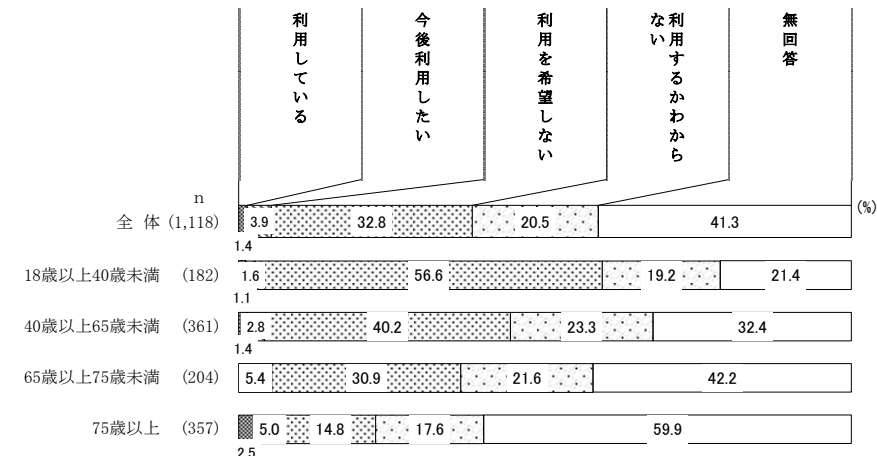
年齢別にみると、「今後利用したい」については、いずれの年代でも1割程度となっている。

図3-1-6 行動援護の利用状況・利用意向 年齢別



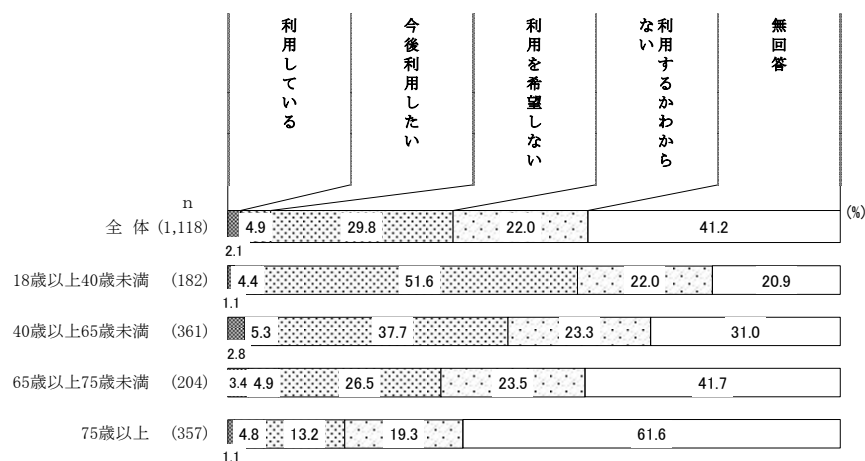
年齢別にみると、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満と40歳以上65歳未満で1割程度（14.3%、10.5%）となっている。

図3-1-7 同行援護の利用状況・利用意向 年齢別



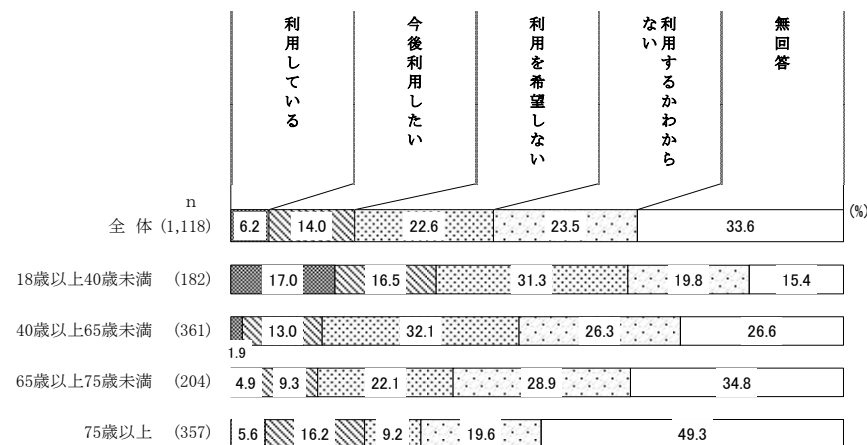
年齢別にみると、「今後利用したい」については、いずれの年代でも1割未満にとどまっている。

図3-1-8 重度訪問介護の利用状況・利用意向 年齢別



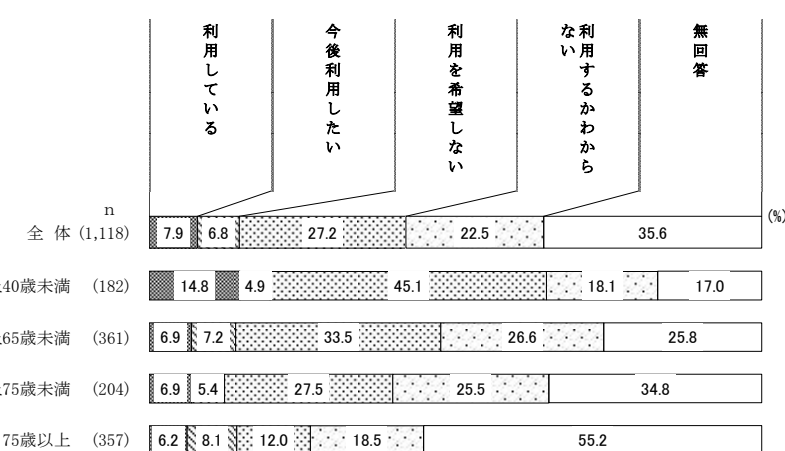
年齢別にみると、「今後利用したい」については、いずれの年代でも1割未満にとどまっている。

図3-1-9 短期入所（ショートステイ）の利用状況・利用意向 年齢別



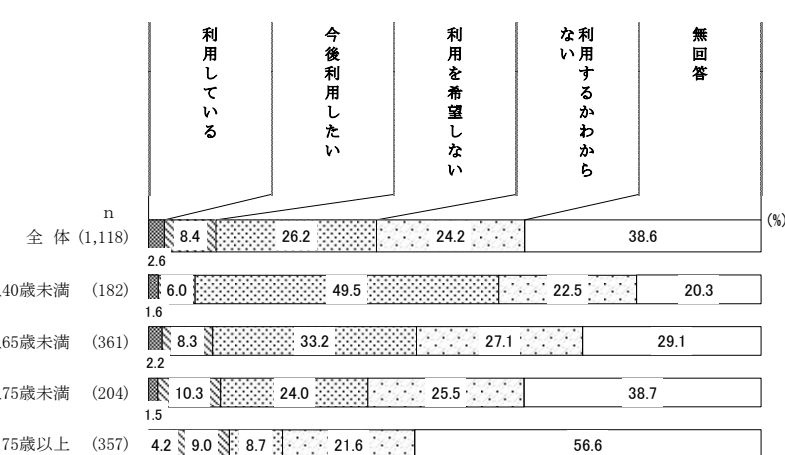
年齢別にみると、「利用している」については、18歳以上40歳未満が2割近く（17.0%）で全体に比べて高くなっている。また、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満と75歳以上が2割近く（16.5%、16.2%）となっている。

図3-1-10 生活介護の利用状況・利用意向 年齢別



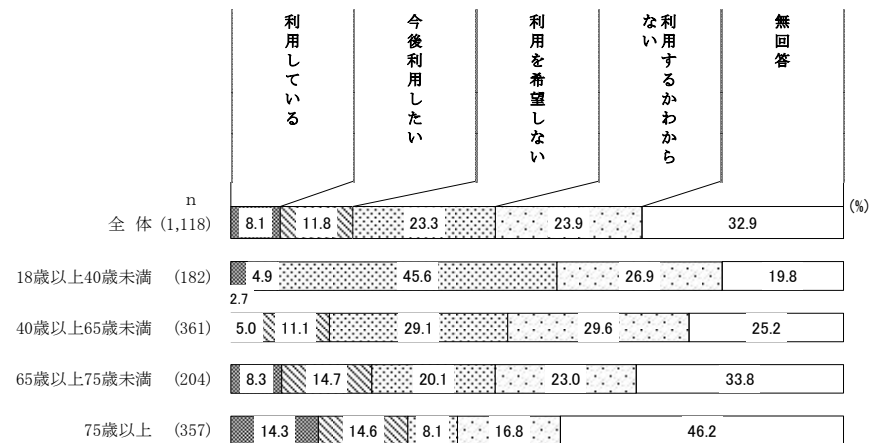
年齢別にみると、「利用している」については、18歳以上40歳未満が1割半ば（14.8%）となっている。また、「今後利用したい」については、いずれの年代でも1割未満にとどまっている。

図3-1-11 療養介護の利用状況・利用意向 年齢別



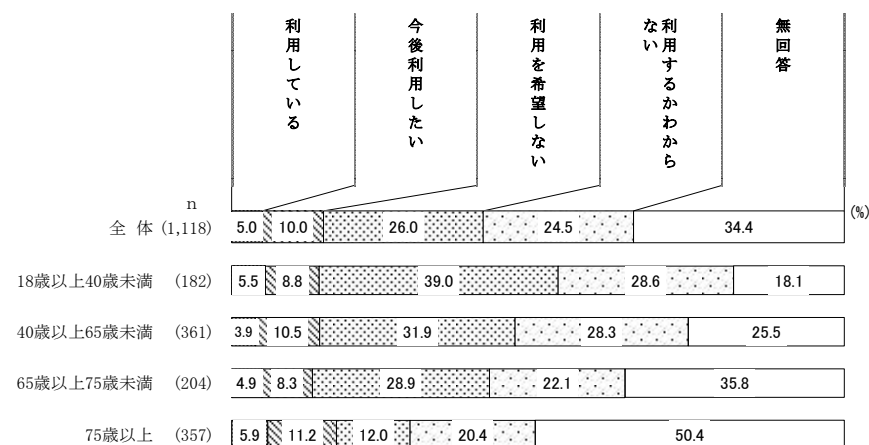
年齢別にみると、「今後利用したい」については、65歳以上75歳未満と75歳以上で約1割（10.3%、9.0%）となっている。

図3-1-12 自立訓練（機能訓練）の利用状況・利用意向 年齢別



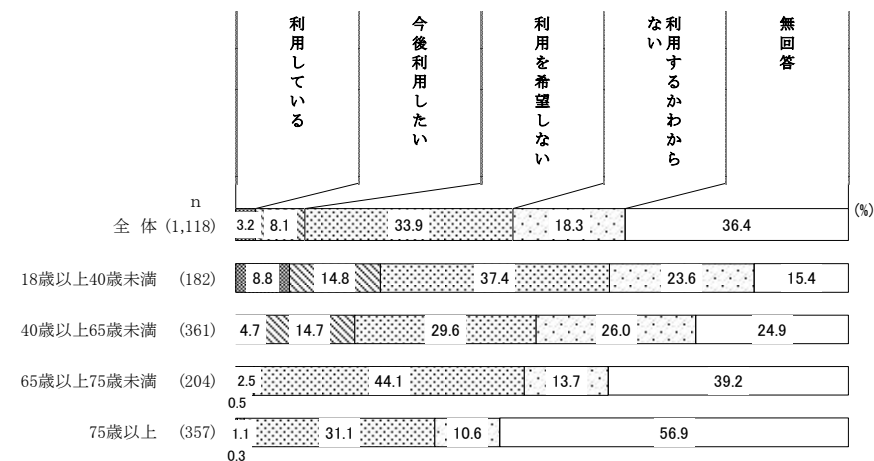
年齢別にみると、「利用している」については、年代が上がるにつれて割合が高くなり、75歳以上で1割半ば（14.3%）となっている。また、「今後利用したい」については、65歳以上75歳未満と75歳以上で1割半ば（14.7%、14.6%）となっている。

図3-1-13 自立訓練（生活訓練）の利用状況・利用意向 年齢別



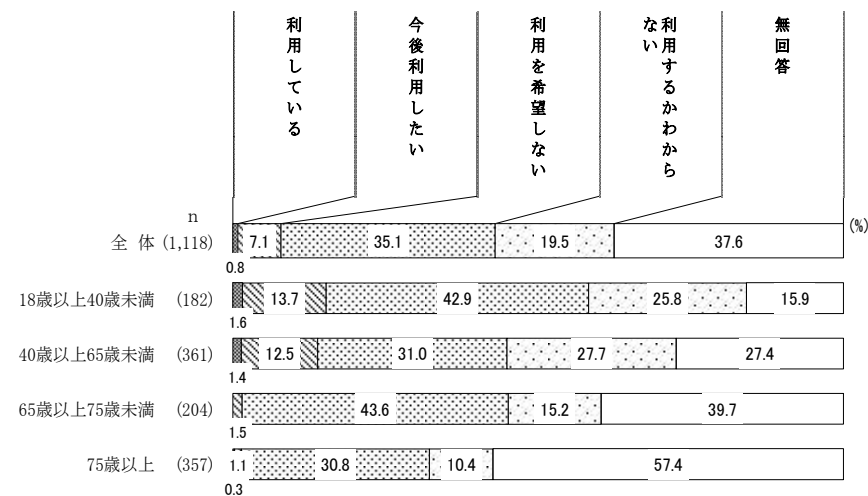
年齢別にみると、「今後利用したい」は、40歳以上65歳未満と75歳以上で1割程度（10.5%、11.2%）となっている。

図3-1-14 就労移行支援の利用状況・利用意向 年齢別



年齢別にみると、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満、40歳以上65歳未満で1割半ば（14.8%、14.7%）となっている。

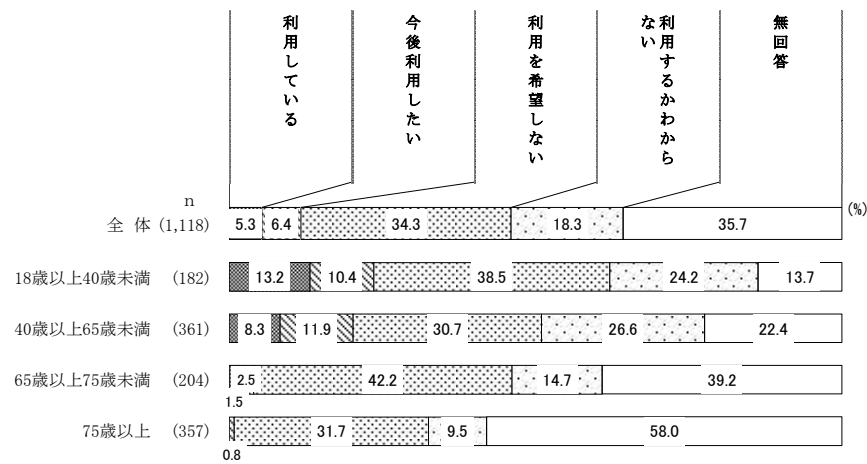
図3-1-15 就労継続支援（A型）の利用状況・利用意向 年齢別



年齢別にみると、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満、40歳以上65歳未満で1割以上（13.7%、12.5%）となっている。

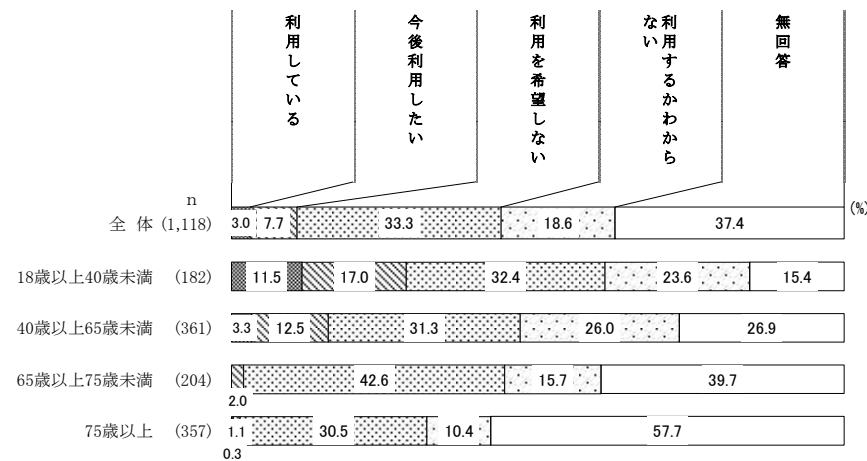


図3-1-16 就労継続支援（B型）の利用状況・利用意向 年齢別



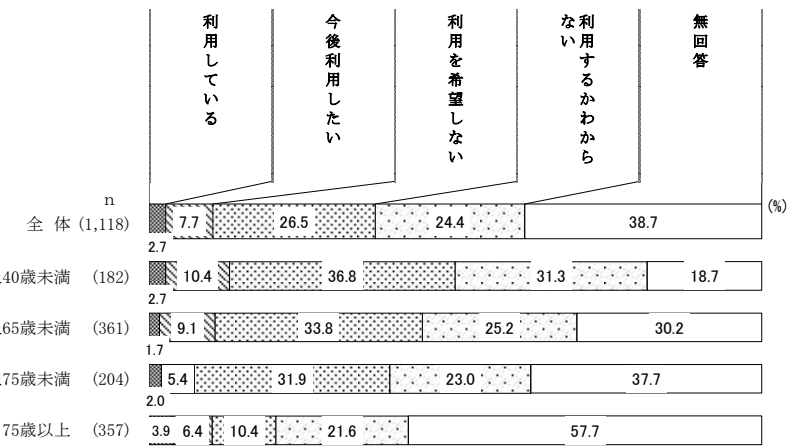
年齢別にみると、「利用している」については、年代が下がるにつれて割合が高くなり、18歳以上40歳未満で1割以上（13.2%）となっている。また、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満と40歳以上65歳未満で1割程度（10.4%、11.9%）となっている。

図3-1-17 就労定着支援の利用状況・利用意向 年齢別



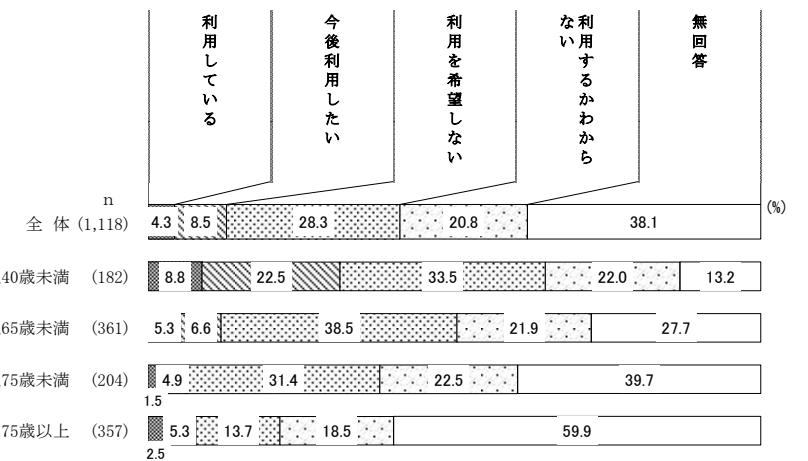
年齢別にみると、「今後利用したい」については、年代が下がるにつれて割合が高くなり、18歳以上40歳未満で2割近く（17.0%）となっている。

図3-1-18 自立生活援助の利用状況・利用意向 年齢別



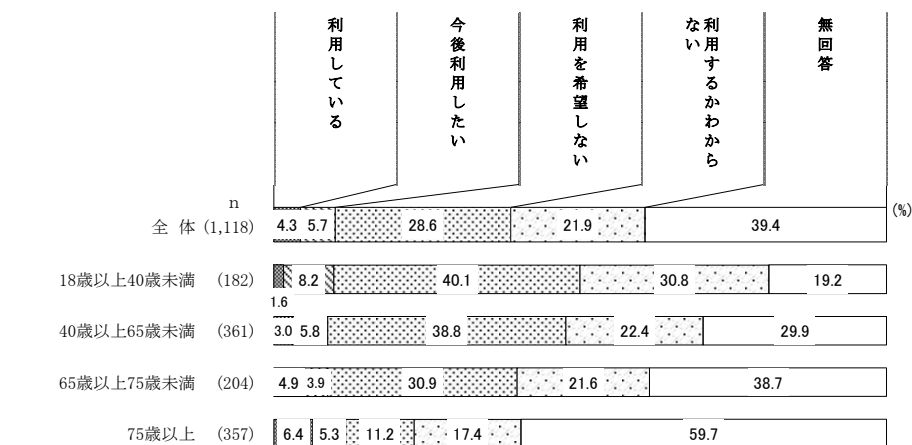
年齢別にみると、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満、40歳以上65歳未満で約1割（10.4%、9.1%）となっている。

図3-1-19 共同生活援助（グループホーム）の利用状況・利用意向 年齢別



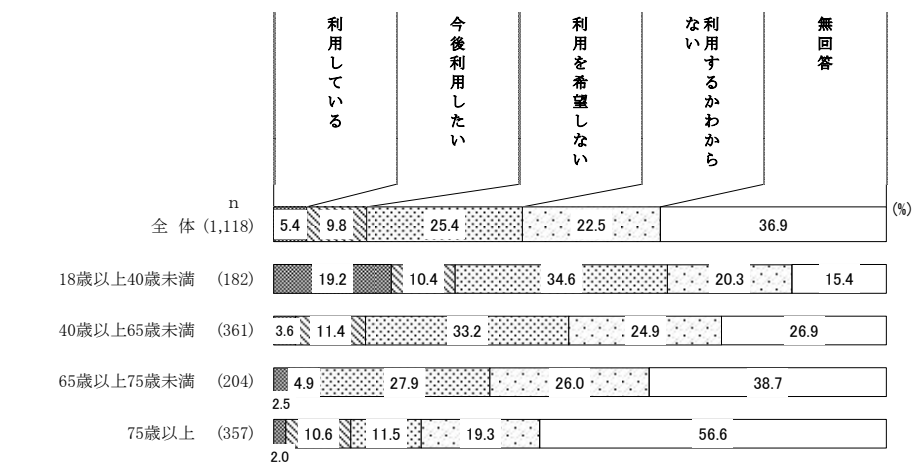
年齢別にみると、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満が2割以上（22.5%）で全体に比べて高くなっている。

図3-1-20 施設入所支援の利用状況・利用意向 年齢別



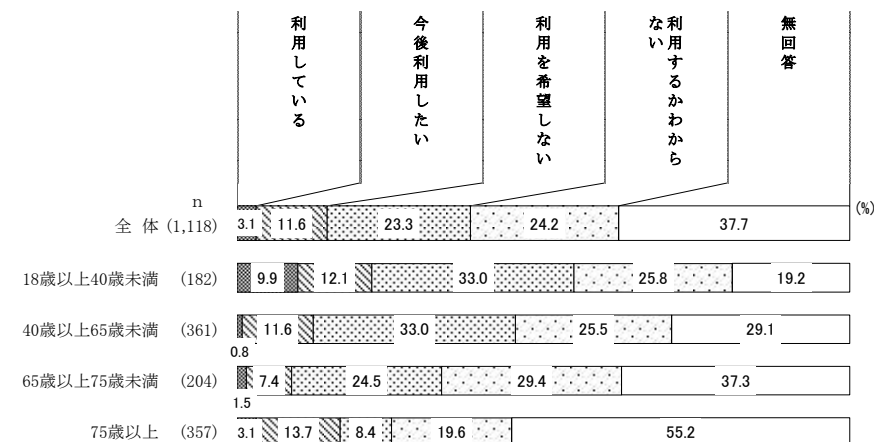
年齢別にみると、「今後利用したい」については、いずれの年代でも1割未満となっている。

図3-1-21 移動支援事業の利用状況・利用意向 年齢別



年齢別にみると、「利用している」については、18歳以上40歳未満が約2割（19.2%）で全体に比べて高くなっている。また、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満、40歳以上65歳未満、75歳以上で1割程度（10.4%、11.4%、10.6%）となっている。

図3-1-22 日中一時支援事業（日中時間預かり）の利用状況・利用意向 年齢別

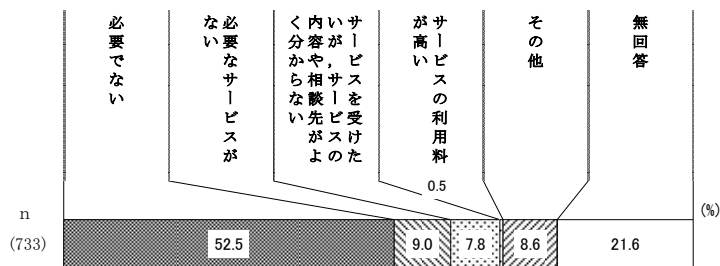


年齢別にみると、「利用している」については、18歳以上40歳未満で約1割（9.9%）となっている。また、「今後利用したい」については、18歳以上40歳未満、40歳以上65歳未満、75歳以上で1割以上（12.1%、11.6%、13.7%）となっている。

(2) 福祉サービスを利用していない理由

問7で「利用している」に1つも○がない方におたずねします。  
 問8 あなた（ご本人）が障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。（1つに○）

図3-2-1 福祉サービスを利用していない理由 全体



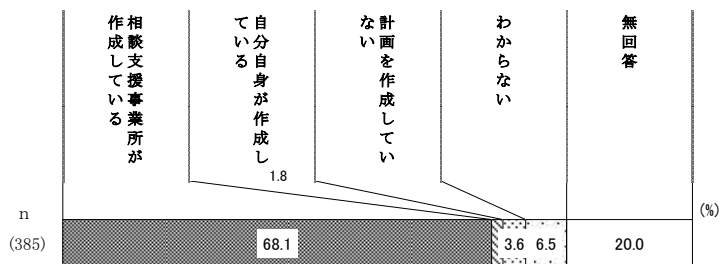
福祉サービスを利用していない理由について聞いたところ、「必要でない」が5割以上（52.5%）で最も高かった。以下、「必要なサービスがない」（9.0%）、「サービスを受けたいが、サービスの内容や相談先がよく分からない」（7.8%）、「サービスの利用料が高い」（0.5%）の順になっている。

4. 福祉サービス利用の満足度について

(1) サービス等利用計画の作成の有無

問7で「利用している」に○がある方におたずねします。  
 問9 サービス等利用計画を作成していますか。（1つに○）

図4-1-1 サービス等利用計画の作成の有無 全体

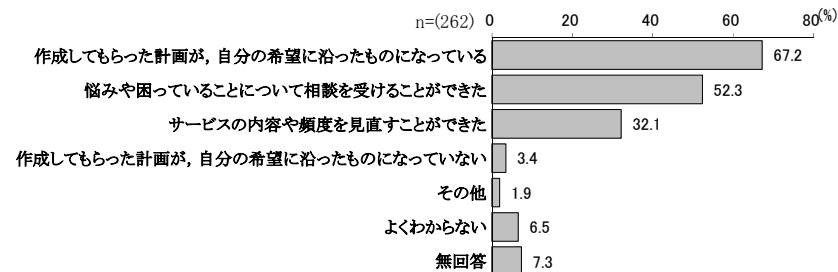


サービス等利用計画の作成の有無について聞いたところ、「相談支援事業所が作成している」が7割近く（68.1%）で最も高かった。以下、「わからない」（6.5%）、「計画を作成していない」（3.6%）、「自分自身が作成している」（1.8%）の順になっている。

(2) サービス等利用計画の作成への意見

◆問9で「1. 相談支援事業所が作成している」と答えた方におたずねします。  
 問10 サービス等利用計画の作成に関してのご意見をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

図4-2-1 サービス等利用計画の作成への意見 全体

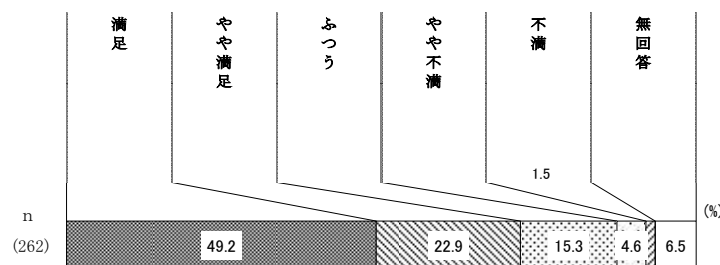


サービス等利用計画の作成への意見について聞いたところ、「作成してもらった計画が、自分の希望に沿ったものになっている」が7割近く（67.2%）で最も高かった。以下、「悩みや困っていることについて相談を受けることができた」（52.3%）、「サービスの内容や頻度を見直すことができた」（32.1%）の順になっている。

(3) 相談支援専門員の支援の満足度

◆問9で「1. 相談支援事業所が作成している」と答えた方におたずねします。  
 問11 担当する相談支援専門員の支援には満足していますか。（1つに○）

図4-3-1 相談支援専門員の支援の満足度 全体

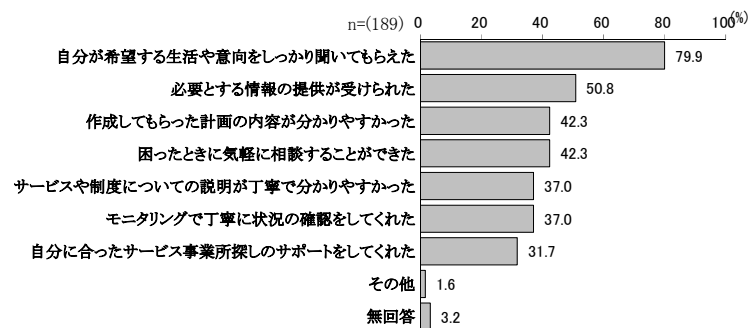


相談支援専門員の支援の満足度について聞いたところ、「満足」（49.2%）と「やや満足」（22.9%）を合わせた肯定的評価は7割以上（72.1%）を占めている。反対に「やや不満」（4.6%）と「不満」（1.5%）を合わせた否定的な評価は1割未満（6.1%）となっている。

## (4) 相談支援専門員の支援に満足の理由

◆問11で「1. 満足」または「2. やや満足」と答えた方におたずねします。  
問12 満足の理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図4-4-1 相談支援専門員の支援に満足の理由 全体

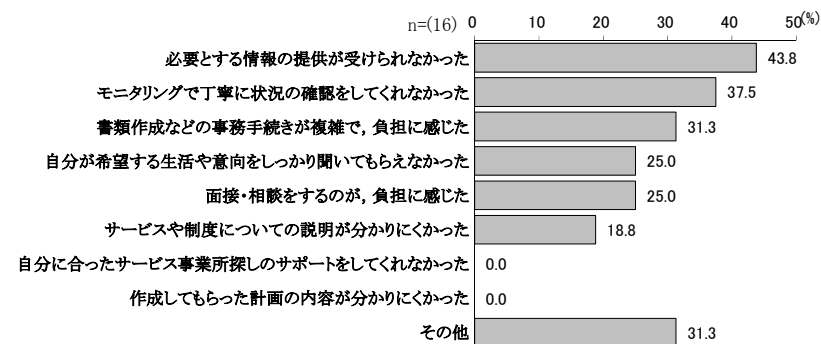


相談支援専門員の支援に満足の理由について聞いたところ、「自分が希望する生活や意向をしっかり聞いてもらえた」が約8割（79.9%）で最も高かった。以下、「必要とする情報の提供が受けられた」（50.8%）、「作成してもらった計画の内容が分かりやすかった」（42.3%）、「困ったときに気軽に相談することができた」（42.3%）の順になっている。

## (5) 相談支援専門員の支援に不満の理由

◆問11で「4. やや不満」または「5. 不満」と答えた方におたずねします。  
問13 不満の理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図4-5-1 相談支援専門員の支援に不満の理由 全体

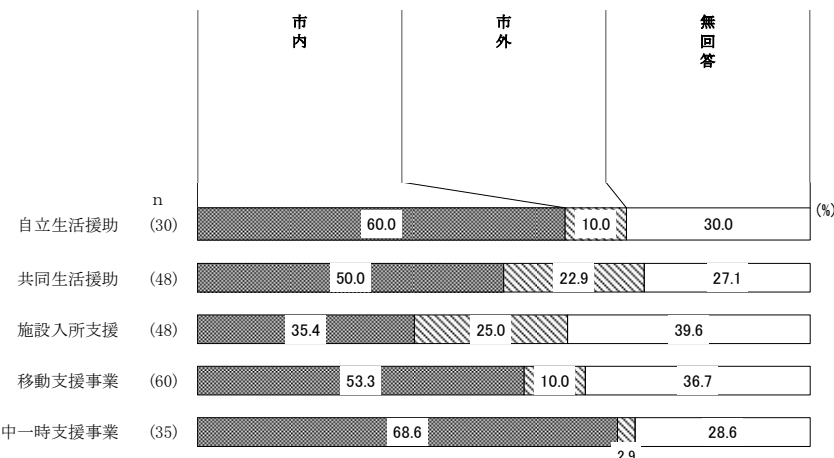
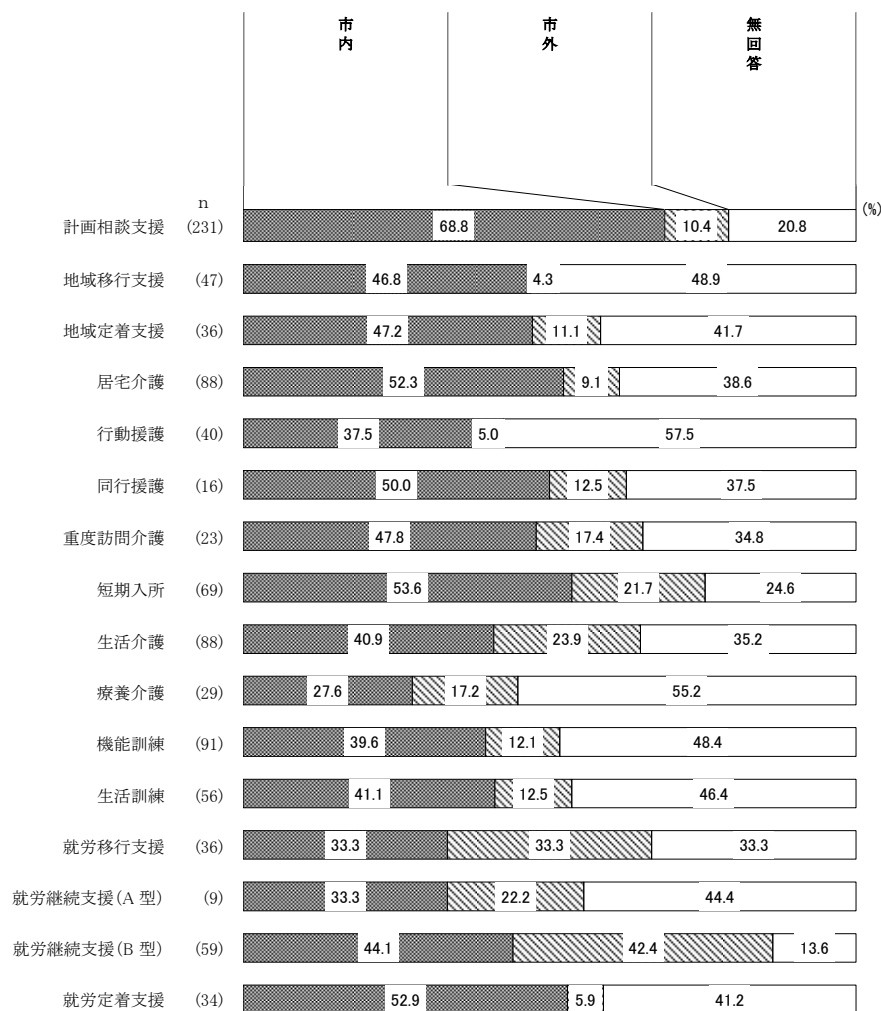


相談支援専門員の支援に不満の理由について聞いたところ、「必要とする情報の提供が受けられなかった」が4割以上（43.8%）で最も高かった。以下、「モニタリングで丁寧に状況の確認をしてくれなかった」（37.5%）、「書類作成などの事務手続きが複雑で、負担に感じた」（31.3%）、「自分が希望する生活や意向をしっかり聞いてもらえなかった」（25.0%）、「面接・相談をするのが、負担に感じた」（25.0%）、「サービスや制度についての説明が分かりにくかった」（18.8%）の順になっている。

(6) 利用している福祉サービス事業者の所在地

◆問7で「利用している」に○をつけた方におたずねします。  
 問14 利用しているサービスの事業者の所在地、満足度とその理由についておたずねします。

図4-6-1 利用している福祉サービス事業者の所在地 全体（次ページに続く）



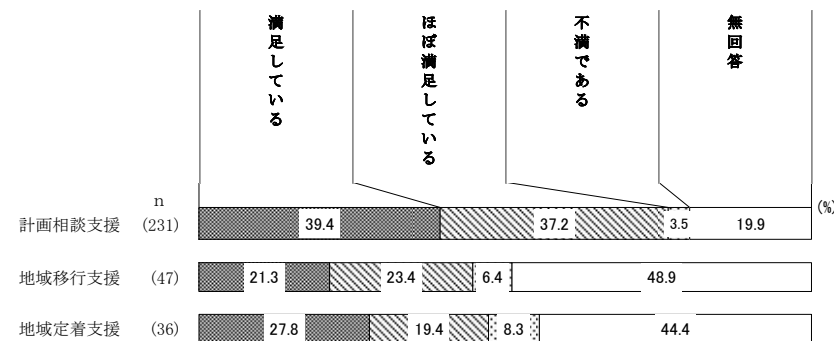
利用している福祉サービス事業者の所在について聞いたところ、「市内」と回答した割合が高い項目については、「計画相談支援」(68.8%)、「日中一時支援事業」(68.6%)となっている。

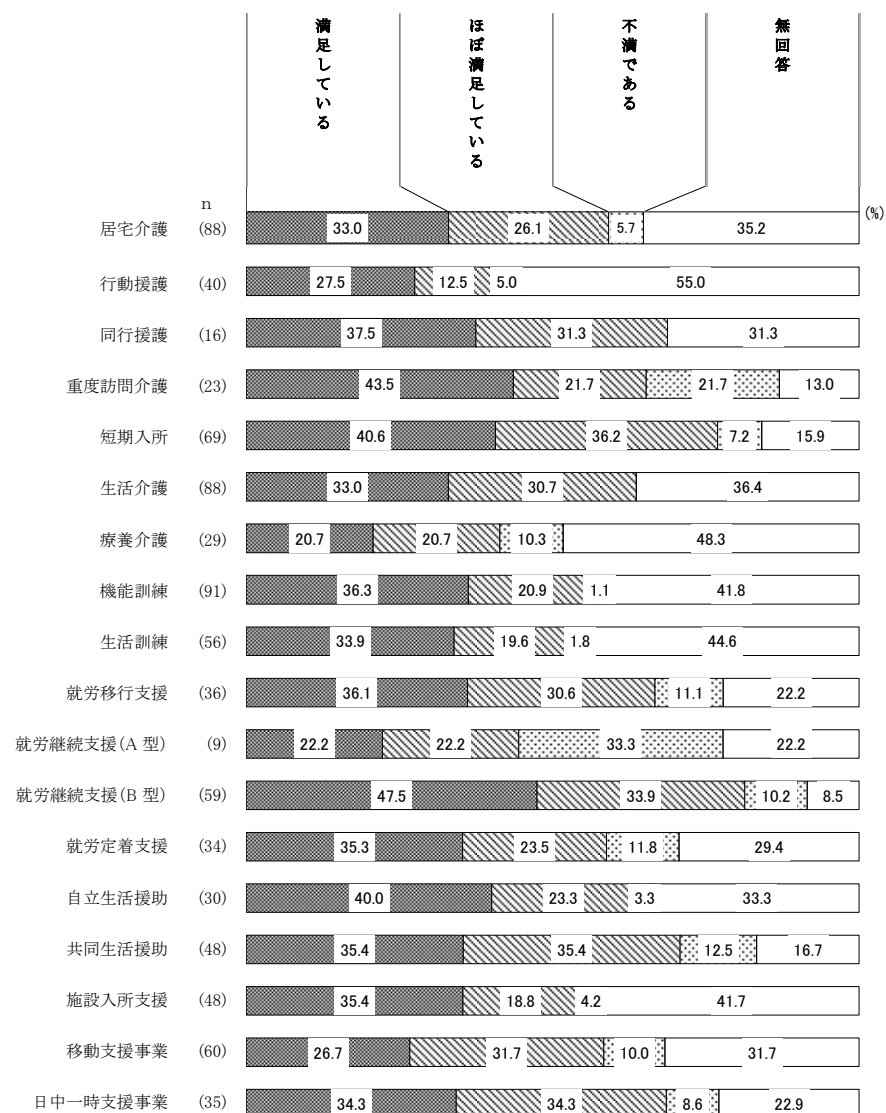
一方、「市外」と回答した割合が高い項目については、「就労継続支援(B型)」(42.4%)、「就労移行支援」(33.3%)となっている。

(7) 利用している福祉サービス事業者の満足度

◆問7で「利用している」に○をつけた方におたずねします。  
 問14 利用しているサービスの事業者の所在地、満足度とその理由についておたずねします。

図4-7-1 利用している福祉サービス事業者の満足度 全体（次ページに続く）





利用している福祉サービス事業者の満足度について聞いたところ、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた肯定的な回答の割合が高い項目については、「就労継続支援（B型）」（81.4%）、「短期入所」（76.8%）となっている。

一方、「不満である」と回答した割合が高い項目については、「重度訪問介護」（21.7%）、「共同生活援助」（12.5%）となっている。

(8) 利用している福祉サービス事業者に不満の理由

◆問7で「利用している」に○をつけた方におたずねします。  
問14 利用しているサービスの事業者の所在地、満足度とその理由についておたずねします。

表4-8-1 利用している福祉サービス事業者に不満の理由 全体

	全体 (n)	事業者のサービスの質	希望したサービス内容ではない	支給決定を受けたがサービスが受けられない	市内にサービス事業所が少ない、またはない	希望する時間にサービスが受けられない	無回答
計画相談支援	8	25.0	25.0	-	37.5	37.5	-
地域移行支援	3	-	-	-	33.3	33.3	33.3
地域定着支援	3	-	33.3	-	-	-	66.7
居宅介護	5	40.0	20.0	-	40.0	60.0	-
行動援護	2	-	-	-	50.0	50.0	-
同行援護	-	-	-	-	-	-	-
重度訪問介護	5	60.0	20.0	-	80.0	60.0	-
短期入所	5	20.0	20.0	-	40.0	80.0	-
生活介護	-	-	-	-	-	-	-
療養介護	3	33.3	-	-	-	66.7	-
機能訓練	1	-	-	-	-	100.0	-
生活訓練	1	-	-	-	-	100.0	-
就労移行支援	4	50.0	25.0	-	-	25.0	-
就労継続支援（A型）	3	33.3	33.3	-	-	33.3	33.3
就労継続支援（B型）	6	50.0	33.3	-	-	16.7	16.7
就労定着支援	4	25.0	50.0	-	-	25.0	25.0
自立生活援助	1	-	-	-	-	100.0	-
共同生活援助	6	66.7	33.3	-	-	16.7	-
施設入所支援	2	50.0	-	-	-	50.0	-
移動支援事業	6	-	-	16.7	33.3	66.7	-
日中一時支援事業	3	-	-	-	-	100.0	-

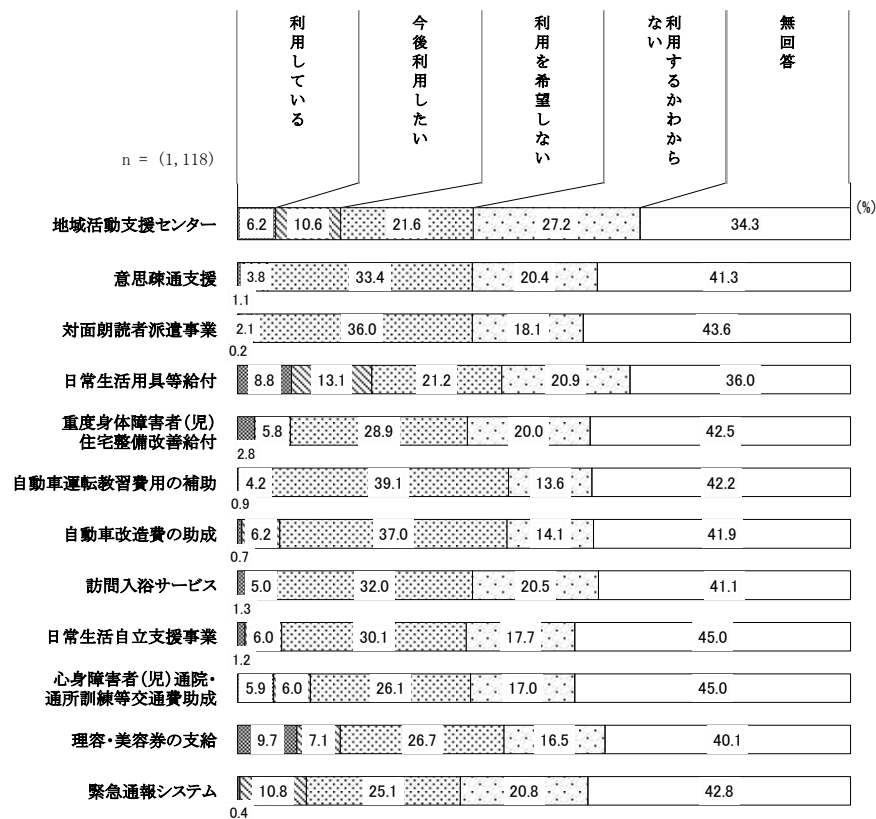
利用している福祉サービス事業者に不満の理由については、いずれの項目もnが少ないため参考値とする。

### 5. その他のサービスについて

#### (1) その他のサービスの利用状況・利用意向

問15 あなた（ご本人）は、次のようなサービスを利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。サービスごとに、利用状況または利用意向についてあてはまるものに○をしてください。

図5-1-1 その他のサービスの利用状況・利用意向 全体



その他の福祉サービスの利用状況・利用意向について聞いたところ、「利用している」と回答した割合が高い項目については、「理容・美容券の支給」(9.7%)、「日常生活用具等支給」(8.8%)、「地域活動支援センター」(6.2%)となっている。

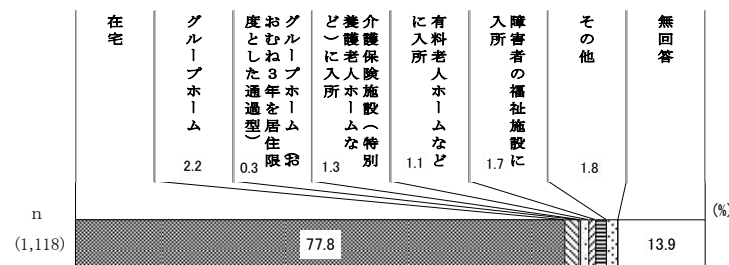
また、「今後利用したい」と回答した割合が高い項目については、「日常生活用具等給付」(13.1%)、「緊急通報システム」(10.8%)、「地域活動支援センター」(10.6%)となっている。

### 6. 住まいの場について

#### (1) 現在の住まい

問16 あなた（ご本人）は今どこで暮らしていますか。（1つに○）

図6-1-1 現在の住まい 全体

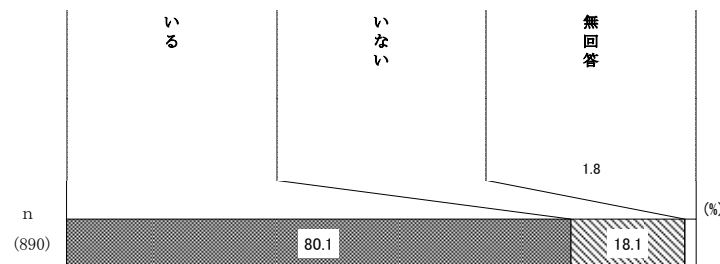


現在の住まいについて聞いたところ、「在宅」が8割近く(77.8%)で最も高かった。以下、「グループホーム」(2.2%)、「障害者の福祉施設に入所」(1.7%)、「介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入所」(1.3%)の順になっている。

#### (2) 同居人の有無

◆問16で「1. 在宅」または「7. その他」と答えた方におたずねします。  
問17 現在いっしょに住んでいる方はいますか

図6-2-1 同居人の有無 全体

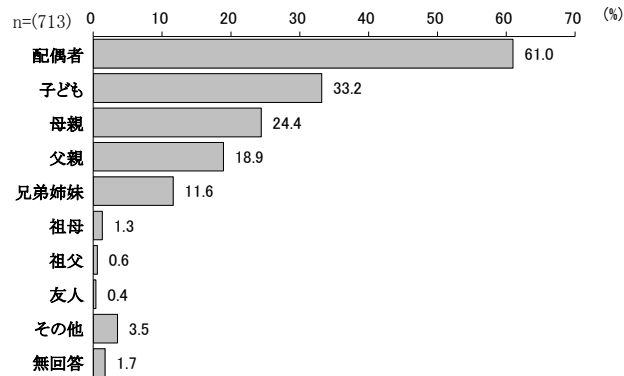


（3）同居人の属性

◆問17で「1. いる」と答えた方におたずねします。

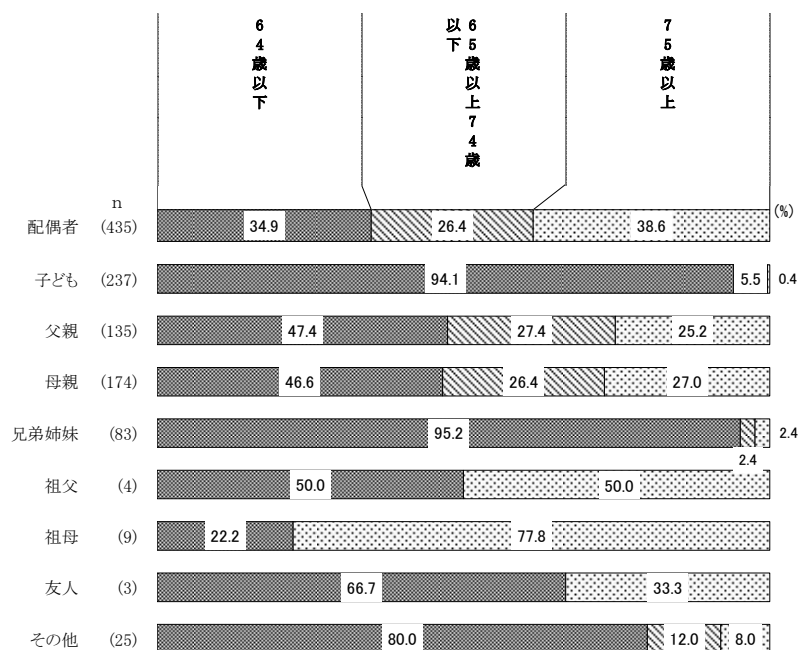
問18 あなた（ご本人）が、いっしょに住んでいる方について、該当する年齢区分に○をしてください。（あてはまるものすべてに○）また、いっしょに住んでいる方のうち、あなた（ご本人）の主な介助者をお答えください。

図6-3-1 同居人の属性（関係）全体



同居人の関係について聞いたところ、「配偶者」が約6割（61.0%）で最も高かった。以下、「子ども」（33.2%）、「母親」（24.4%）、「父親」（18.9%）の順になっている。

図6-3-2 同居人の属性（年齢）全体

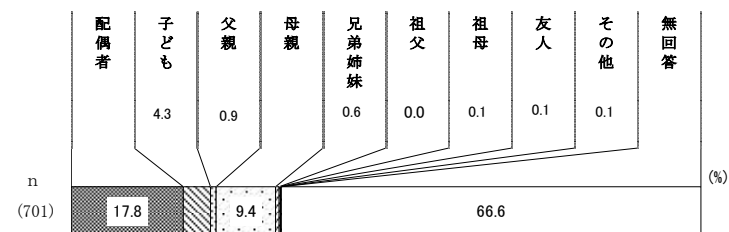


同居人の年齢について聞いたところ、「64歳以下」と回答した割合が高い項目については、「兄弟姉妹」と「子ども」で9割半ば（95.2%、94.1%）となっている。

また、「65歳以上74歳以下」と回答した割合が高い項目については、「父親」と「配偶者」、「母親」で3割近く（27.4%、26.4%、26.4%）になっている。

「75歳以上」と回答した割合が高い項目については、「配偶者」で4割近く（38.6%）、「母親」で3割近く（27.0%）、「父親」で2割半ば（25.2%）となっている。

図6-3-3 同居人のうちの主な介助者 全体

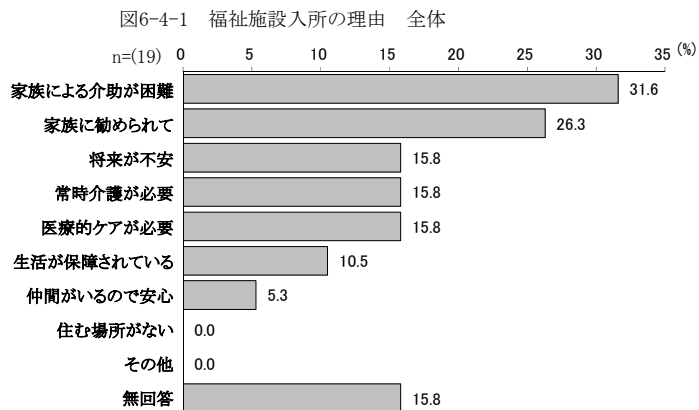


同居人のうちの主な介助者について聞いたところ、配偶者が2割近く（17.8%）で最も高かった。以下、「母親」（9.4%）、「子ども」（4.3%）の順になっている。



(4) 福祉施設入所の理由

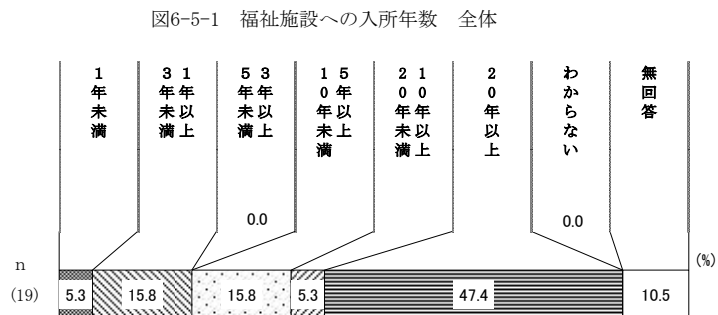
◆問16で「6. 障害者の福祉施設に入所」と答えた方におたずねします。  
問19 あなた（ご本人）が施設入所を決めた理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



福祉施設入居の理由について聞いたところ、「家族による介助が困難」が3割以上（31.6%）で最も高かった。次いで、「家族に勧められて」（26.3%）となっている。

(5) 福祉施設への入所年数

◆問16で「6. 障害者の福祉施設に入所」と答えた方におたずねします。  
問20 あなた（ご本人）は、今の施設に入ってからどれくらい（何年）になりますか。（1つに○）

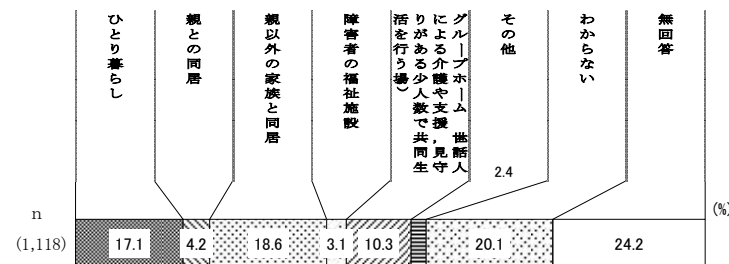


福祉施設への入居年数について聞いたところ、「20年以上」（47.4%）が最も高かった。以下、「1年以上3年未満」（15.8%）、「5年以上10年未満」（15.8%）の順になっている。

(6) 将来希望する暮らし

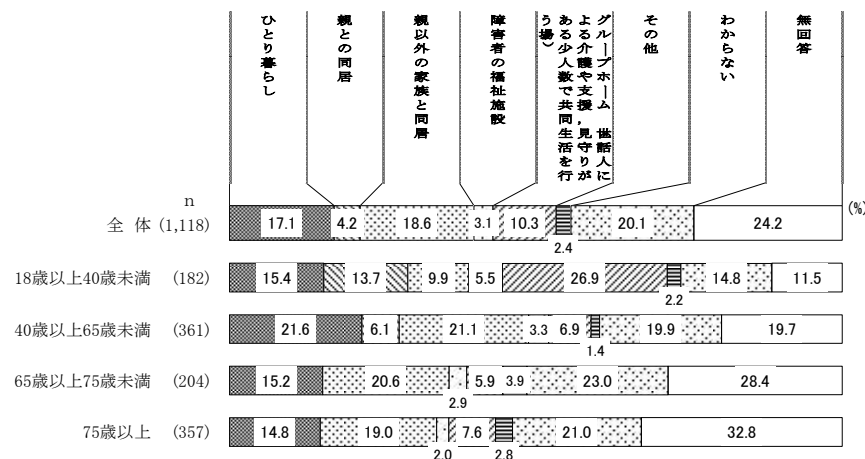
問21 あなた（ご本人）は、今後（将来）どのような暮らしを希望していますか。（1つに○）

図6-6-1 将来希望する暮らし 全体



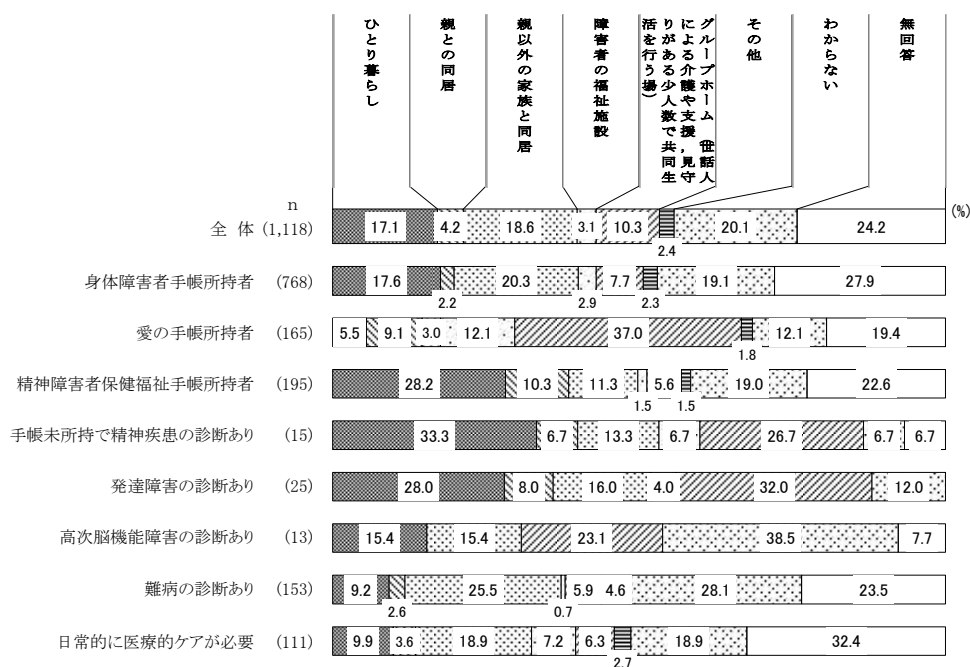
将来希望する暮らしについて聞いたところ、「わからない」が約2割（20.1%）で最も高かった。以下、「親以外の家族と同居」（18.6%）、「ひとり暮らし」（17.1%）、「グループホーム（世話人による介護や支援・見守りがある少人数で共同生活を行う場）」（10.3%）の順になっている。

図6-6-2 将来希望する暮らし 年齢別



年齢別にみると、「グループホーム（世話人による介護や支援・見守りがある少人数で共同生活を行う場）」については、18歳以上40歳未満が3割近く（26.9%）で全体に比べて高くなっている。また、「ひとり暮らし」については、40歳以上65歳未満が2割以上（21.6%）で高くなっている。「親以外の家族と同居」については、40歳以上65歳未満、65歳以上75歳未満、75歳以上で2割程度（21.1%、20.6%、19.0%）となっている。

図6-6-3 将来希望する暮らし 障害種別

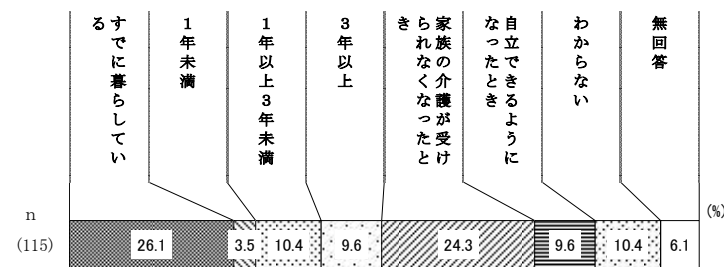


障害種別にみると、「グループホーム（世話人による介護や支援・見守りがある少人数で共同生活を行う場）」については、愛の手帳所持者が4割近く（37.0%）、発達障害の診断を受けている人が3割以上（32.0%）、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人が3割近く（26.7%）、高次脳機能障害の診断を受けている人が2割以上（23.1%）で全体に比べて高くなっている。また、「ひとり暮らし」については、精神疾患の診断を受けている人が3割以上（33.3%）、精神障害者保健福祉手帳所持者と発達障害の診断を受けている人が3割近く（28.2%、28.0%）、「親以外の家族と同居」については、難病の診断を受けている人が2割半ば（25.5%）で高くなっている。

(7) グループホームの利用を希望する時期

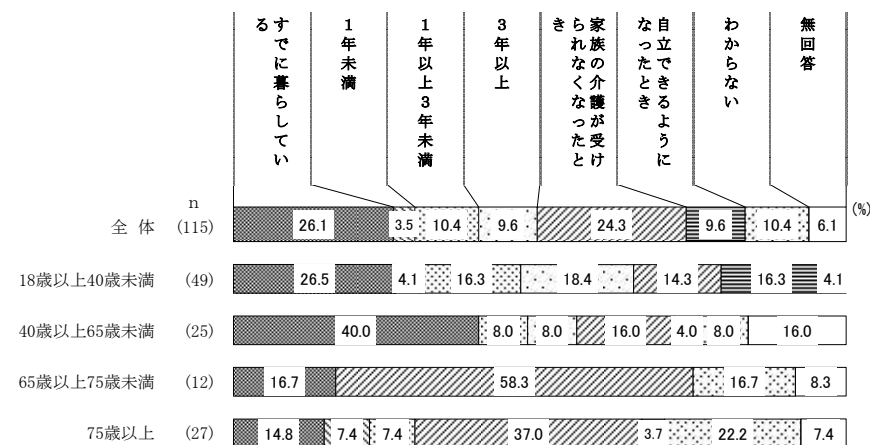
◆問21で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。  
問22 いつ頃からグループホームで暮らしたいと思っていますか。（1つに○）

図6-7-1 グループホームの利用を希望する時期 全体



グループホームの利用を希望する時期について聞いたところ、「すでに暮らしている」が3割近く（26.1%）で最も高かった。以下、「家族の介護が受けられなくなったとき」（24.3%）、「1年以上3年未満」（10.4%）、「わからない」（10.4%）の順になっている。

図6-7-2 グループホームの利用を希望する時期 年齢別



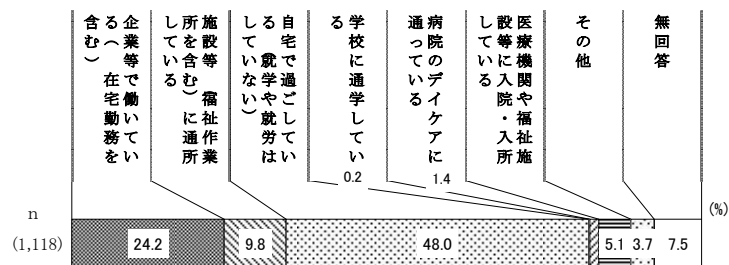
年齢別にみると、「家族の介護が受けられなくなったとき」については、65歳以上75歳未満が6割近く（58.3%）、75歳以上が4割近く（37.0%）で全体に比べて高くなっている。また、「すでに暮らしている」については、40歳以上65歳未満が4割（40.0%）で高くなっている。

7. 日中活動の場・就労について

(1) 平日昼間の過ごし方

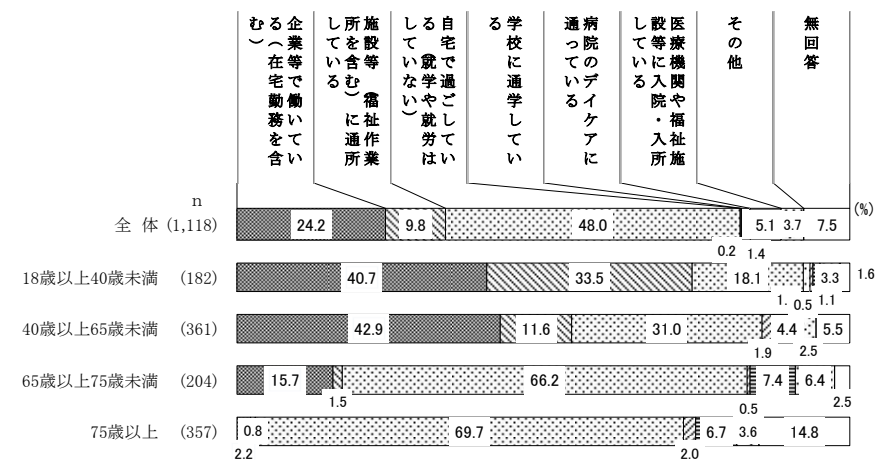
問23 あなた（ご本人）は、平日の昼間、どのように過ごしていますか。（主なものひとつに○）

図7-1-1 平日昼間の過ごし方 全体



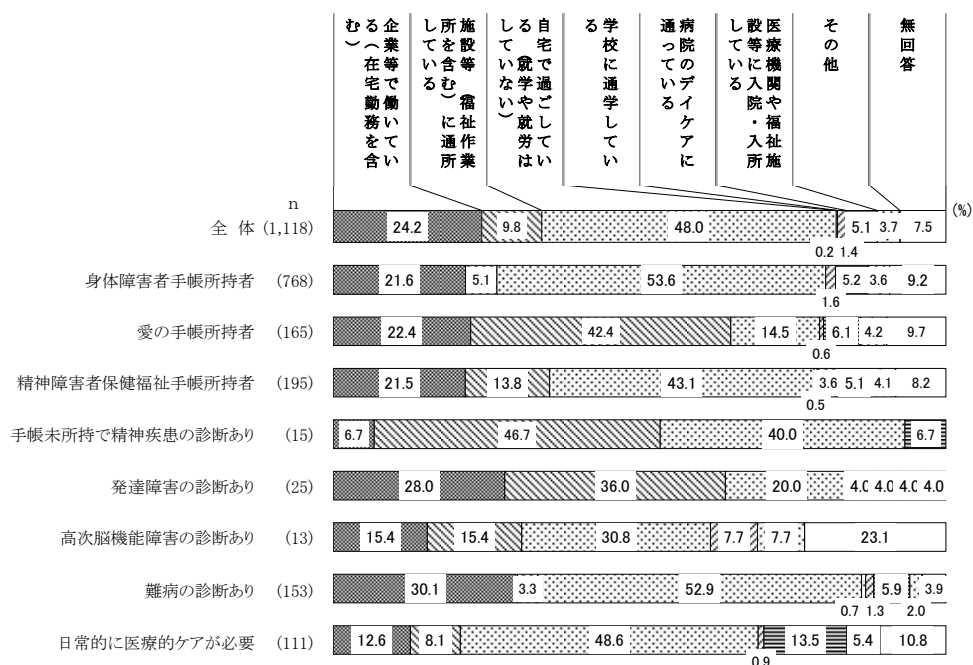
平日昼間の過ごし方について聞いたところ、「自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」が5割近く（48.0%）で最も高かった。以下、「企業等で働いている(在宅勤務を含む)」(24.2%)、「施設等（福祉作業所を含む）に通所している」(9.8%)の順になっている。

図7-1-2 平日昼間の過ごし方 年齢別



年齢別にみると、「自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」については、75歳以上が約7割（69.7%）、65歳以上75歳未満が7割近く（66.2%）で全体に比べて高くなっている。また、「企業等で働いている(在宅勤務を含む)」については、40歳以上65歳未満が4割以上（42.9%）、18歳以上40歳未満が約4割（40.7%）、「施設等（福祉作業所を含む）に通所している」については、18歳以上40歳未満が3割以上（33.5%）で高くなっている。

図7-1-3 平日昼間の過ごし方 障害種別

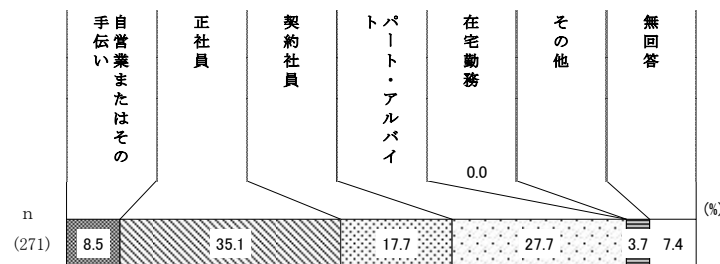


障害種別にみると、「施設等（福祉作業所を含む）に通所している」については、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人が5割近く（46.7%）、愛の手帳所持者が4割以上（42.4%）、発達障害の診断を受けている人が3割半ば（36.0%）で全体に比べて高くなっている。また、「自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」については、身体障害者手帳所持者と難病の診断を受けている人が5割以上（53.6%、52.9%）で高くなっている。

(2) 働き方

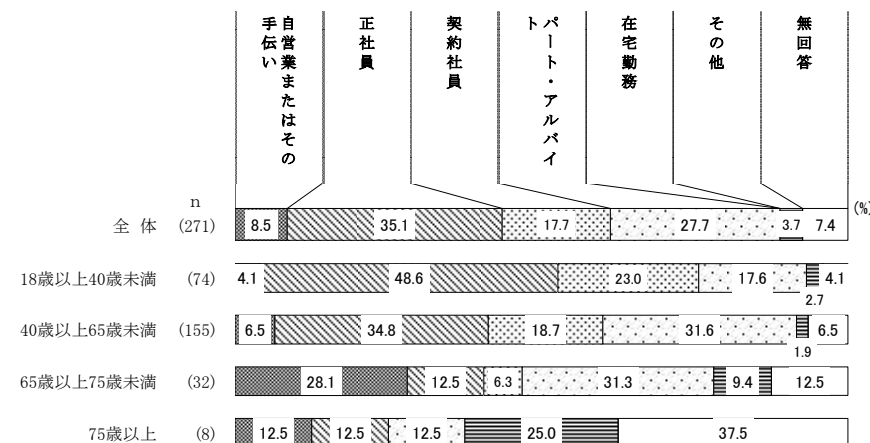
◆問23で「1. 企業等で働いている」と答えた方におたずねします。  
問24 あなた（ご本人）は、どのような働き方をしていますか。（1つに○）

図7-2-1 働き方 全体



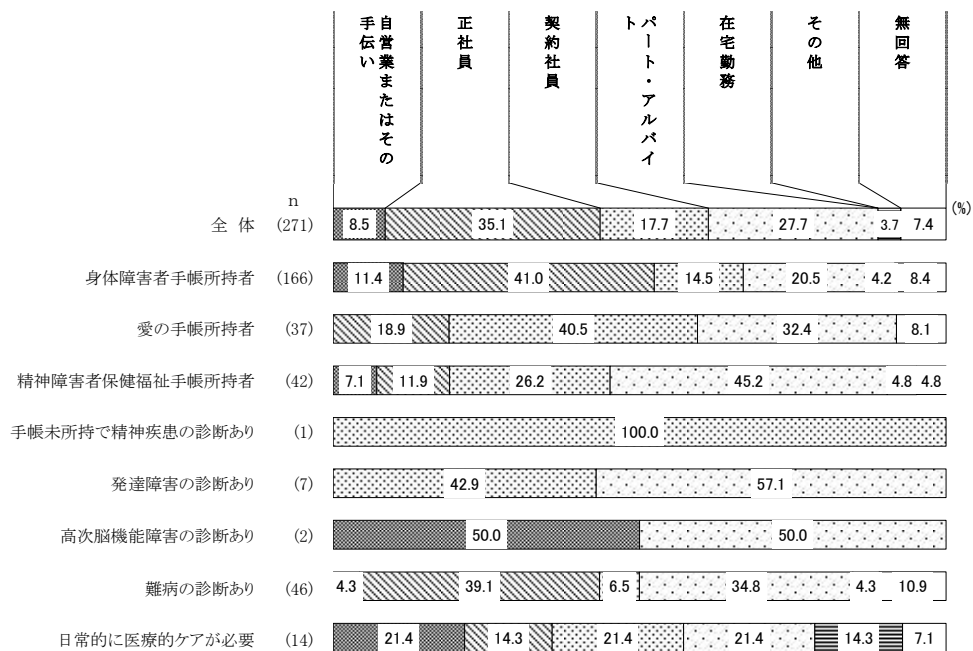
働き方について聞いたところ、「正社員」が3割半ば（35.1%）で最も高かった。以下、「パート・アルバイト」（27.7%）、「契約社員」（17.7%）、「自営業またはその手伝い」（8.5%）の順になっている。

図7-2-2 働き方 年齢別



年齢別にみると、「正社員」については、18歳以上40歳未満が5割近く（48.6%）で全体に比べて高くなっている。また、「自営業またはその手伝い」については、65歳以上75歳未満が3割近く（28.1%）で高くなっている。

図7-2-3 働き方 障害種別

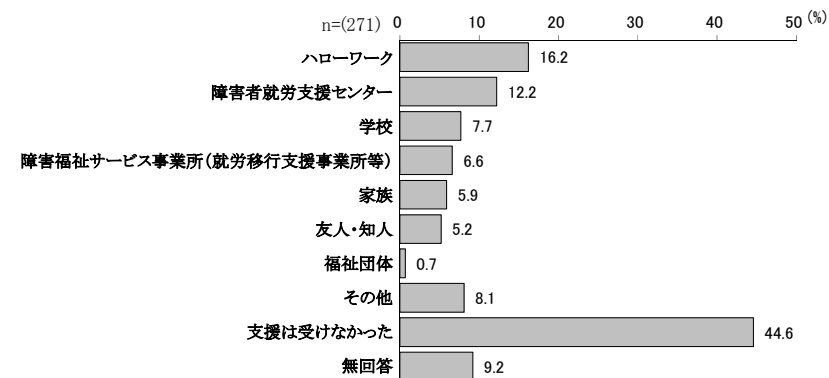


障害種別にみると、「正社員」については、身体障害者手帳所持者と難病の診断を受けている人が約4割（41.0%、39.1%）となっている。また、「契約社員」については、愛の手帳所持者が約4割（40.5%）、「パート・アルバイト」については、精神障害者保健福祉手帳所持者が4割半ば（45.2%）で全体に比べて高くなっている。

（3）就職支援の窓口

◆問23で「1. 企業等で働いている」と答えた方におたずねします。  
問25 どこ（だれ）の支援を受けて仕事に就きましたか。（あてはまるものすべてに○）

図7-3-1 就職支援の窓口 全体

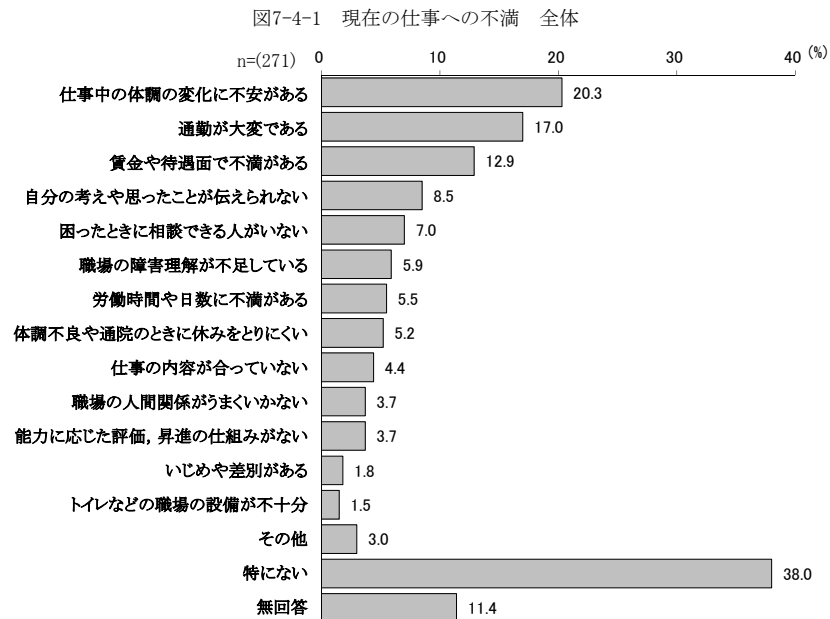


就職支援の窓口について聞いたところ、「支援は受けなかった」は4割半ば（44.6%）を占めている。一方、具体的な選択肢の中では、「ハローワーク」が2割近く（16.2%）で最も高かった。以下、「障害者就労支援センター」（12.2%）、「学校」（7.7%）の順になっている。

（4）現在の仕事への不満

◆問23で「1. 企業等で働いている」と答えた方におたずねします。

問26 現在の仕事について、どのような悩みや不満がありますか。（主なもの3つまで○）

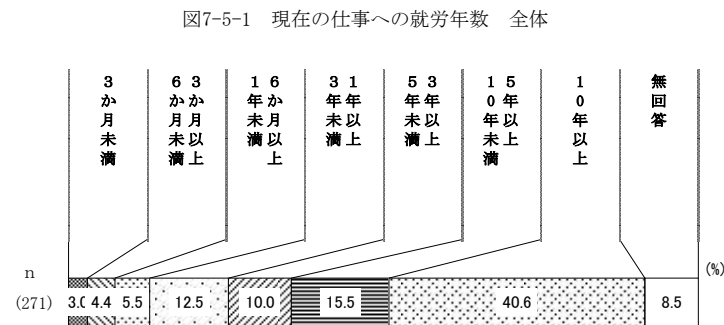


現在の仕事への不満について聞いたところ、「特にない」が4割近く（38.0%）を占めている。一方、具体的な選択肢の中では、「仕事中の体調の変化に不安がある」が約2割（20.3%）で最も高かった。以下、「通勤が大変である」（17.0%）、「賃金や待遇面で不満がある」（12.9%）の順になっている。

（5）現在の仕事への就労年数

◆問23で「1. 企業等で働いている」と答えた方におたずねします。

問27 現在の仕事に就いてからの期間はどれくらいですか。（1つに○）



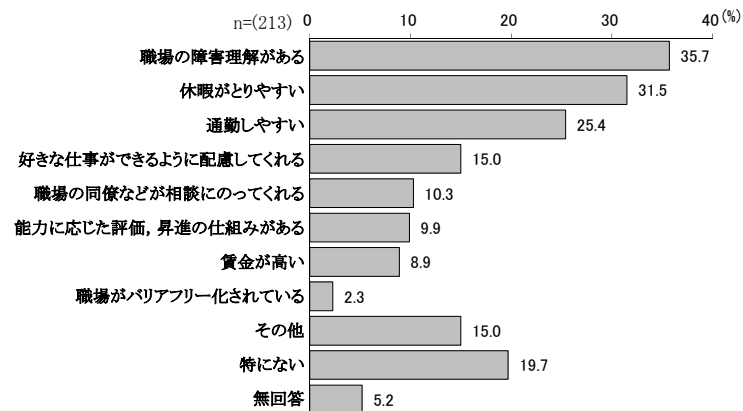
現在の仕事への就労年数について聞いたところ、「10年以上」が約4割（40.6%）で最も高かった。以下、「5年以上10年未満」（15.5%）、「1年以上3年未満」（12.5%）、「3年以上5年未満」（10.0%）の順になっている。

（6）現在の仕事を継続している理由

◆問27で「4. 1年以上3年未満」「5. 3年以上5年未満」「6. 5年以上10年未満」「7. 10年以上」と答えた方におたずねします。

問28 現在の仕事を継続できている理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

図7-6-1 現在の仕事を継続している理由 全体



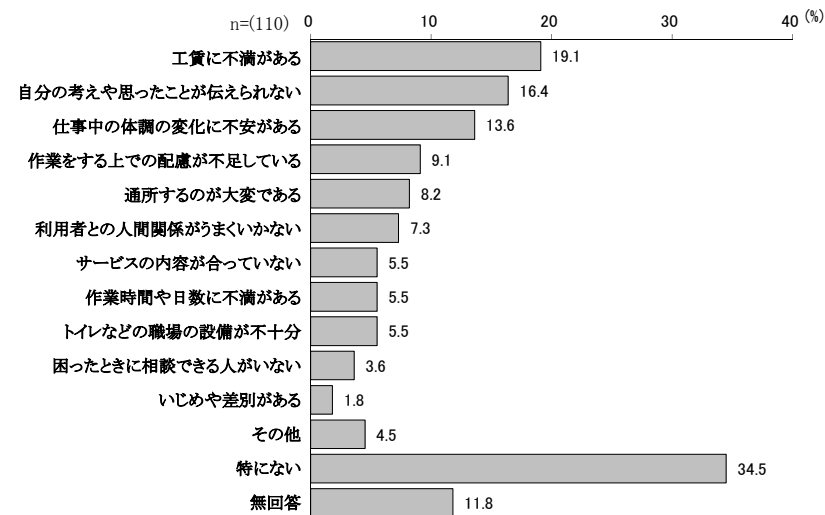
現在の仕事を継続している理由について聞いたところ、「職場の障害理解がある」が3割半ば（35.7%）で最も高かった。以下、「休暇がとりやすい」（31.5%）、「通勤しやすい」（25.4%）の順になっている。

（7）施設等に通所するうえでの不満

◆問23で「2. 施設等（福祉作業所を含む）に通所している」と答えた方におたずねします。

問29 通所するうえでどのような悩みや不満がありますか。（主なもの3つまで○）

図7-7-1 施設等に通所するうえでの不満 全体

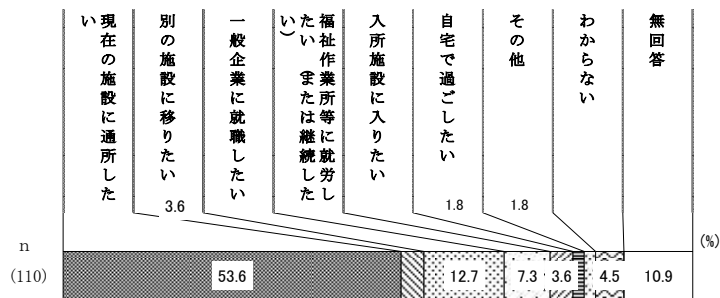


施設等に通所するうえでの不満について聞いたところ、「特にない」が3割半ば（34.5%）を占めている。一方、具体的な選択肢の中では、「工賃に不満がある」が約2割（19.1%）でも最も高かった。以下、「自分の考えや思ったことが伝えられない」（16.4%）、「仕事中の体調の変化に不安がある」（13.6%）の順になっている。

（8）今後の過ごし方の希望

◆問23で「2. 施設等（福祉作業所を含む）に通所している」と答えた方におたずねします。  
問30 あなた（ご本人）は、今後どのような過ごし方を希望していますか。（1つに○）

図7-8-1 今後の過ごし方の希望 全体

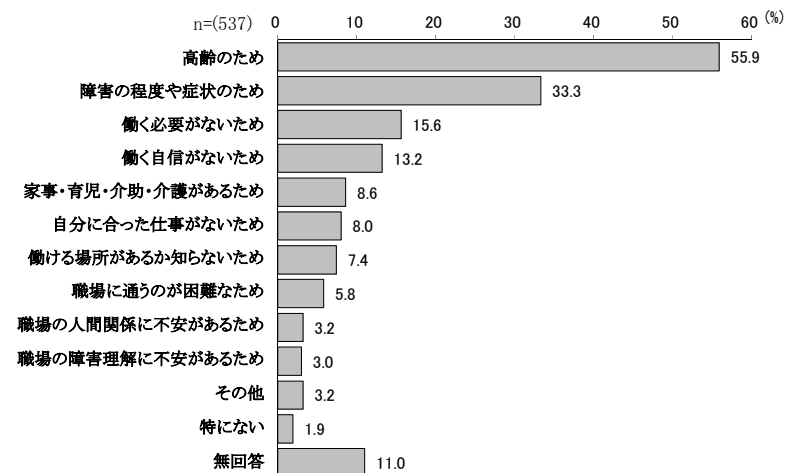


今後の過ごし方の希望について聞いたところ、「現在の施設に通所したい」が5割以上（53.6%）で最も高かった。以下、「一般企業に就職したい」（12.7%）、「福祉作業所等に就労したい（または継続したい）」（7.3%）の順になっている。

（9）就労や就学をしていない理由

◆問23で「3. 自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」と答えた方におたずねします。  
問31 就学や就労をしていない理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

図7-9-1 就労や就学をしていない理由 全体



就労や就学をしていない理由について聞いたところ、「高齢のため」が5割半ば（55.9%）で最も高かった。以下、「障害の程度や症状のため」（33.3%）、「働く必要がないため」（15.6%）、「働く自信がないため」（13.2%）の順になっている。



（10）将来における一般企業への就職希望の有無

◆問23で「3. 自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」と答えた方におたずねします。

問32 あなた（ご本人）は将来、一般企業で働きたいですか。（1つに○）

図7-10-1 将来における一般企業への就職希望の有無 全体

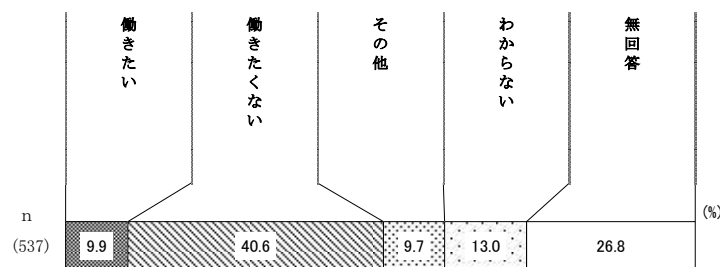
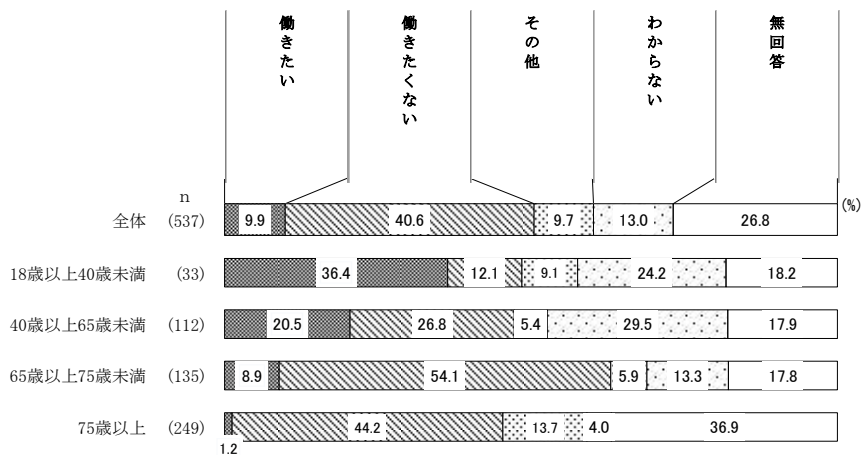
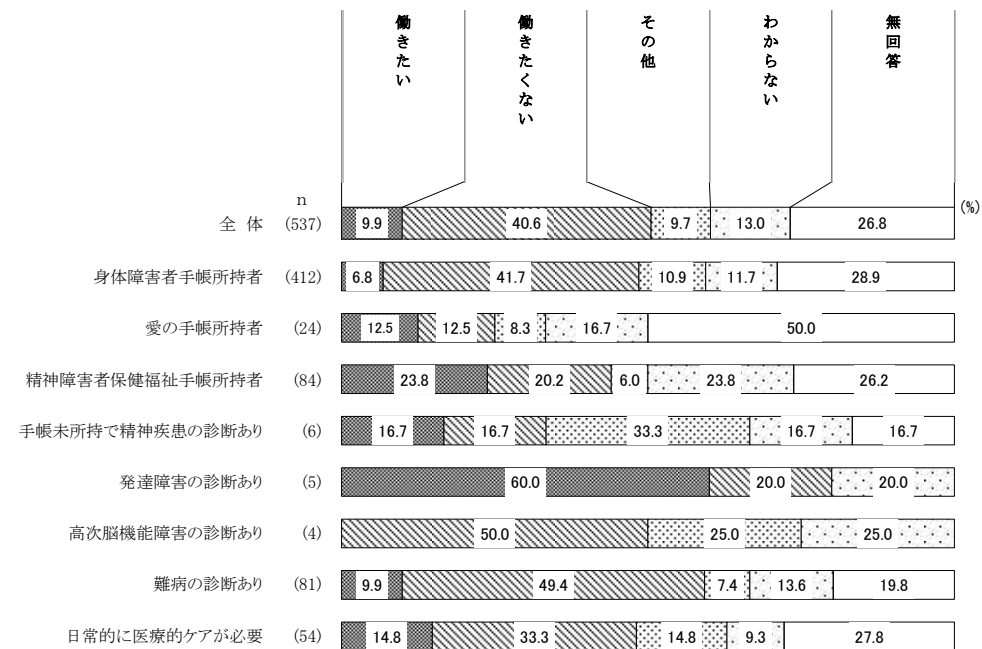


図7-10-2 将来における一般企業への就職希望の有無 年齢別



年齢別にみると、「働きたい」については、18歳以上40歳未満が4割近く（36.4%）、40歳以上65歳未満が約2割（20.5%）で全体的に比べて高くなっている。

図7-10-2 将来における一般企業への就職希望の有無 障害種別



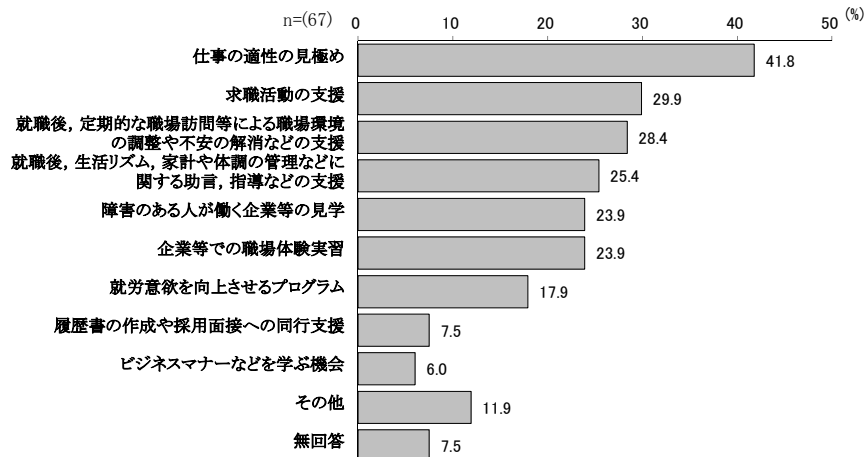
障害種別にみると、「働きたい」については、精神障害者保健福祉手帳所持者が2割以上（23.8%）で全体に比べて高くなっている。

（11）一般企業への就職・継続するために必要だと思うこと

◆問30で「3. 一般企業に就職したい」または問32で「1. 働きたい」と答えた方におたずねします。

問33 あなた（ご本人）が、一般企業に就職し、働き続けるために必要だと思うことは何ですか。（主なもの3つまで○）

図7-11-1 一般企業への就職・継続するために必要だと思うこと 全体

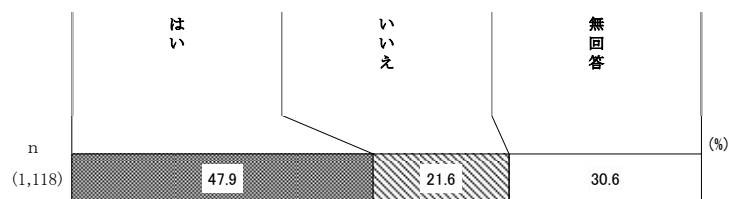


一般企業への就職・継続するために必要だと思うことについて聞いたところ、「仕事の適性を見極め」が4割以上（41.8%）で最も高かった。以下、「求職活動の支援」（29.9%）、「就職後、定期的な職場訪問等による職場環境の調整や不安の解消などの支援」（28.4%）、「就職後、生活リズム、家計や体調の管理などに関する助言、指導などの支援」（25.4%）の順になっている。

（12）退職経験の有無

問34 あなた（ご本人）は仕事を退職したことがありますか。

図7-12-1 退職経験の有無 全体

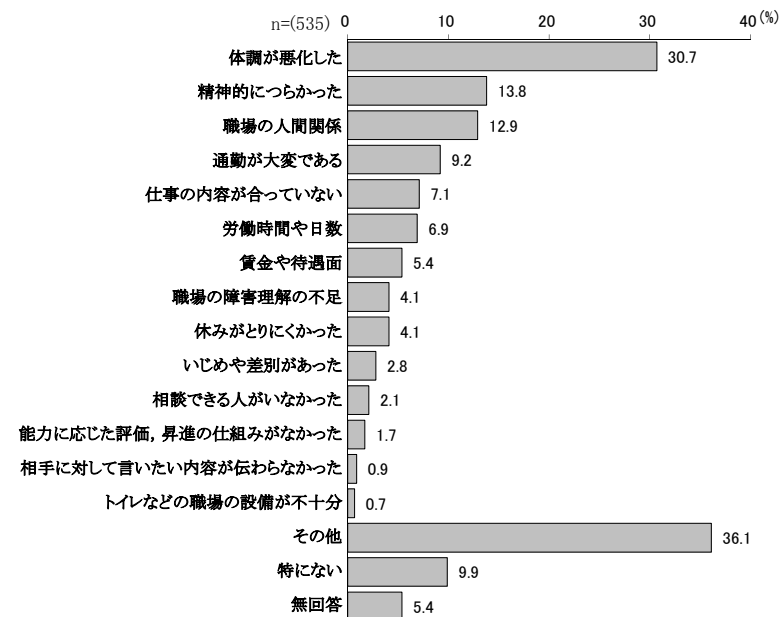


（13）退職の理由

◆問34で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問35 退職した理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

図7-13-1 退職の理由 全体

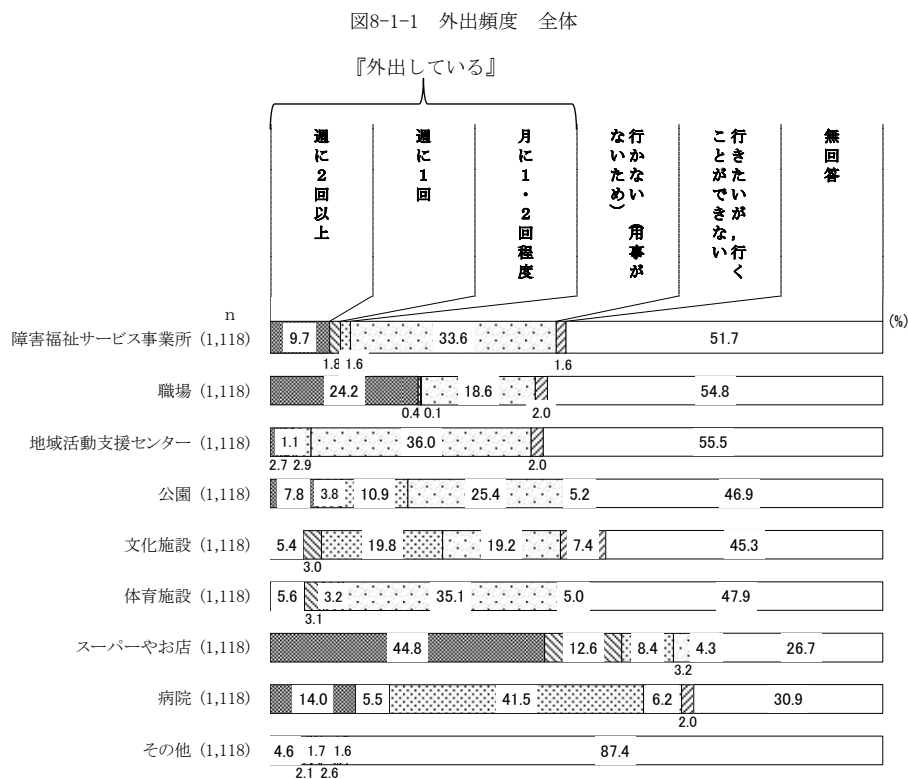


退職の理由について聞いたところ、「体調が悪化した」が約3割（30.7%）で最も高かった。以下、「精神的につらかった」（13.8%）、「職場の人間関係」（12.9%）、「通勤が大変である」（9.2%）の順になっている。また、「その他」（36.1%）では、具体的に「定年のため」などが多く記載されていた。

### 8. 外出について

#### (1) 外出頻度

問36 あなた（ご本人）の外出頻度についておたずねします。外出先ごとに、あてはまるものに○をしてください。また、「行きたいが、行くことができない」と答えた方はその理由について、あてはまるものすべてに○をしてください



外出頻度について聞いたところ、「週に2回以上」と「週に1回」、「月に1・2回程度」を合わせた『外出している』と回答した割合が高い項目については、「スーパーやお店」(65.8%)、「病院」(61.0%)、「文化施設」(28.2%)となっている。特に「スーパーやお店」については、「週に2回以上」が4割半ば(44.8%)となっている。

#### (2) 外出をしたくてもできない理由

問36 あなた（ご本人）の外出頻度についておたずねします。外出先ごとに、あてはまるものに○をしてください。また、「行きたいが、行くことができない」と答えた方はその理由について、あてはまるものすべてに○をしてください

表8-2-1 外出をしたくてもできない理由 全体

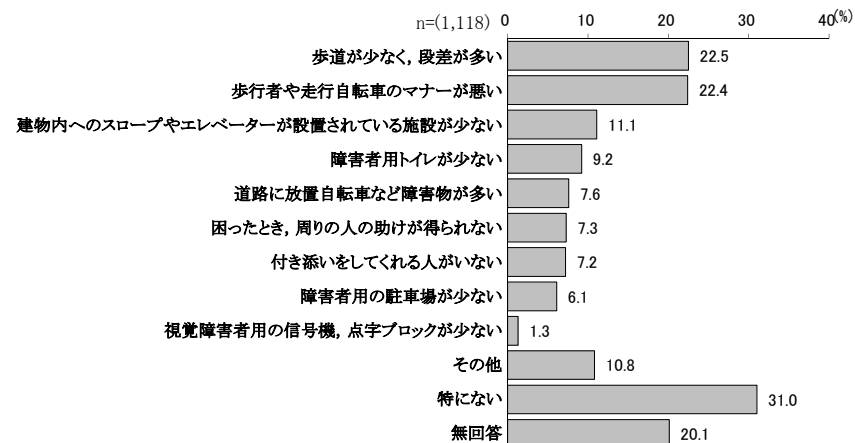
	全体 (n)	体力に自信がない	移動の手段の確保が困難	施設等がバリアフリー化されていない	介助者がいない	外出に要する費用を負担できない	無回答
障害福祉サービス事業所	18	38.9	33.3	5.6	11.1	16.7	16.7
職場	22	77.3	13.6	9.1	4.5	9.1	13.6
地域活動支援センター(つばさ・虹・ブラッツ)	22	45.5	36.4	0.0	18.2	4.5	13.6
公園	58	48.3	29.3	6.9	22.4	6.9	17.2
文化施設(映画館・劇場・図書館など)	83	47.0	33.7	8.4	24.1	12.0	14.5
体育施設	56	50.0	23.2	5.4	14.3	12.5	21.4
スーパーやお店(買い物など)	48	52.1	25.0	10.4	22.9	8.3	16.7
病院(リハビリや訓練を含む)	22	22.7	27.3	0.0	9.1	18.2	36.4
その他	18	44.4	22.2	5.6	27.8	33.3	16.7

外出をしたくてもできない理由について聞いたところ、「病院(リハビリや訓練を含む)」を除く全ての場所において、「体力に自信がない」と回答した割合が一番高くなっている。また、「病院(リハビリや訓練を含む)」では、「移動の手段の確保が困難」と回答した割合が一番高くなっている。

(3) 外出時に感じる困難や不便

問37 あなた（ご本人）は、外出するとき、どのようなことに不便や困難を感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

図8-3-1 外出時に感じる困難や不便 全体



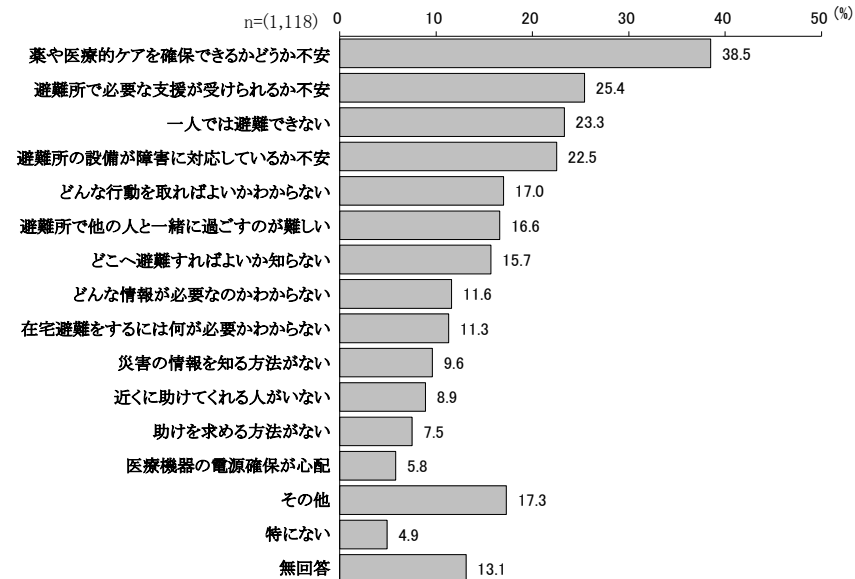
外出時に感じる困難や不便について聞いたところ、「特にない」が約3割（31.0%）を占めている。一方、具体的な選択肢の中では、「歩道が少なく、段差が多い」と「歩行者や走行自転車のマナーが悪い」が2割以上（22.5%、22.4%）で特に高くなっている。以下、「建物内へのスロープやエレベーターが設置されている施設が少ない」（11.1%）の順になっている。

9. 災害への備えについて

(1) 災害発生時に困ることや不安に感じること

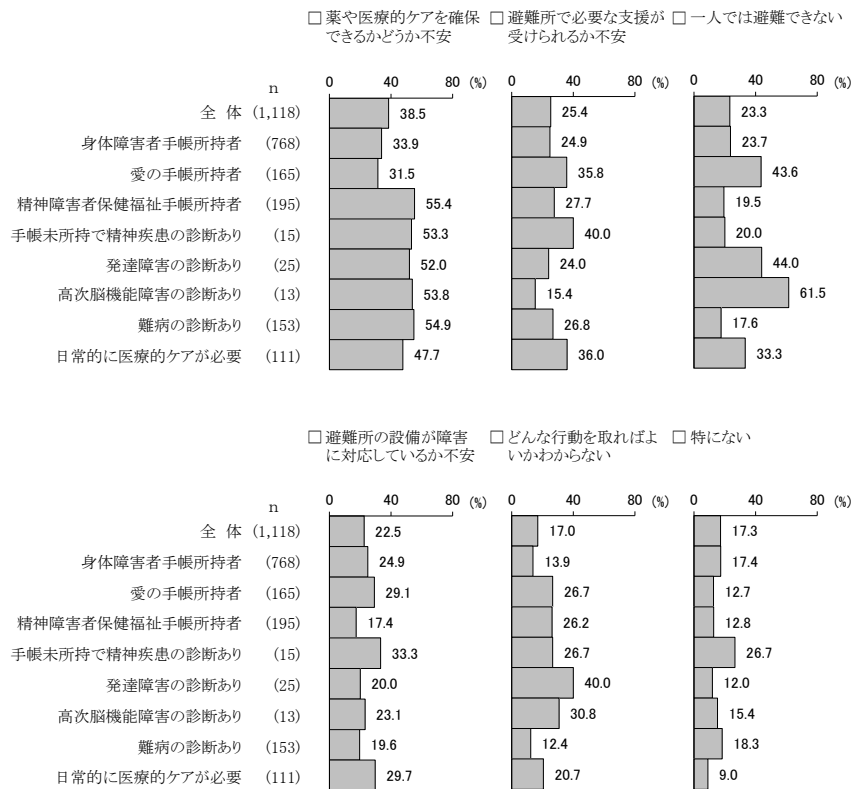
問38 あなた（ご本人）が、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図9-1-1 災害発生時に困ることや不安に感じること 全体



災害発生時に困ることや不安に感じることについて聞いたところ、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が4割近く（38.5%）で最も高かった。以下、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（25.4%）、「一人では避難できない」（23.3%）、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」（22.5%）の順になっている。

図9-1-2 災害発生時に困ることや不安に感じること 障害種別（上位6項目・その他除く）

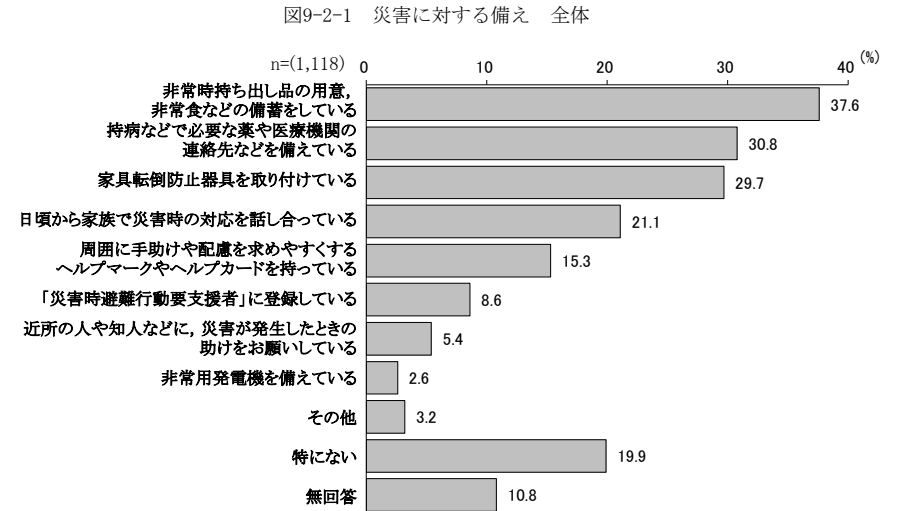


障害種別にみると、「一人では避難できない」については、高次脳機能障害の診断を受けている人（61.5%）、発達障害の診断を受けている人（44.0%）、愛の手帳所持者（43.6%）が全体に比べて高くなっている。また、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」については、精神障害者保健福祉手帳所持者（55.4%）、難病の診断を受けている人（54.9%）、高次脳機能障害の診断を受けている人（53.8%）、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人（53.3%）、発達障害の診断を受けている人（52.0%）が高くなっている。

「避難所で必要な支援が受けられるか不安」については、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人（40.0%）、日常的に医療的ケアが必要な人（36.0%）、愛の手帳所持者（35.8%）、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」については、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人（33.3%）、「どんな行動を取ればよいかわからない」については、発達障害の診断を受けている人（40.0%）が高くなっている。

（2）災害に対する備え

問39 あなた（ご本人）は、災害に対してどのような備えをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

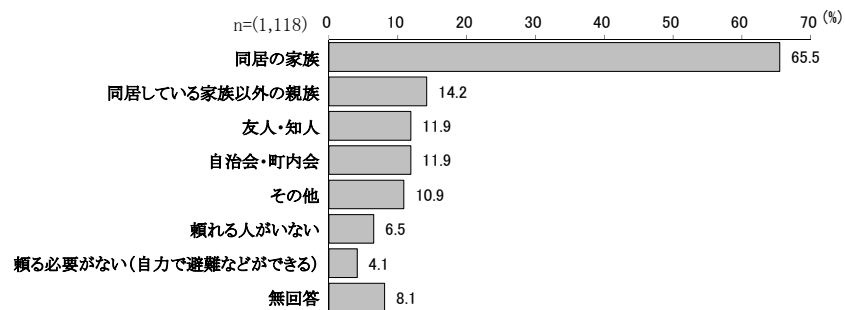


災害に対する備えについて聞いたところ、「非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている」が4割近く（37.6%）で最も高かった。以下、「持病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」（30.8%）、「家具転倒防止器具を取り付けている」（29.7%）、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」（21.1%）の順になっている。

（3）災害発生時に頼れる人

問40 あなた（ご本人）が、地震や水害などが発生したときに、安全の確保などで頼れる人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

図9-3-1 災害発生時に頼れる人 全体



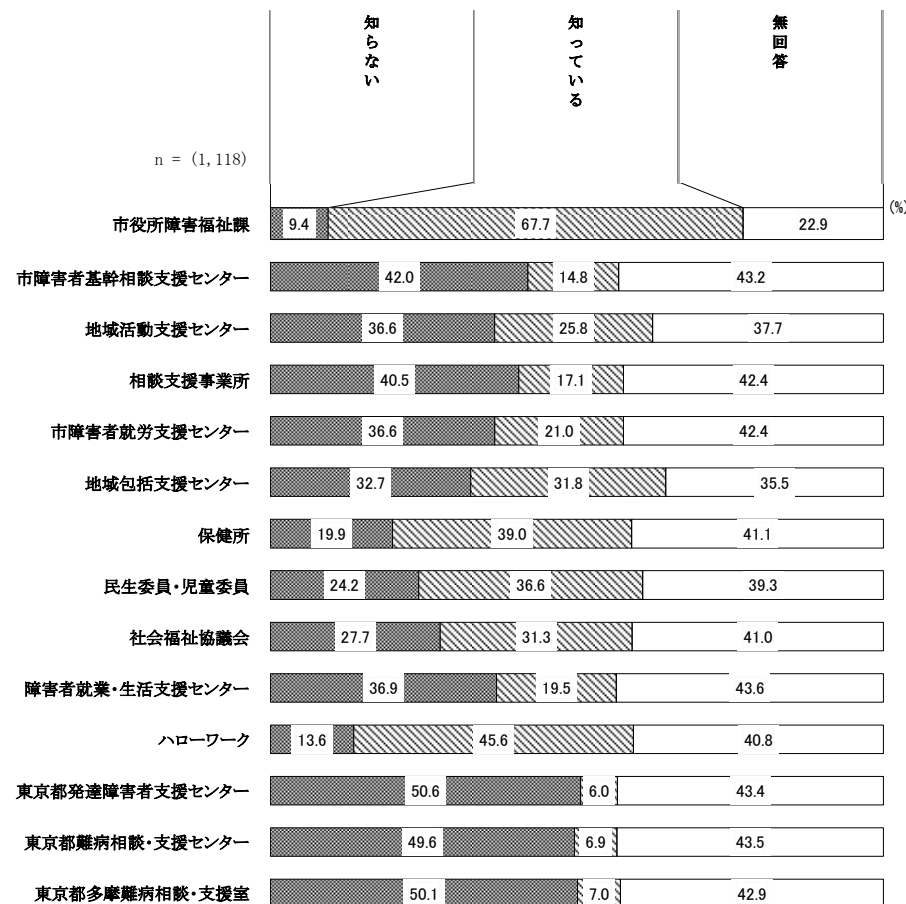
災害発生時に頼れる人について聞いたところ、「同居の家族」が6割半ば（65.5%）で突出して高かった。以下、「同居している家族以外の親族」（14.2%）、「友人・知人」（11.9%）、「自治会・町内会」（11.9%）の順になっている。

10. 相談や福祉の情報について

（1）福祉の窓口相談・機関の認知度

問41 あなた（ご本人）が知っている、または利用したことがある相談窓口・機関はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

図10-1-1 福祉の相談窓口・機関の認知度 全体

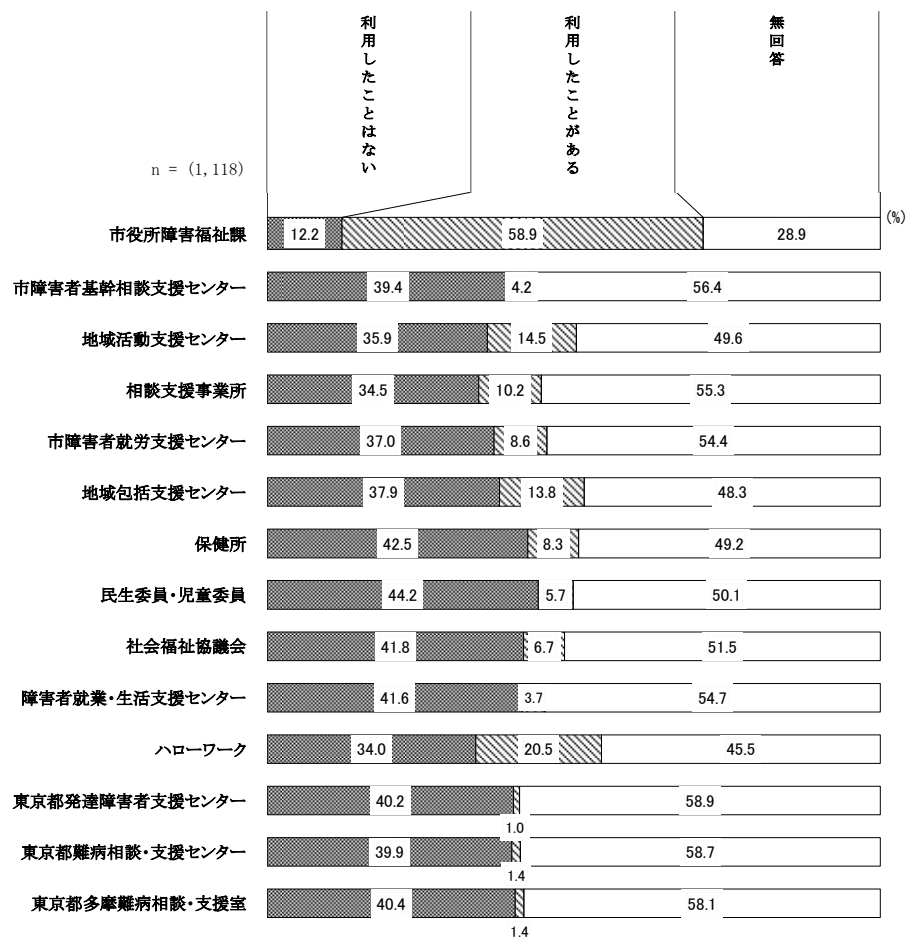


福祉の相談窓口・機関の認知度について聞いたところ、「知っている」と回答した割合が高い項目については、「市役所障害福祉課」（67.7%）、「ハローワーク」（45.6%）、「保健所」（39.0%）となっている。

(2) 福祉の窓口相談・機関の利用経験の有無

問41 あなた（ご本人）が知っている、または利用したことがある相談窓口・機関はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

図10-2-1 福祉の窓口相談・機関の利用経験の有無 全体

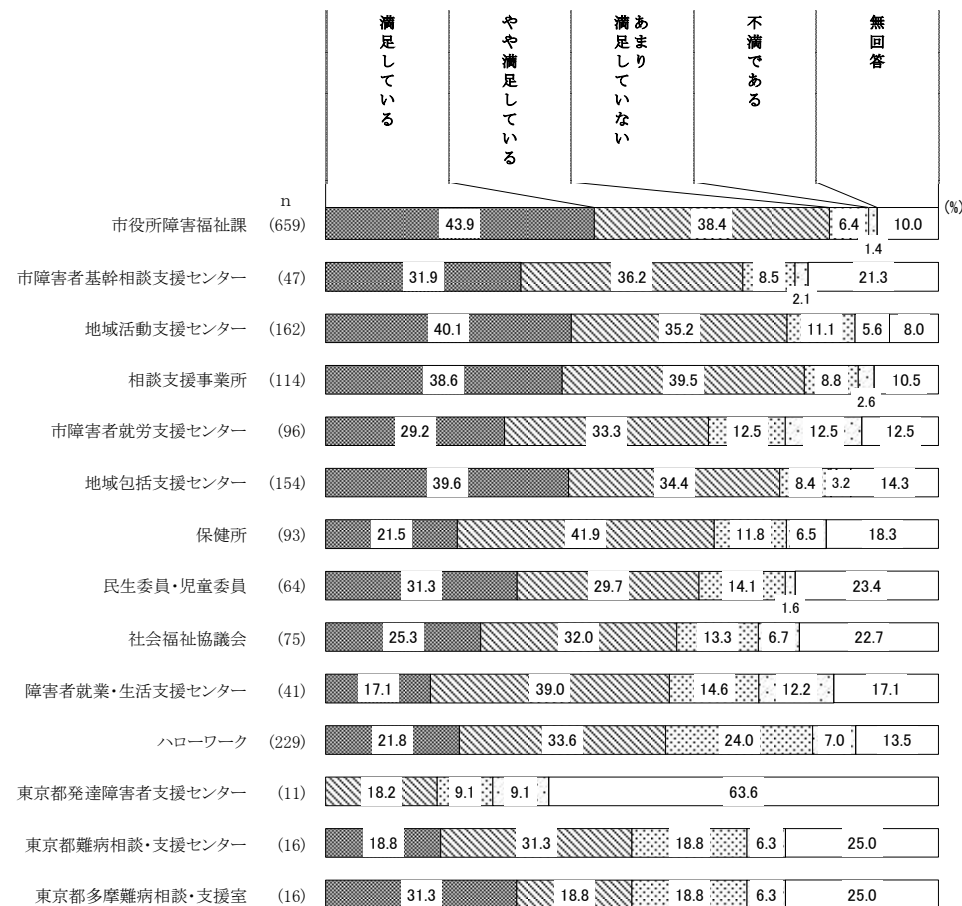


福祉の窓口相談・機関の利用経験の有無について聞いたところ、「利用したことがある」と回答した割合が高い項目については、「市役所障害福祉課」（58.9%）、「ハローワーク」（20.5%）、「地域活動支援センター」（14.5%）となっている。

(3) 福祉の窓口相談・機関の満足度

問41 あなた（ご本人）が知っている、または利用したことがある相談窓口・機関はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

図10-3-1 福祉の相談窓口・機関の満足度 全体



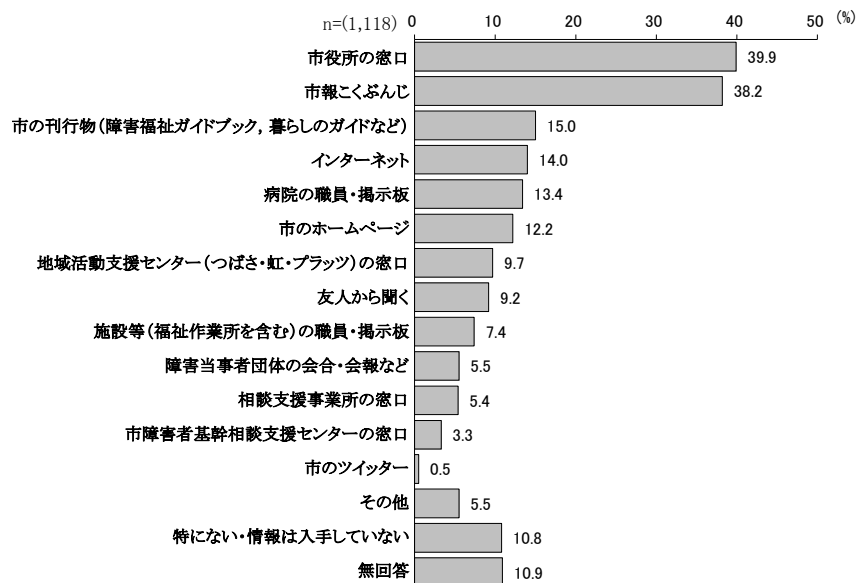
福祉の相談窓口・機関の満足度について聞いたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的な回答の割合が高い項目については、「市役所障害福祉課」（82.3%）、「相談支援事業所」（78.1%）、「地域活動支援センター」（75.3%）となっている。

一方、「あまり満足していない」と「不満である」を合わせた回答の割合が高い項目については、「ハローワーク」（31.0%）、「障害者就業・生活支援センター」（26.8%）、「東京都難病相談・支援センター」（25.1%）、「東京都多摩難病相談・支援室」（25.1%）となっている。

（4）福祉サービス等の情報の入手経路

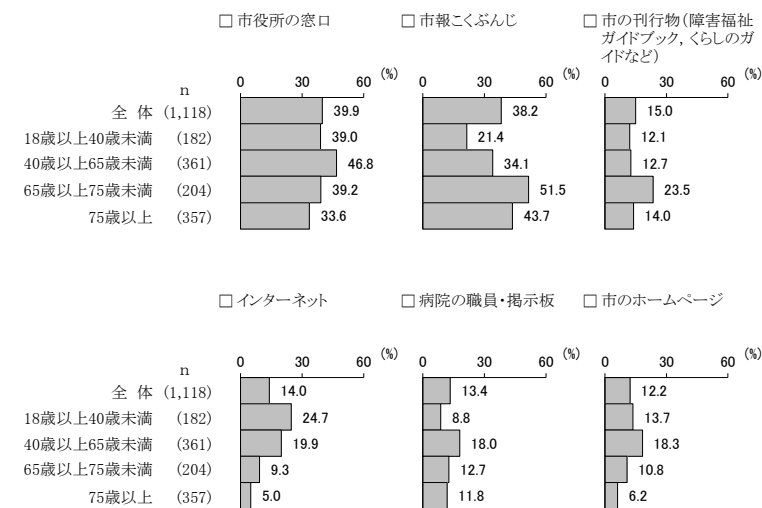
問42 あなた（ご本人）は、福祉サービス等に関する情報をどこから入手していますか。  
（あてはまるものすべてに○）

図10-4-1 福祉サービス等の情報の入手経路 全体



福祉サービス等の情報の入手経路について聞いたところ、「市役所の窓口」が約4割（39.9%）で最も高かった。以下、「市報こくぶんじ」（38.2%）、「市の刊行物（障害福祉ガイドブック、暮らしのガイドなど）」（15.0%）、「インターネット」（14.0%）の順になっている。

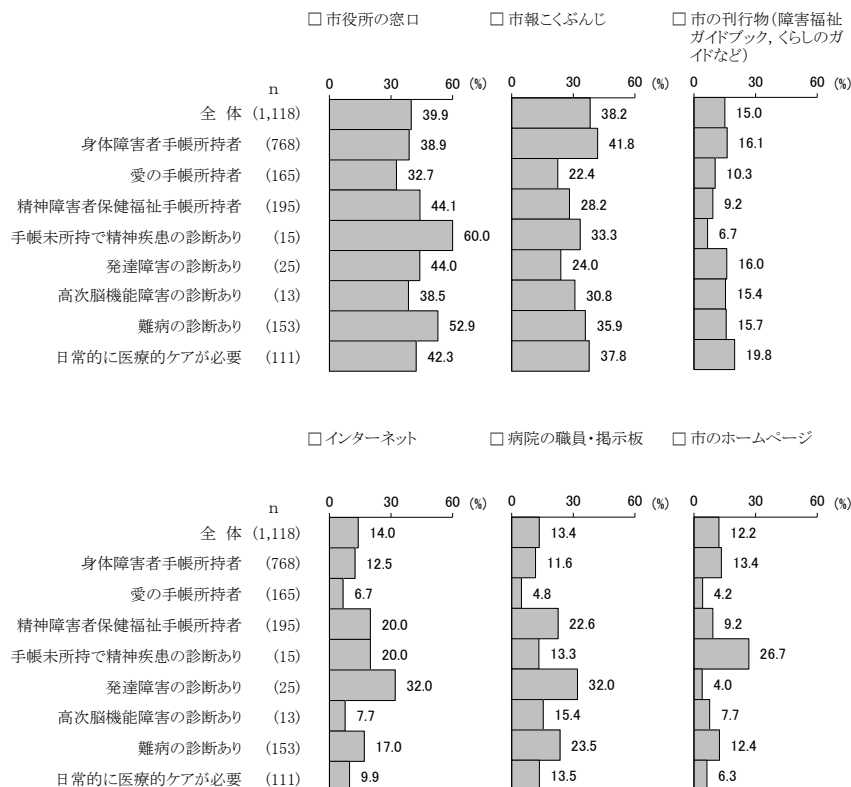
図10-4-2 福祉サービス等の情報の入手経路 年齢別（上位6項目）



年齢別にみると、「市報こくぶんじ」については、65歳以上75歳未満が5割以上（51.5%）で全体に比べて高くなっている。また、「インターネット」については、18歳以上40歳未満が2割半ば（24.7%）、「市の刊行物（障害福祉ガイドブック、暮らしのガイドなど）」については、65歳以上75歳未満が2割以上（23.5%）で高くなっている。



図10-4-3 福祉サービス等の情報の入手経路 障害種別（上位6項目）



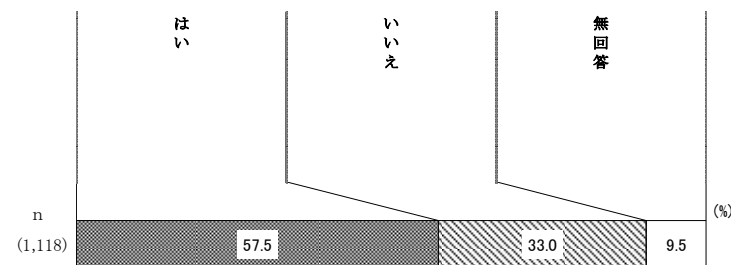
障害種別にみると、「市役所の窓口」については、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人（60.0%）、難病の診断を受けている人（52.9%）が全体に比べて高くなっている。また、「インターネット」については、発達障害の診断を受けている人（32.0%）、「病院の職員・掲示板」については、発達障害の診断を受けている人（32.0%）、難病の診断を受けている人（23.5%）、「市のホームページ」については、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人（26.7%）が他に比べて高くなっている。

## 1.1 ヘルプマークとヘルプカードについて

### (1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

問43 あなた（ご本人）はヘルプマークまたはヘルプカードを知っていますか。

図11-1-1 ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度 全体

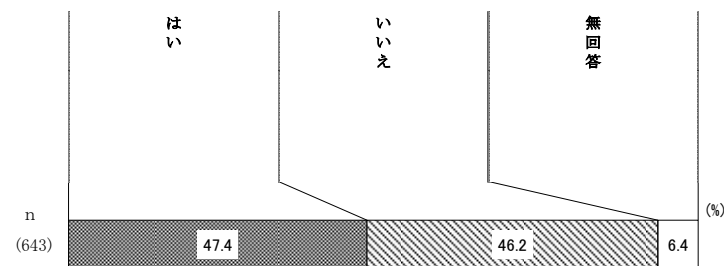


### (2) ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無

◆問43で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問44 あなた（ご本人）はヘルプマークまたはヘルプカードを持っていますか。

図11-2-1 ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無 全体

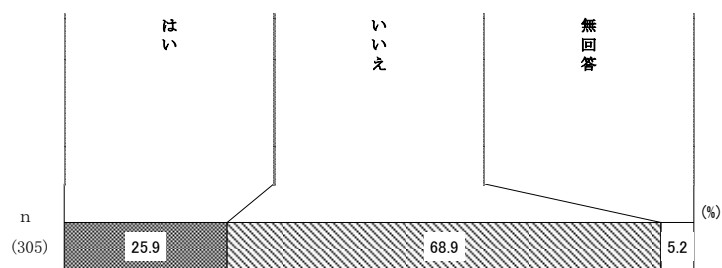


（3）ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無

◆問44で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問45 あなた（ご本人）はヘルプマークまたはヘルプカードを使用することで、周囲の手助けが受けられたことはありますか。（電車、バスで優先席に座りやすくなったなど）

図11-3-1 ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無 全体

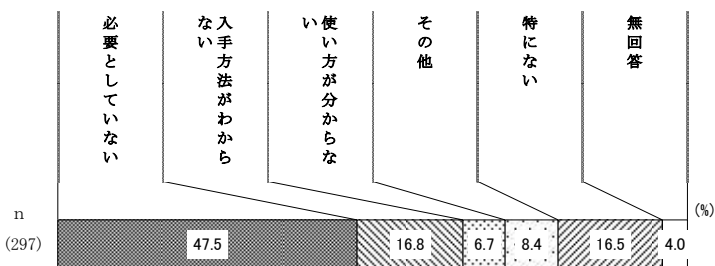


（4）ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由

◆問44で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。

問46 ヘルプマークまたはヘルプカードを持っていない理由は何ですか。（1つに○）

図11-4-1 ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由 全体



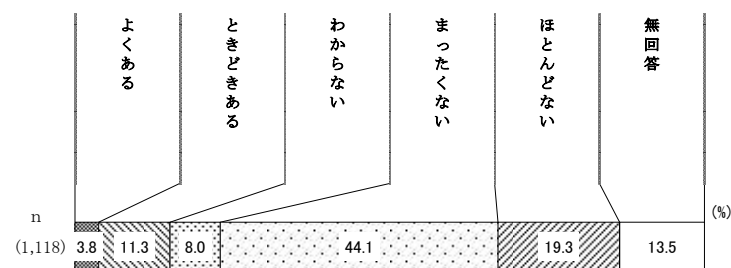
ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由について聞いたところ、「必要としていない」が5割近く（47.5%）で最も高かった。以下、「入手方法がわからない」（16.8%）、「特にない」（16.5%）、「使い方がわからない」（6.7%）の順になっている。

1.2. 障害を理由とする差別等について

（1）障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無

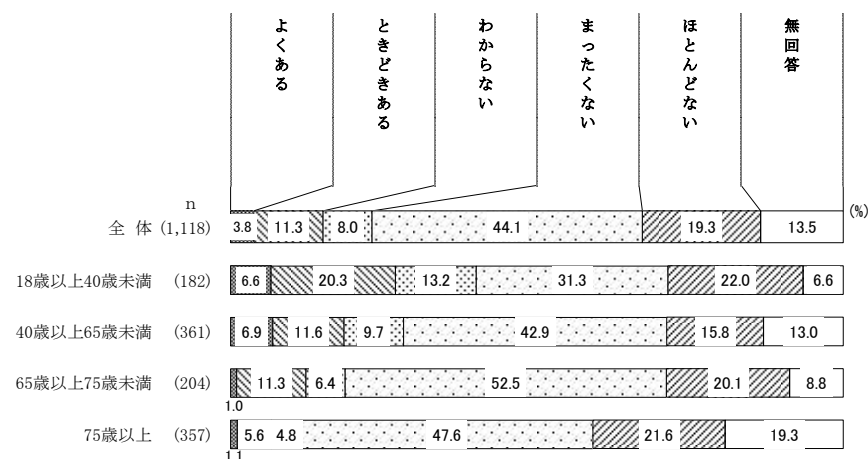
問47 あなた（ご本人）は過去3年の間に障害があるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（1つに○）

図12-1-1 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無 全体



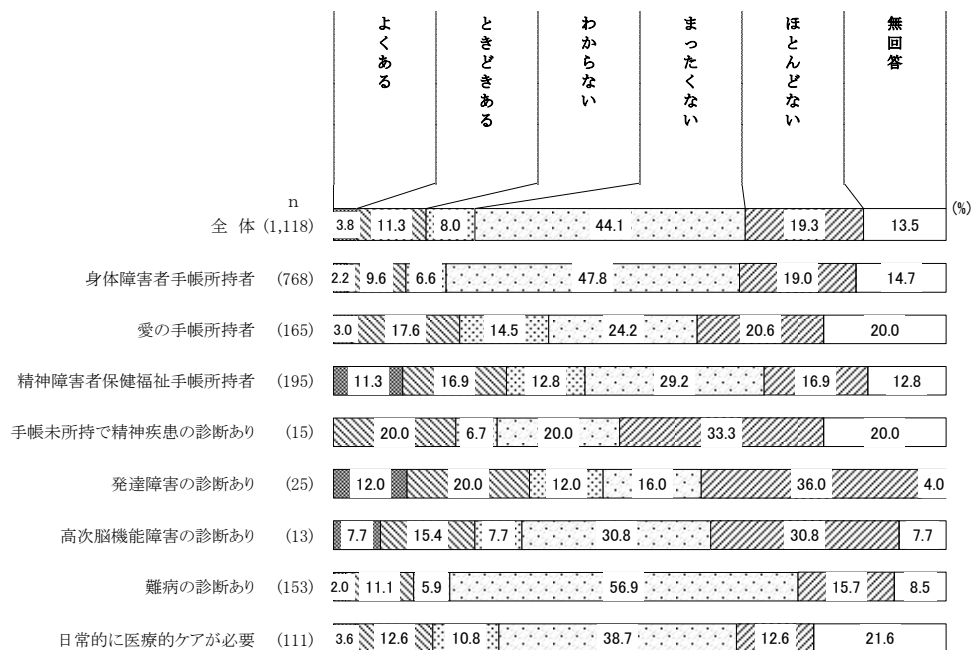
障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無について聞いたところ、「まったくない」が4割半ば（44.1%）で最も高かった。一方、「よくある」（3.8%）、「ときどきある」（11.3%）を合わせると1割半ば（15.1%）となっている。

図12-1-2 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無 年齢別



年齢別にみると、「よくある」、「ときどきある」を合わせると、18歳以上40歳未満が3割近く（26.9%）となっている。

図12-1-3 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無 障害種別



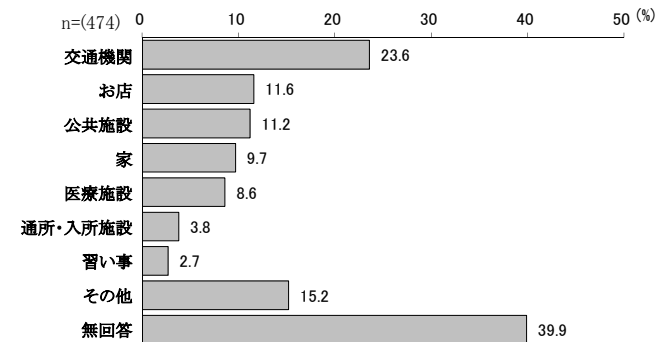
障害種別にみると、「よくある」「ときどきある」を合わせると、発達障害の診断を受けている人（32.0%）が最も高かった。以下、精神障害者保健福祉手帳所持者（28.2%）、高次脳機能障害の診断を受けている人（23.1%）の順になっている。

（2）差別やいやな思いを受けた場所

◆問47で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」「4. わからない」と答えた方におたずねします。

問48 あなた（ご本人）はどこで、誰から、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをされましたか。また、どこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

図12-2-1 差別やいやな思いを受けた場所 全体



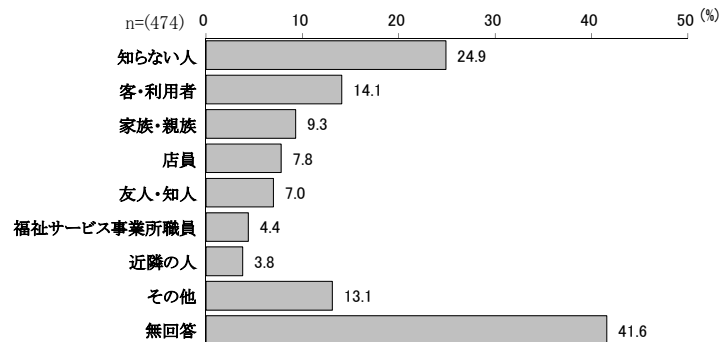
差別やいやな思いを受けた場所について聞いたところ、「交通機関」が2割以上（23.6%）で最も高かった。以下、「お店」（11.6%）、「公共施設」（11.2%）、「家」（9.7%）の順になっている。また、「その他」（15.2%）では、具体的に「職場」や「道」が多く記載されていた。

（3）差別やいやな思いを受けた相手

◆問47で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」「4. わからない」と答えた方におたずねします。

問48 あなた（ご本人）はどこで、誰から、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをされましたか。また、どこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

図12-3-1 差別やいやな思いを受けた相手 全体



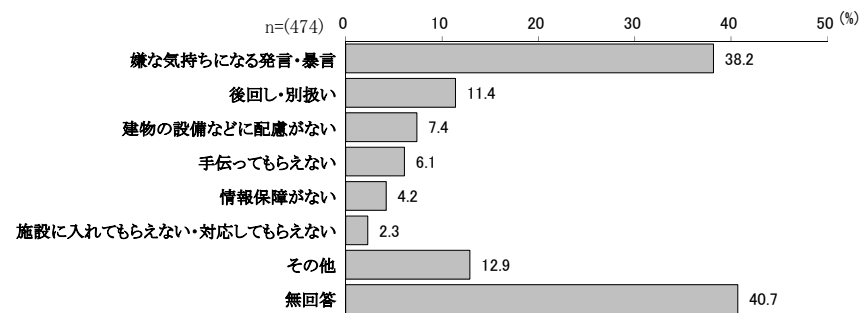
差別やいやな思いを受けた相手について聞いたところ、「知らない人」（24.9%）が最も高かった。以下、「客・利用者」（14.1%）、「家族・親族」（9.3%）、「店員」（7.8%）の順になっている。また、「その他」（13.1%）では、具体的に「上司」や「医師」が多く記載されていた。

（4）差別やいやな思いを受けた内容

◆問47で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」「4. わからない」と答えた方におたずねします。

問48 あなた（ご本人）はどこで、誰から、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをされましたか。また、どこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

図12-4-1 差別やいやな思いを受けた内容 全体



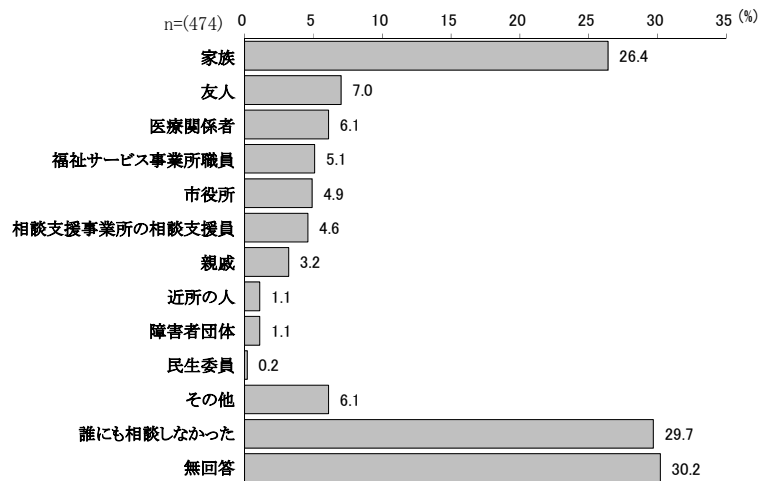
差別やいやな思いを受けた内容について聞いたところ、「嫌な気持ちになる発言・暴言」（38.2%）が最も高かった。以下、「後回し・別扱い」（11.4%）、「建物の設備などに配慮がない」（7.4%）、「手伝わってもらえない」（6.1%）の順になっている。また、「その他」（12.9%）では、具体的に「嫌そうな表情、態度、視線」や「じろじろ見られる」が多く記載されていた。

（5）差別やいやな思いを受けた時の相談先

◆問47で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」「4. わからない」と答えた方におたずねします。

問48 あなた（ご本人）はどこで、誰から、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをされましたか。また、どこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

図12-5-1 差別やいやな思いを受けた時の相談先 全体



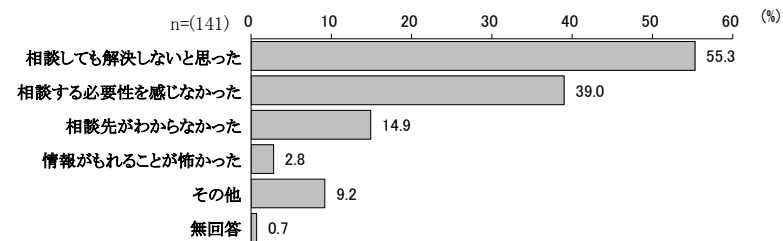
差別やいやな思いを受けた時の相談先について聞いたところ、「誰にも相談しなかった」が約3割（29.7%）を占めている。一方、具体的な選択肢の中では、「家族」（26.4%）、「友人」（7.0%）、「医療関係者」（6.1%）の順になっている。

（6）差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由

◆問48の相談先で「12. 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。

問49 相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図12-6-1 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由 全体

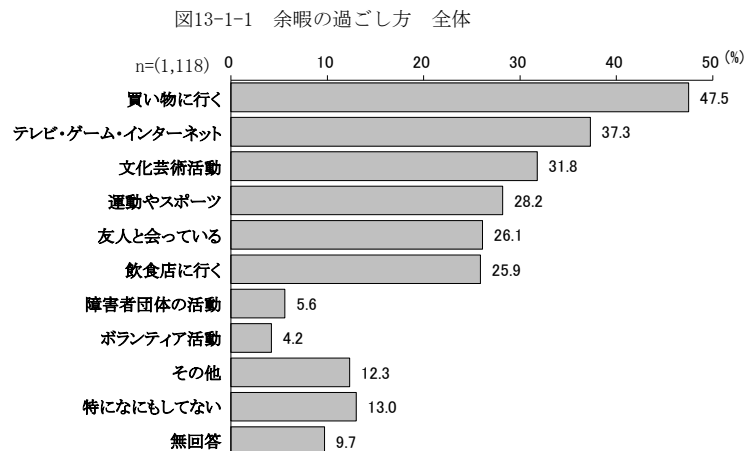


差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由について聞いたところ、「相談しても解決しないと思った」（55.3%）が最も高かった。以下、「相談する必要性を感じなかった」（39.0%）、「相談先がわからなかった」（14.9%）の順になっている。

### 1.3. 余暇活動について

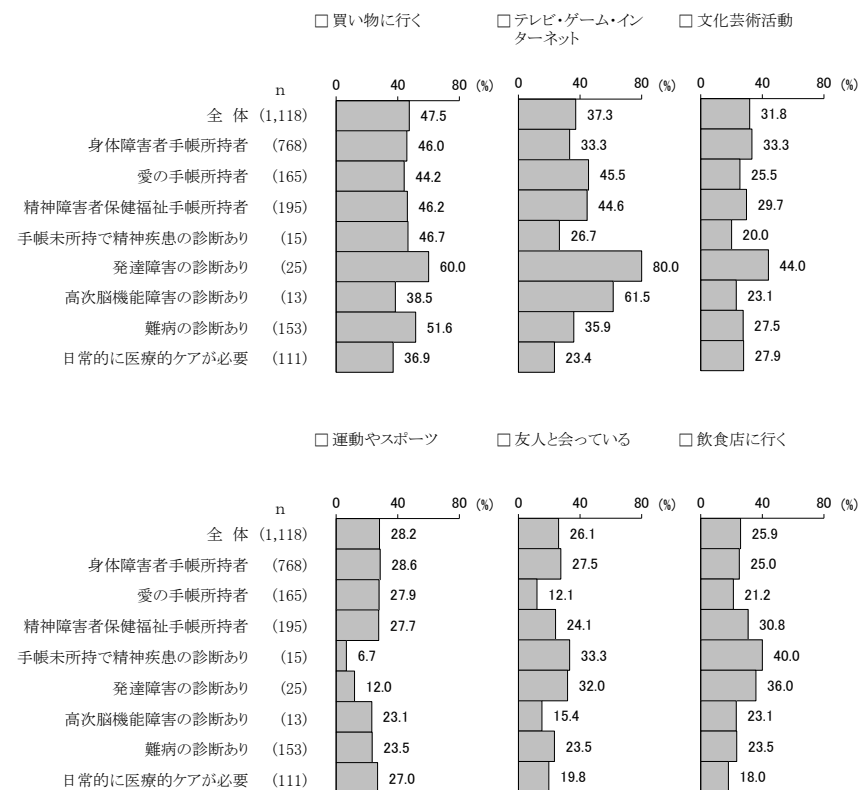
#### (1) 余暇の過ごし方

問50 あなた（ご本人）は、就労・通所・学校以外の時間でどのようなことをして過ごしていることが多いですか。（あてはまるものすべてに○）



余暇の過ごし方について聞いたところ、「買い物に行く」が5割近く（47.5%）で最も高かった。以下、「テレビ・ゲーム・インターネット」（37.3%）、「文化芸術活動」（31.8%）、「運動やスポーツ」（28.2%）の順になっている。

図13-1-2 余暇の過ごし方 障害種別（上位6項目）



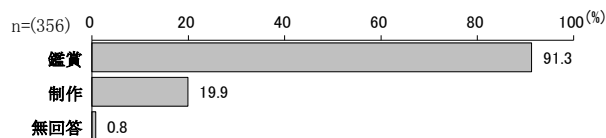
障害種別にみると、「テレビ・ゲーム・インターネット」については、発達障害の診断を受けている人が8割（80.0%）、高次脳機能障害の診断を受けている人が6割以上（61.5%）で全体に比べて高くなっている。また、「買い物に行く」については、発達障害の診断を受けている人が6割（60.0%）、「文化芸術活動」については、発達障害の診断を受けている人が4割半ば（44.0%）、「飲食店に行く」については、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人が4割（40.0%）、発達障害の診断を受けている人が3割半ば（36.0%）で全体に比べて高くなっている。

（2）文化芸術への関わり方

◆問50で「6. 文化芸術活動」と答えた方におたずねします。

問51 あなた（ご本人）は、文化芸術にどのように関わっていますか。（あてはまるものすべてに○）

図13-2-1 文化芸術への関わり方 全体

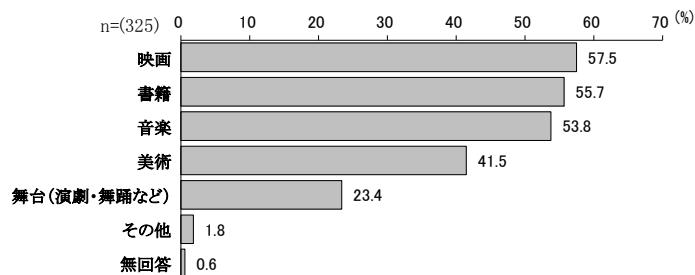


（3）鑑賞した文化芸術の種類

◆問51で「1. 鑑賞」と答えた方におたずねします。

問52 あなた（ご本人）は、過去1年の間にどの文化芸術を鑑賞したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

図13-3-1 鑑賞した文化芸術の種類 全体



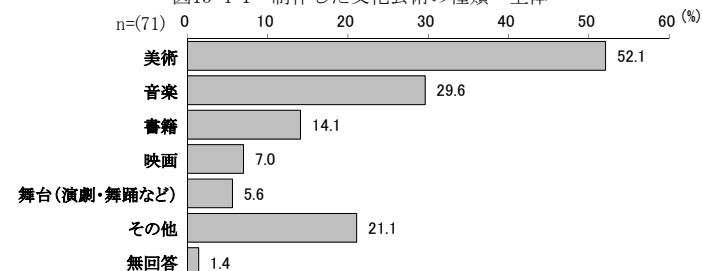
鑑賞した文化芸術の種類について聞いたところ、「映画」（57.5%）が最も高かった。以下、「書籍」（55.7%）、「音楽」（53.8%）、「美術」（41.5%）の順になっている。

（4）制作した文化芸術の種類

◆問51で「2. 制作」と答えた方におたずねします。

問53 あなた（ご本人）は、過去1年の間にどの文化芸術を制作したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

図13-4-1 制作した文化芸術の種類 全体

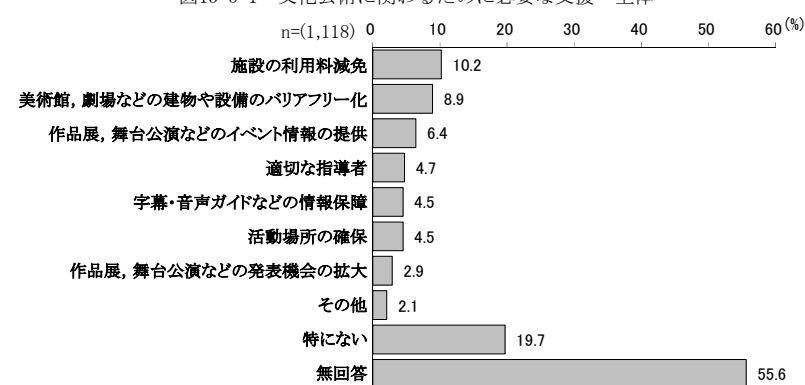


制作した文化芸術の種類について聞いたところ、「美術」が5割以上（52.1%）で最も高かった。また、「音楽」についても、約3割（29.6%）で高くなっている。また、「その他」（21.1%）では、具体的に「手芸」や「習字」などが記載されていた。

（5）文化芸術活動に関わるために必要な支援

問54 あなた（ご本人）が、文化芸術活動に関わるために必要な支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図13-5-1 文化芸術に関わるために必要な支援 全体



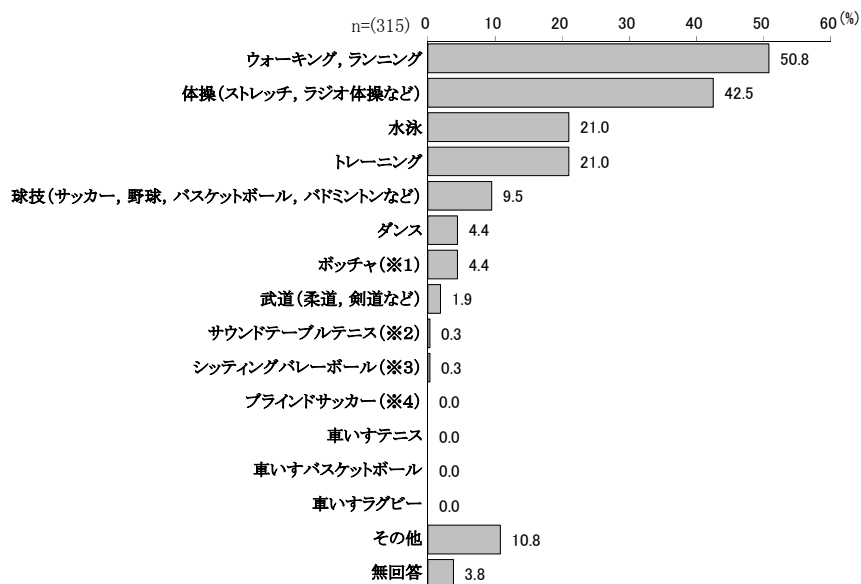
文化芸術に関わるために必要な支援について聞いたところ、「特にない」が約2割（19.7%）で最も高かった。具体的な選択肢の中では、「施設の利用料減免」（10.2%）、「美術館、劇場などの建物や設備のバリアフリー化」（8.9%）の順になっている。

(6) 過去1年間の運動やスポーツ経験の有無

◆問50で「7. 運動やスポーツ」と答えた方におたずねします。

問55 あなた（ご本人）は、過去1年間にどの運動やスポーツを行ったことがありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

図13-6-1 過去1年間の運動やスポーツ経験の有無 全体



- (※1) ボッチャ：最初にジャックボールと呼ばれる白いボールを投げ、続いて赤と青の各6個のボールを投げて、どれだけジャックボールに近いところにボールを置くことができるかを競います。
- (※2) サウンドテーブルテニス：視覚障害の方が行う卓球です。卓球台のネットの下があいており、ネットの下にボールを転がして競技を行います。目隠しを着用し、転がると音が出るボールを使用します。
- (※3) シッティングバレーボール：座った姿勢のままで行うバレーボールです。
- (※4) ブラインドサッカー：視覚障害者5人制サッカー。目隠しを着用し、転がると音が出るボールを使用します。

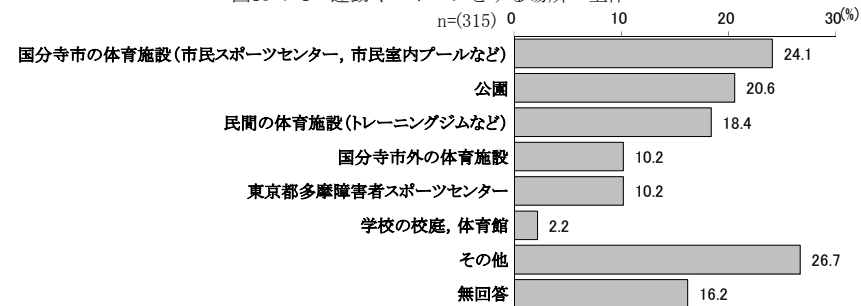
過去1年間の運動やスポーツ経験の有無について聞いたところ、「ウォーキング、ランニング」が約5割（50.8%）で最も高かった。以下、「体操（ストレッチ、ラジオ体操など）」（42.5%）、「水泳」（21.0%）、「トレーニング」（21.0%）の順になっている。

(7) 運動やスポーツをする場所

◆問50で「7. 運動やスポーツ」と答えた方におたずねします。

問56 あなた（ご本人）が運動をする場所はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

図13-7-1 運動やスポーツをする場所 全体



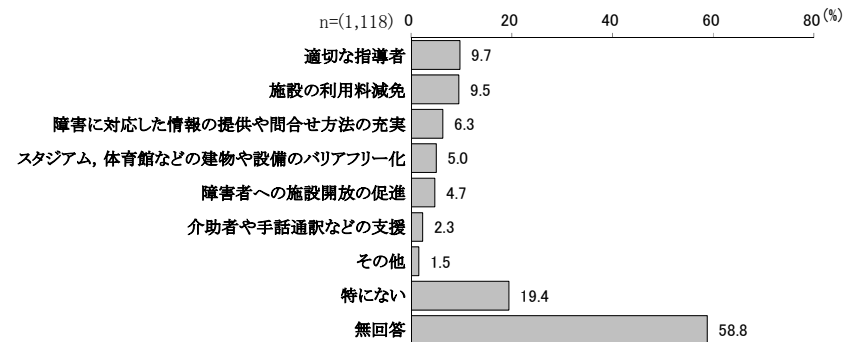
運動やスポーツをする場所について聞いたところ、具体的な選択肢の中では、「国分寺市の体育施設（市民スポーツセンター、市民室内プールなど）」が2割半ば（24.1%）で最も高かった。以下、「公園」（20.6%）、「民間の体育施設（トレーニングジムなど）」（18.4%）、「国分寺市外の体育施設」（10.2%）と「東京都多摩障害者スポーツセンター」（10.2%）の順になっている。また、「その他」（26.7%）では、具体的に「自宅」や「道路」などが多く記載されていた。

(8) スポーツを行うために必要な支援

問57 あなた（ご本人）が、運動やスポーツを行うために必要な支援は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

図13-8-1 スポーツを行うために必要な支援 全体



スポーツを行うために必要な支援について聞いたところ、「特にない」が約2割（19.4%）で最も高かった。具体的な選択肢の中では、「適切な指導者」（9.7%）、「施設の利用料減免」（9.5%）の順になっている。

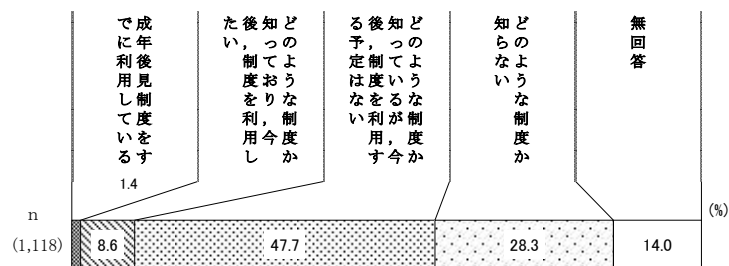


14. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度と利用意向

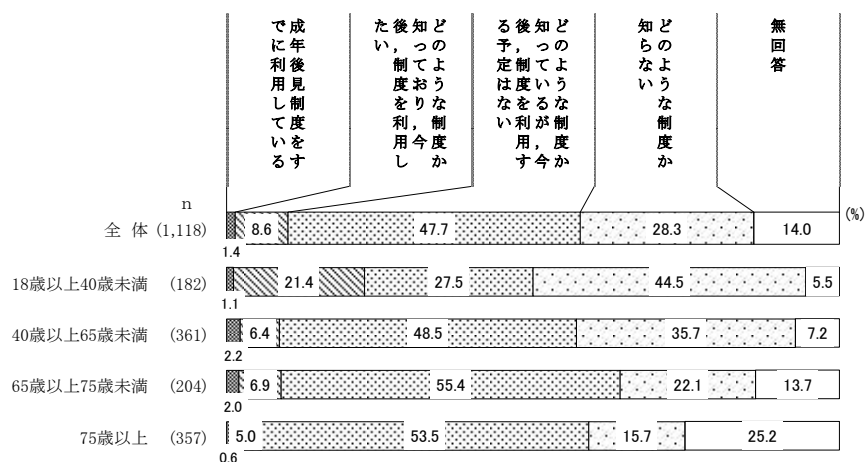
問58 あなた（ご本人）は、成年後見制度を知っていますか。また、利用したいですか。（1つに○）

図14-1-1 成年後見制度の認知度と利用意向 全体



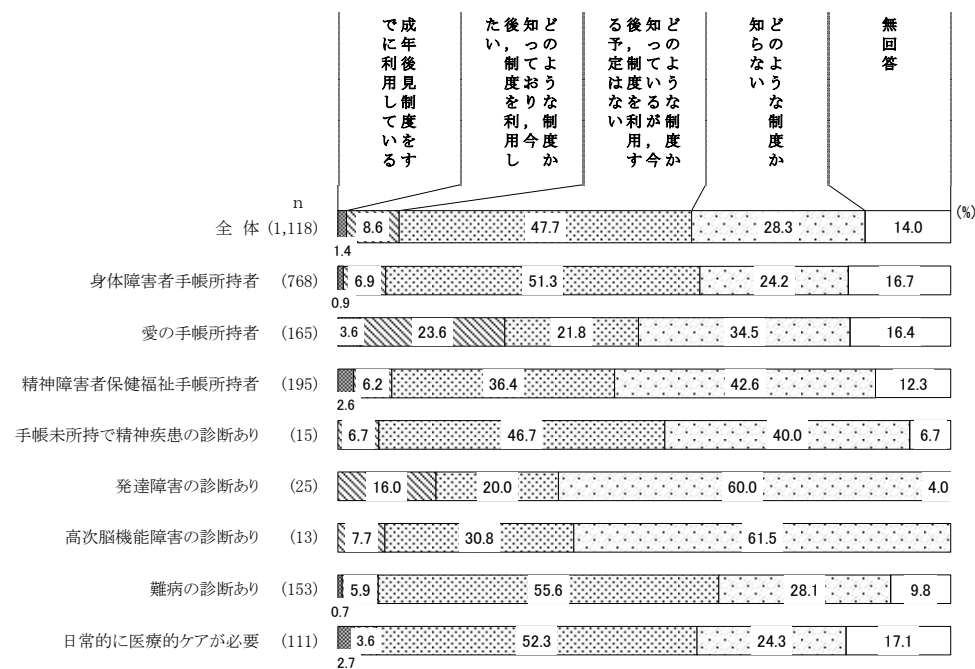
成年後見制度の認知度と利用意向について聞いたところ、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」が5割近く（47.7%）で最も高かった。以下、「どのような制度か知らない」（28.3%）、「どのような制度か知っており、今後、制度を利用したい」（8.6%）、「成年後見制度をすでに利用している」（1.4%）の順になっている。

図14-1-2 成年後見制度の認知度と利用意向 年齢別



年齢別にみると、「どのような制度か知らない」については、18歳以上40歳未満が4割半ば（44.5%）で全体に比べて高くなっている。また、「どのような制度か知っており、今後制度を利用したい」についても、18歳以上40歳未満が2割以上（21.4%）で高くなっている。

図14-1-3 成年後見制度の認知度と利用意向 障害種別



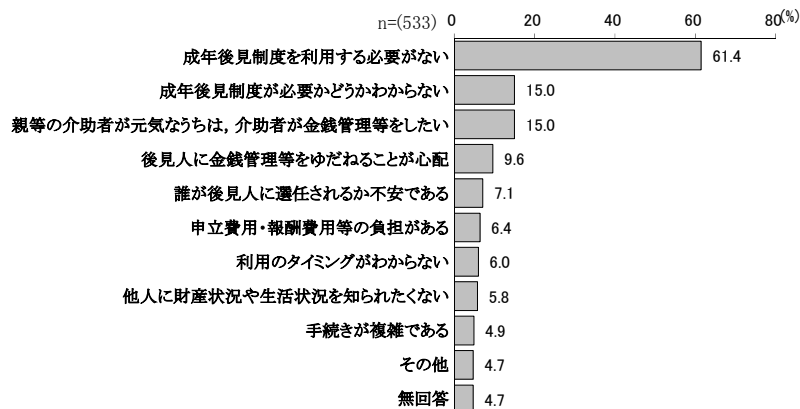
障害種別にみると、「どのような制度か知らない」については、高次脳機能障害の診断を受けている人（61.5%）、発達障害の診断を受けている人（60.0%）、精神障害者保健福祉手帳所持者（42.6%）、手帳未所持で精神疾患の診断を受けている人（40.0%）の順で高くなっている。また、「どのような制度か知っており、今後制度を利用したい」については、愛の手帳所持者（23.6%）が高くなっている。

(2) 成年後見制度を利用しない理由

◆問58で「3. どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」と答えた方におたずねします。

問59 あなた（ご本人）が、成年後見制度を利用しない理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

図14-2-1 成年後見制度を利用しない理由 全体



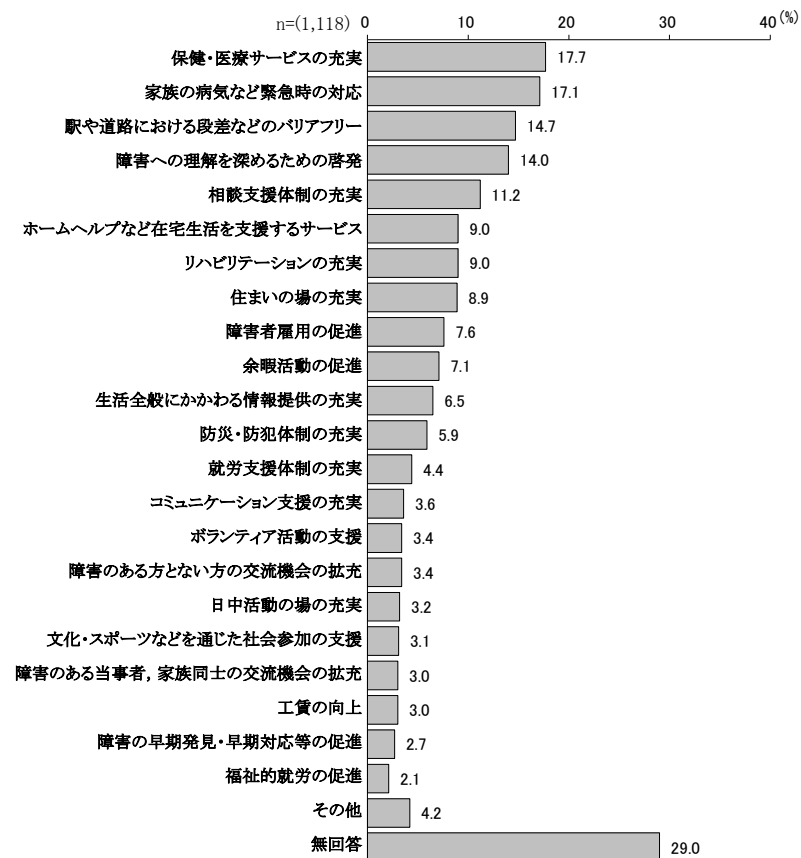
成年後見制度を利用しない理由について聞いたところ、「成年後見制度を利用する必要がない」(61.4%)が最も高かった。以下、「成年後見制度が必要かどうかわからない」(15.0%)、「親等の介助者が元気なうちは、介助者が金銭管理等をしたい」(15.0%)、「後見人に金銭管理等をゆだねることが心配」(9.6%)の順になっている。

15. 全体的な施策について

(1) 暮らしのために充実してほしいこと

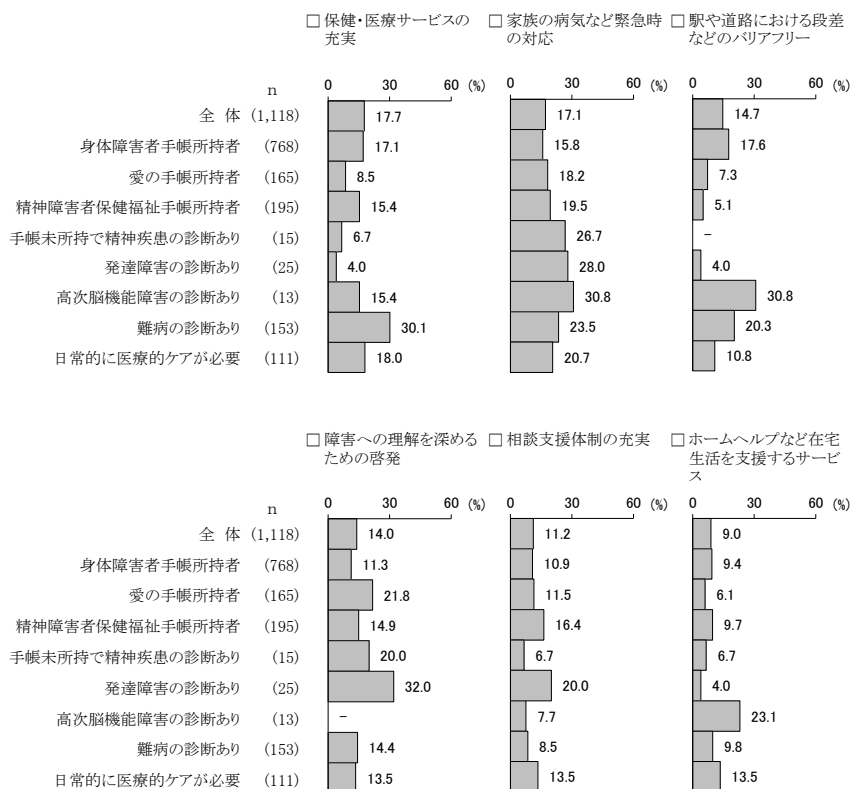
問60 あなた（ご本人）が暮らしやすくなるために、充実してほしいことは何ですか。（主なもの3つまで○）

図15-1-1 暮らしのために充実してほしいこと 全体



暮らしのために充実してほしいことについて聞いたところ、「保健・医療サービスの充実」が2割近く(17.7%)で最も高かった。以下、「家族の病気など緊急時の対応」(17.1%)、「駅や道路における段差などのバリアフリー」(14.7%)、「障害への理解を深めるための啓発」(14.0%)の順になっている。

図15-1-2 暮らしのために充実してほしいこと 障害種別（上位6項目）



障害種別にみると、「障害への理解を深めるための啓発」については、発達障害の診断を受けている人が3割以上（32.0%）で全体に比べて高くなっている。また、「家族の病気など緊急時の対応」については、高次脳機能障害の診断を受けている人が約3割（30.8%）、発達障害の診断を受けている人が3割近く（28.0%）、「駅や道路における段差などのバリアフリー」については、高次脳機能障害の診断を受けている人が約3割（30.8%）、「保健・医療サービスの充実」については、難病の診断を受けている人が約3割（30.1%）、「ホームヘルプなど在宅生活を支援するサービス」については、高次脳機能障害の診断を受けている人が2割以上（23.1%）で高くなっている。

## 16. 自由意見

アンケート調査全体を通じてご意見やご要望を自由に記述していただいたところ、255票の様々な意見が寄せられた。その中から、内容を一定の分野ごとに整理し、その概要を示したものである。

### ◆アンケート自体に関すること

- ・障害により、関係ないと思われる項目が多かった。項目の分け方を工夫された方が良い。
- ・私は難病の診断を受けているが、現在ほぼ普通に生活を送れている。アンケート調査の内容は、私には合っていなかったかもしれないが、家族に障害者がいるので福祉サービスについて色々知る事ができて良かった。
- ・結構難しい内容の言葉が多く、本人に説明するのが大変で理解してもらえない部分があったりするので、わかりやすいような（小学生レベル）内容だと良いと思う。質問の数も多いので回答期間を延ばすか、質問を減らすと良いと思う。
- ・本人が回答できないので、本人の立場で親がアンケートを記入した。親の立場で回答してしまう場面が多々あり、混乱した。
- ・介護保険によるサービスは色々利用しているが、障害福祉のサービスではないので、本アンケートへの回答が難しい。
- ・アンケートの設問の進み先がわかりにくい。よく検討して欲しい。

### ◆福祉サービスに関すること

- ・移動支援をもっと使い易くしてもらいたい。
- ・こんなにも障害者支援サービスがあることを知らなかった。アンケートを通して、情報を知ることができ良かったが、介護認定をされていると、そちらが優先され障害福祉サービスが受けられないと担当ケアマネから言われている。日々が一杯一杯でなかなか市役所への相談もできずにいる。
- ・利用できるサービス、利用しやすいサービスが無いので困る。
- ・障害福祉のサービスは全ての障害で受けられるようにして欲しい。特に精神は受けられるサービスが少ない。
- ・本人と同居人がともに障害者のみの場合のサポート体制が欲しい。

## ◆市の障害福祉行政に関すること

- ・障害者手帳のカード化を希望する。
- ・難病への施策が非常に遅れていると思う。一般の理解啓発はもちろん、具体的な施策の策定を望む。
- ・重度障害者が安心して暮らせるようにして欲しい。
- ・医療費などの負担が掛かるので、より制度を充実して欲しい。
- ・障害福祉課の窓口で相談しようとした際に、対応できる職員がいないため、相談を後日にしてほしいと言われたことがある。人手を増やして欲しい。

## ◆外出に関すること

- ・足が悪く、医師にプールなどで運動をした方が良いと言われたが、市営の温水プールがあまりにも不便な場所にあって行けないため、交通の便を考えてもらいたい。
- ・市の施設について、障害者用トイレなどのバリアフリー化を図って欲しい。
- ・歩行が難しく、ぶんバスを利用しているが、バスルートが離れていて、目的地に行くことができないことが多い。地域でそれぞれ考えて運行されているのだろうが、必ずどこかで交差してくれれば、乗り替えながら目的地へ行ける。いつも不便に思っている。
- ・市内の歩道ないし一般道の補修をお願いしたい。障害福祉課の管轄外かも知れないが、電動車いすで走行すると路面の凹凸によって身体に支障をきたす。
- ・ぶんバスの運賃を割引対象にして欲しい。
- ・タクシー券を作って欲しい。
- ・精神障害者保健福祉手帳で減免利用できる交通機関、施設を拡充して欲しい。

## ◆日中の活動・就労について（次ページに続く）

- ・市に対してというより国の施策だが、単に法定雇用率を上げ、受け皿をふやしてもその職場に受入体制、障害理解がなく、単なる数合わせとして受入れる所もあり不幸なことだと思う。だったら一生福祉施設でいいと思う。
- ・就業について、病気等で働いていなかった期間が長いと、面接で当然、理由を聞かれる。障害者雇用ならば正直に話せるが、一般雇用では、なかなか正直に話せない。特に精神障害に対しては、最近事件等が多いこともあり、偏見を持たれてしまう。なかなか就業できないことで、更に病状が悪化し、家に引き込まれることとなる。障害者雇用も職種が似たようなものばかりで、自身に合わないものが多いため、一般応募で健常者と同条件での就業となる。すると、体調不良も言いづらく、通院で休むことも難しい。いろいろな面で、障害者は生きづらい世の中だと感じる人が多い。
- ・地域の福祉作業所に通っているが、工賃が安すぎるので何とかならないかと考えている。

- ・障害者雇用とはいえ、何故一般就労しながら人間的かつ文化的最低限度の生活以下の生活をしなければならないか分からない。

## ◆相談や福祉の情報に関すること

- ・国、東京都、市が、どういった障害者支援制度を実施しているのか分からない点がある。福祉センターのような施設を利用していないからということもあるのだが、こういった情報をもっと発信してほしい。市役所の窓口体制を強化し、もっと情報を提供してほしい。
- ・福祉的サポート以外の当事者による新たな事業があれば、市報に載せてもらいたい。
- ・公費又は良心的な料金で、精神障害者のための幅広いカウンセリングの対応をするサービスの充実を求める。
- ・就職の相談や支援について、親身に対応してもらえる支援機関を知りたい。

## ◆余暇活動に関すること

- ・成人の余暇活動の事業所などがなく、充実を望む。
- ・地域スポーツを楽しんでいるが、けやき運動場の人工芝化を休止して欲しい。戸倉野球場しかないのは不自由。

## ◆障害を理由とする差別等に関すること

- ・世の中は障害者に対する偏見に満ちているため、家族以外には病気のことを言えずにいる。もう少しオープンにできる世の中になって欲しい。
- ・障害者を一括りにすることなく、対応の多様化を。
- ・昔は酷い差別に苦しんだが、現在は障害者に対する理解・支援が充実してきていると感じる。
- ・様々な障害のある人がいるということを理解してもらいたい。

◆住まいの場に関すること

- ・グループホームを増やして欲しい。
- ・重度障害者が利用できるグループホームが必要。
- ・一人暮らしを体験できるグループホームがあると良い。
- ・利用しやすいグループホームがあると良い。
- ・市内に入所施設を作ってもらいたい。
- ・通過型グループホーム退所後も定住型グループホームに入れるようにして欲しい。
- ・家賃の負担を軽減して欲しい。

◆災害の備えに関すること

- ・民生委員と1回しか会ったことがなく、地震災害時にひとりでは避難できないのでとても不安。
- ・両親はまだ生きているが、近所には自分を理解している人がいないため、一人の時に大地震が来たらパニックになってしまう。
- ・耳が聞こえないため、災害情報などラジオ等ではわからない。メールなど文字での情報が確認できるようにしてもらいたい。

◆ヘルプマークとヘルプカードに関すること

- ・ヘルプカードの配布基準を明確にして欲しい。
- ・ヘルプマークの認知度向上を望む。
- ・電車の優先席にヘルプマーク所持者利用可の表示を増やして欲しい。

◆その他

- ・親亡き後の不安解消を。
- ・小学校低学年から障害のある方とない方との共生の教育が大切。
- ・親族の反対があっても、個人の意志で生活保護を利用できるようにして欲しい。

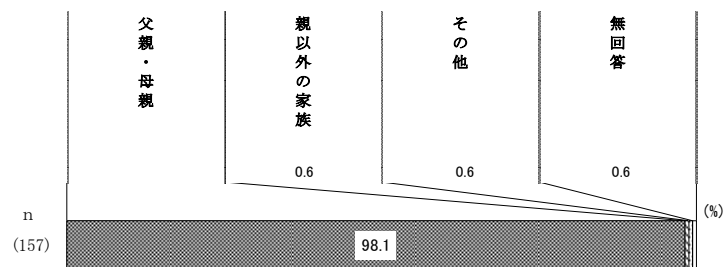
### 第3章 調査結果（児童）

1. 基本情報

(1) 記入者

問1 この調査票を記入していただく方はどなたですか。（1つに○）

図1-1-1 記入者 全体



(2) 年齢

問2 お子さまの年齢を教えてください。

図1-2-1 年齢 全体

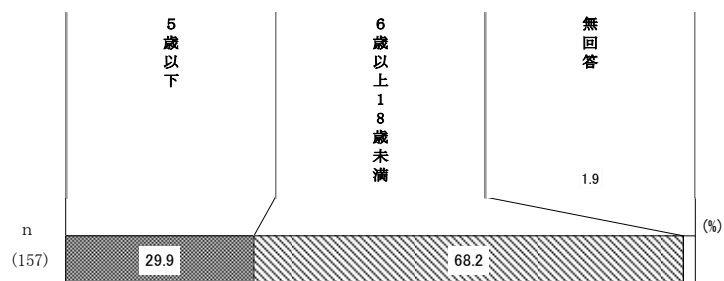
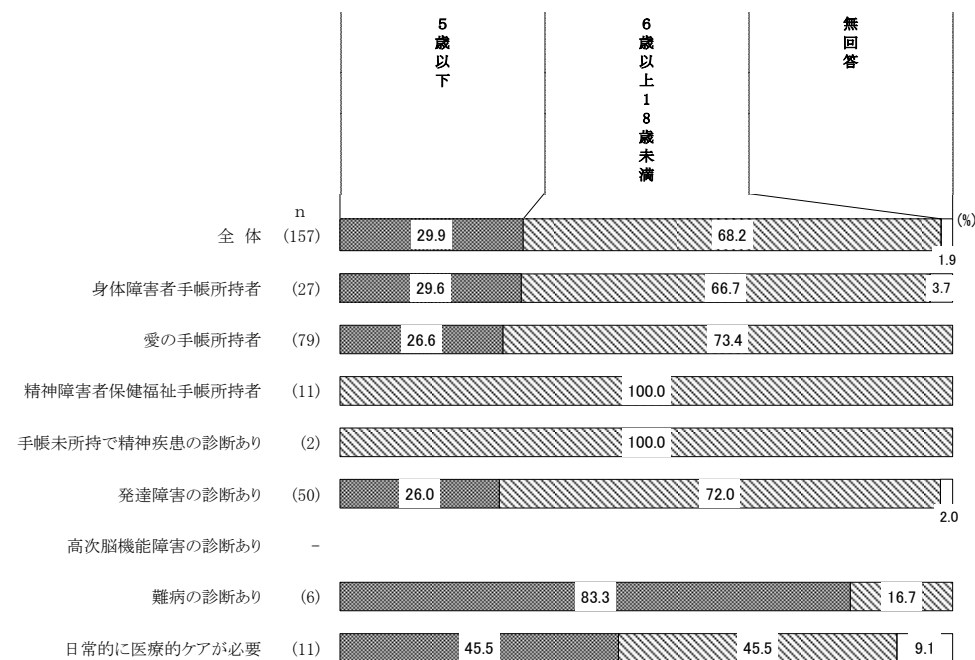


図1-2-2 年齢 障害種別

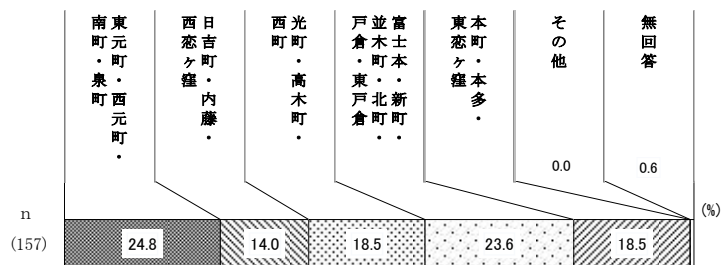


障害種別でみると、精神障害者保健福祉手帳所持者の全て（100.0%）が「6歳以上18歳未満」となっている。「5歳以下」については、日常的に医療的ケアが必要な人が4割半ば（45.5%）で高くなっている。

（3）居住地域

問3 お子さまのお住まいの地域はどこですか。（1つに○）

図1-3-1 居住地域 全体

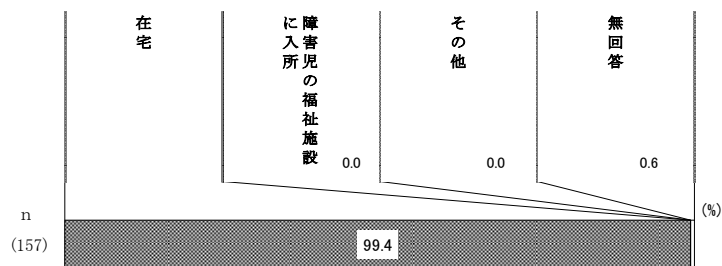


居住地域について聞いたところ、「東元町・西元町・南町・泉町」が2割半ば（24.8%）で最も高かった。以下、「富士本・新町・並木町・北町・戸倉・東戸倉」（23.6%）, 「光町・高木町・西町」（18.5%）, 「本町・本多・東恋ヶ窪」（18.5%）, 「日吉町・内藤・西恋ヶ窪」（14.0%）の順になっている。

（4）現在の住まい

問4 お子さまは今どこで暮らしていますか。（1つに○）

図1-4-1 現在の住まい 全体

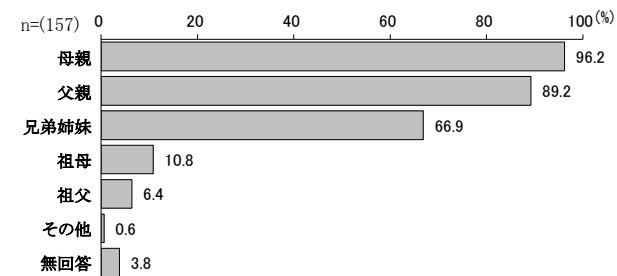


（5）同居人の属性

◆問4で「1. 在宅」または「3. その他」と答えた方におたずねします。

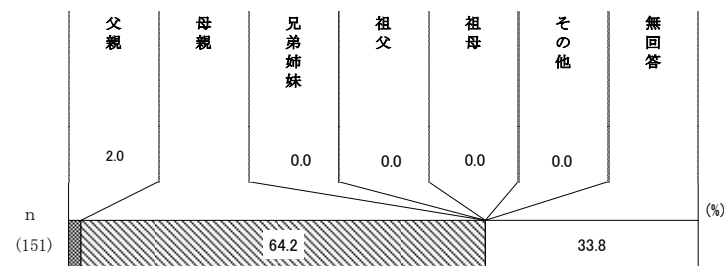
問5 お子さまと一緒に住んでいる方について、該当する年齢区分に○をしてください。（あてはまるものすべてに○）また、いっしょに住んでいる方のうち、お子さまの主な介助者をお答えください。

図1-5-1 同居人の属性（関係） 全体



同居人の関係について聞いたところ、「母親」が10割近く（96.2%）で最も高かった。以下、「父親」（89.2%）, 「兄弟姉妹」（66.9%）の順になっている。

図1-5-2 同居人のうちの主な介助者 全体

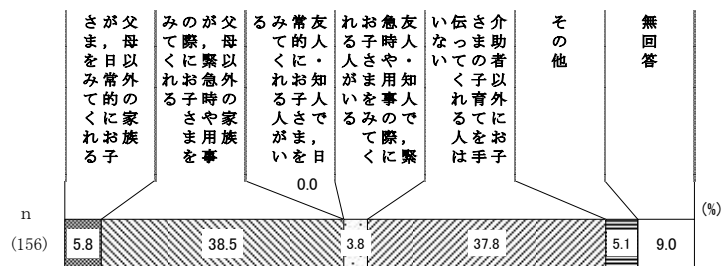




(6) 主な介助者以外で子育てを手伝ってくれる人の有無

◆問4で「1. 在宅」または「3. その他」と答えた方におたずねします。  
 問6 主な介助者以外にお子さまの子育てを手伝ってくれる方はいますか。（1つに○）

図1-6-1 主な介助者以外で子育てを手伝ってくれる人の有無 全体



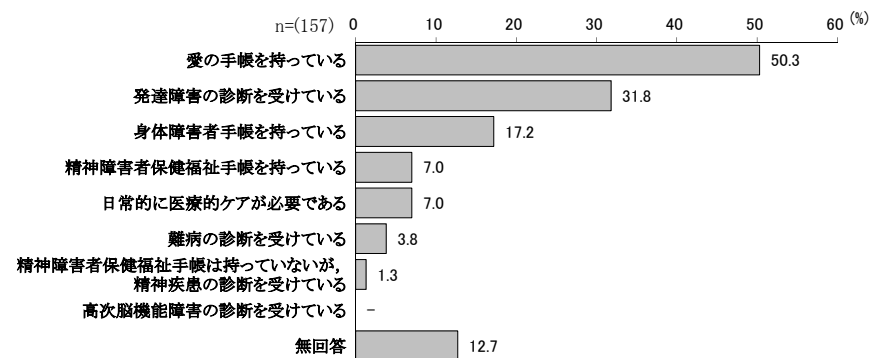
主な介助者以外で子育てを手伝ってくれる人の有無について聞いたところ、「父母以外の家族が、緊急時や用事の際にお子さまをみてくれる」と「介助者以外にお子さまの子育てを手伝ってくれる人はいない」が4割近く（38.5%、37.8%）で高かった。

2. 障害の状況について

(1) 障害の状況（種類または診断名）

問7 お子さまがお持ちの障害者手帳または受けている診断名などについておたずねします。（あてはまるものすべてに○）

図2-1-1 障害の状況（種類または診断名） 全体

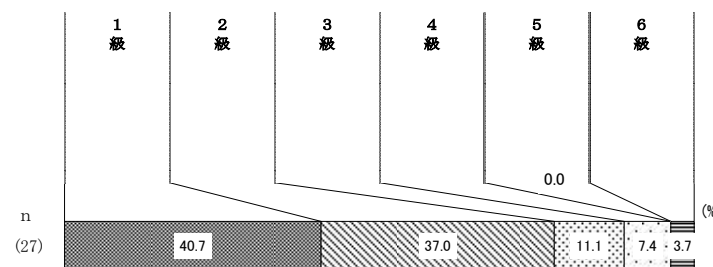


障害の状況（種類または診断名）について聞いたところ、「愛の手帳を持っている」が約5割（50.3%）で最も高かった。以下、「発達障害の診断を受けている」（31.8%）、「身体障害者手帳を持っている」（17.2%）の順になっている。

(2) 身体障害者手帳（程度）

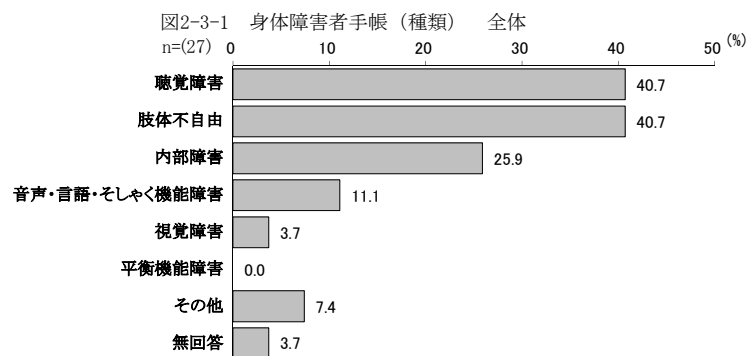
問7 手帳に書いてある障害の程度（総合等級）は何級ですか。

図2-2-1 身体障害者手帳（程度） 全体



(3) 身体障害者手帳（種類）

問7 どのような障害ですか。

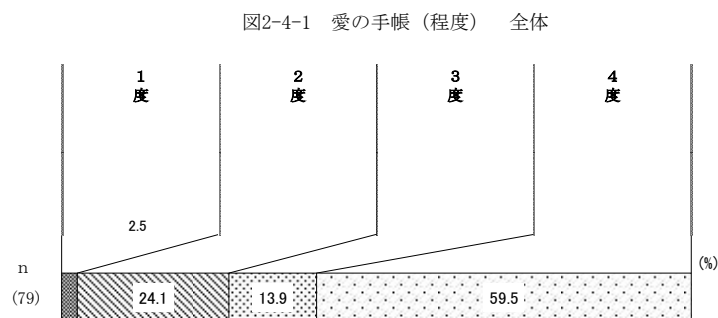


※内部障害（心臓・呼吸器・じん臓・ぼうこう・直腸・小腸・肝臓・免疫機能障害）

障害の種類について聞いたところ、「聴覚障害」と「肢体不自由」が約4割（ともに40.7%）で最も高かった。以下、「内部障害」（25.9%）、「音声・言語・そしゃく機能障害」（11.1%）の順になっている。

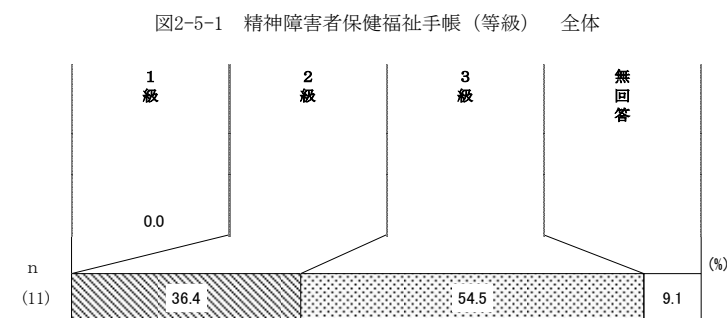
(4) 愛の手帳（程度）

問7 手帳に書いてある障害はどの程度ですか。



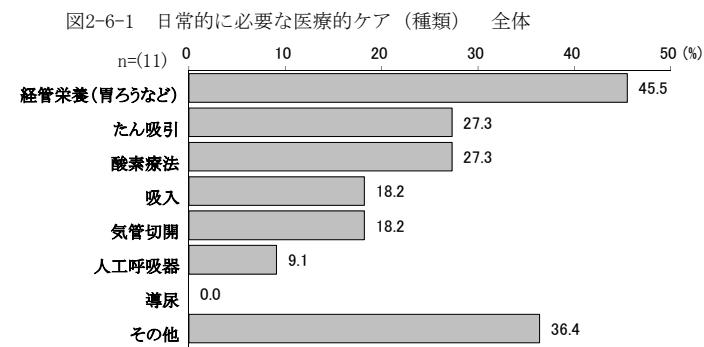
(5) 精神障害者保健福祉手帳（等級）

問7 手帳に書いてある障害は何級ですか。



(6) 日常的に必要な医療的ケア（種類）

問7 受けている医療的ケアは何ですか。

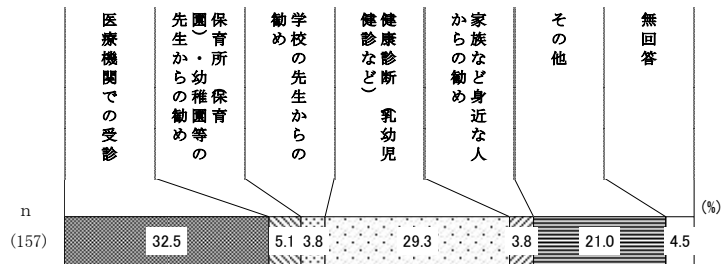


日常的に必要な医療的ケアの種類について聞いたところ、「経管栄養（胃ろうなど）」が4割半ば（45.5%）で最も高かった。以下、「たん吸引」（27.3%）、「酸素療法」（27.3%）の順になっている。また、「その他」（36.4%）では、具体的に「投薬」などが記載されていた。

(7) お子さまの不調に気付いたきっかけ

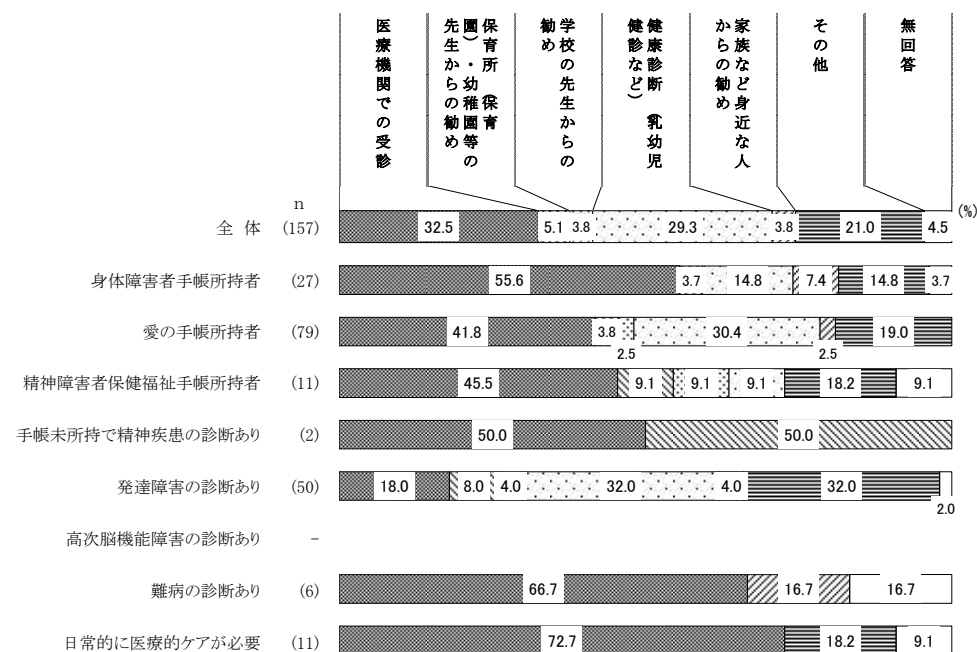
問8 お子さまの障害や心身の不調に気付いたきっかけは何ですか。（1つに○）

図2-7-1 お子さまの不調に気付いたきっかけ 全体



お子さまの不調に気付いたきっかけについて聞いたところ、「医療機関での受診」（32.5%）が3割以上で最も高かった。以下、「健康診断（乳幼児健診など）」（29.3%）、「保育園（保育園）・幼稚園等の先生からの勧め」（5.1%）、「学校の先生からの勧め」（3.8%）、「家族など身近な人からの勧め」（3.8%）の順になっている。また、「その他」（21.0%）では、具体的に「出生時」や「(回答者)自身で気づいた」などが記載されていた。

図2-7-2 お子さまの不調に気付いたきっかけ 障害種別

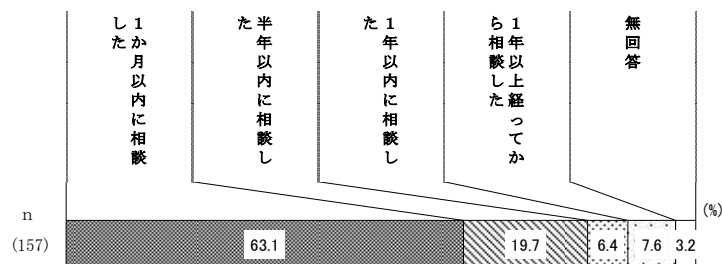


障害種別でみると、「医療機関での受診」については、日常的に医療的ケアが必要な人が7割以上（72.7%）、身体障害者手帳所持者が5割半ば（55.6%）、精神障害者保健福祉手帳所持者が4割半ば（45.5%）で全体に比べて高くなっている。また、「健康診断（乳幼児健診など）」については、発達障害の診断を受けている人と愛の手帳所持者が3割程度（32.0%、30.4%）となっている。

（8）お子さまの不調に気付いてから相談するまでの期間

問9 お子さまの障害や心身の不調に気付いてから、すぐに専門機関へ相談しましたか。（1つに○）

図2-8-1 お子さまの不調に気付いてから相談するまでの期間 全体

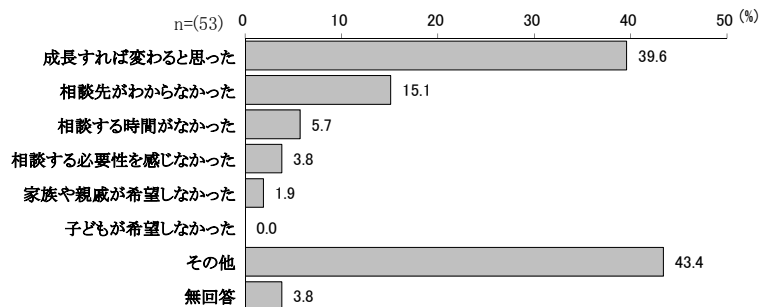


お子さまの不調に気付いてから相談するまでの期間について聞いたところ、「1か月以内に相談した」が6割以上（63.1%）で最も高かった。以下、「半年以内に相談した」（19.7%）、「1年以上経ってから相談した」（7.6%）、「1年以内に相談した」（6.4%）の順になっている。

（9）お子さまの不調に気付いたが相談しなかった理由

◆問9で「2. 半年以内に相談した」「3. 1年以内に相談した」「4. 1年以上経ってから相談した」と答えた方におたずねします。  
問10 すぐに相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図2-9-1 お子さまの不調に気付いたが相談しなかった理由 全体



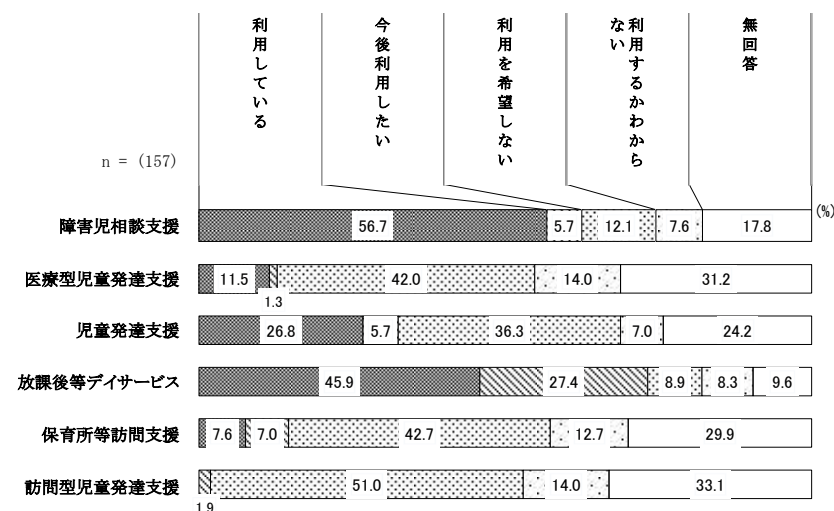
お子さまの不調に気付いたがすぐに相談しなかった理由について聞いたところ、具体的な選択肢の中では、「成長すれば変わると思った」（39.6%）で最も高かった。以下、「相談先がわからなかった」（15.1%）、「相談する時間がなかった」（5.7%）の順になっている。また、その他には「乳幼児健康診査のタイミングを待った」「医療機関の予約・手続きに時間がかかった」などが上げられている。

3. 福祉サービスの利用状況と利用意向について

（1）福祉サービスの利用状況・利用意向

問11 お子さまが、利用しているサービス、また、今後利用したいと思うサービスについておたずねします。サービスごとに、あてはまるもの1つに○をしてください。

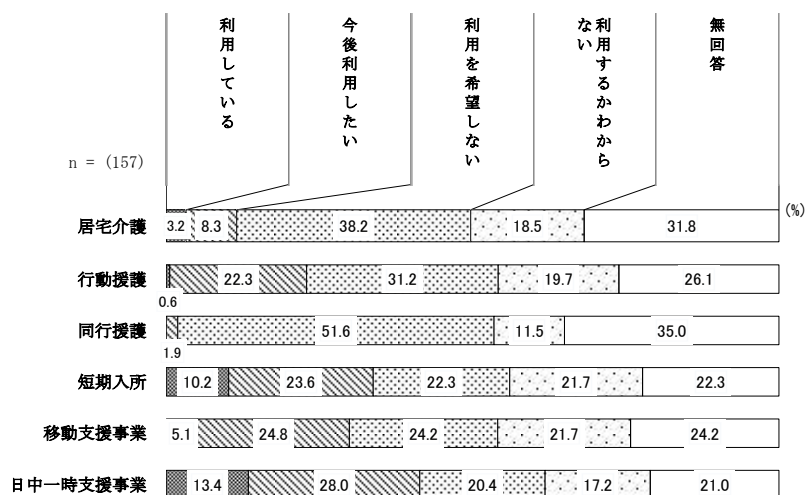
図3-1-1 主に18歳未満の方が利用するサービスの利用状況・利用意向 全体



主に18歳未満の方が利用するサービスの利用状況・利用意向について聞いたところ、「利用している」と回答した割合が高い項目については、「障害児相談支援」（56.7%）、「放課後等デイサービス」（45.9%）、「児童発達支援」（26.8%）となっている。

また、「今後利用したい」と回答した割合が最も高い項目については、「放課後等デイサービス」（27.4%）となっている。

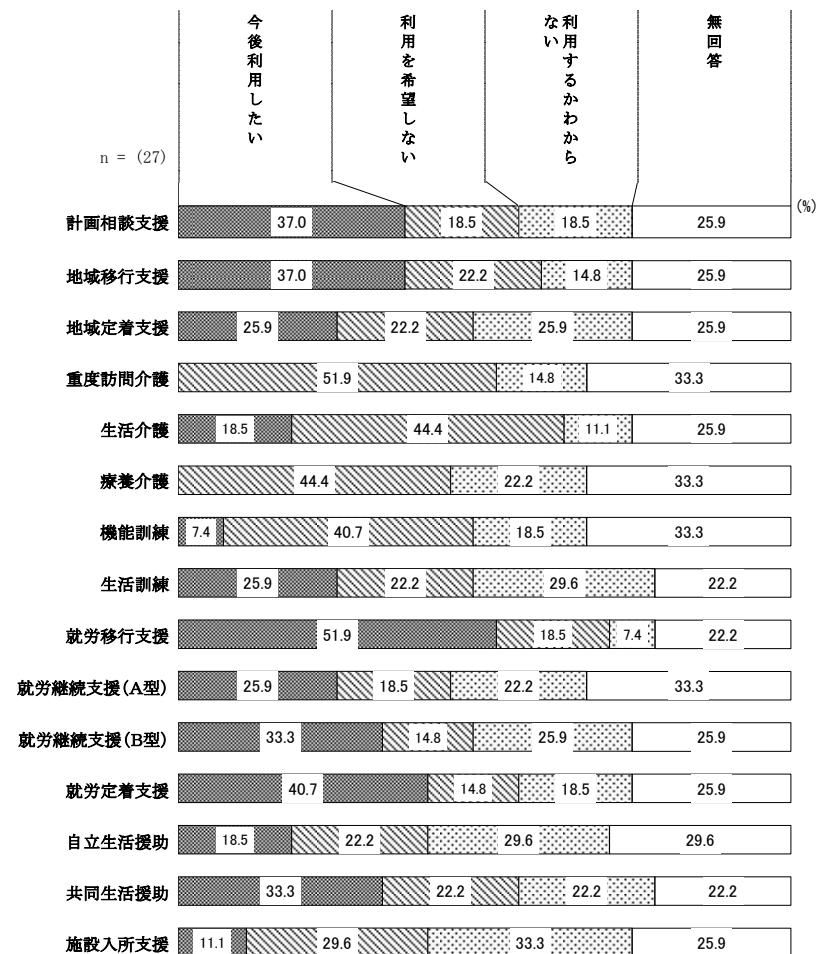
図3-1-2 児童期から利用できるサービスの利用状況・利用意向 全体



児童期から利用できるサービスの利用状況・利用意向について聞いたところ、「利用している」と回答した割合が高い項目については、「日中一時支援事業」（13.4%）、「短期入所」（10.2%）となっている。また、「今後利用したい」と回答した割合が高い項目については、「日中一時支援事業」（28.0%）、「移動支援事業」（24.8%）、「短期入所」（23.6%）となっている。

図3-1-3 主に18歳以上の方が利用するサービスの利用意向 全体

※お子さまが15歳以上（令和元年7月1日現在）の方に対する質問

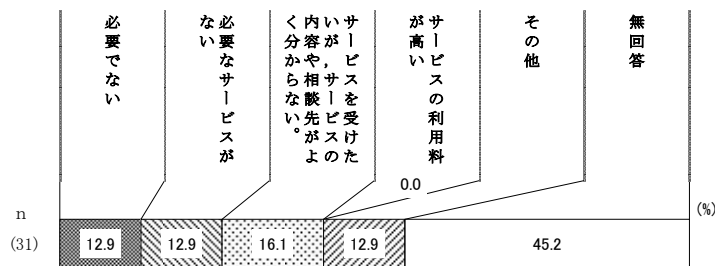


主に18歳以上の方が利用するサービスの利用意向について聞いたところ、「今後利用したい」と回答した割合が高い項目については、「就労移行支援」（51.9%）、「就労定着支援」（40.7%）となっている。

(2) 福祉サービスを利用していない理由

◆問11で「利用している」に1つも○がない方におたずねします。  
問12 お子さまが障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。（1つに○）

図3-2-1 福祉サービスを利用していない理由 全体



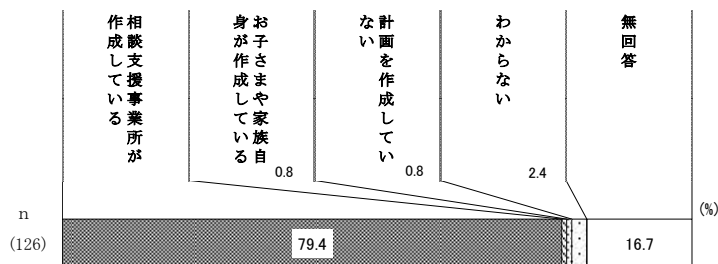
福祉サービスを利用していない理由について聞いたところ、「サービスを受けたいが、サービスの内容や相談先がよく分からない」（16.1%）が最も高かった。以下、「必要でない」（12.9%）、「必要なサービスがない」（12.9%）の順になっている。

4. 福祉サービス利用の満足度について

(1) サービス等利用計画の作成の有無

◆問11で「利用している」に○がある方におたずねします。  
問13 障害児支援利用計画を作成していますか。（1つに○）

図4-1-1 サービス等利用計画の作成の有無 全体

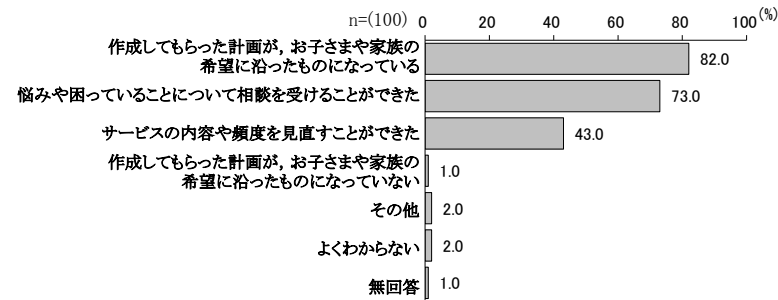


サービス等利用計画の作成の有無について聞いたところ、「相談支援事業所が作成している」が約8割（79.4%）で最も高かった。以下、「わからない」（2.4%）、「お子さまや家族自身が作成している」（0.8%）、「計画を作成していない」（0.8%）の順になっている。

(2) サービス等利用計画の作成への意見

◆問13で「1. 相談支援事業所が作成している」と答えた方におたずねします。  
問14 障害児支援利用計画の作成に関してのご意見をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

図4-2-1 サービス等利用計画の作成への意見 全体

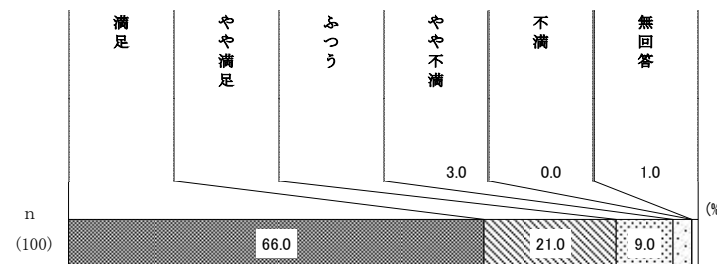


サービス等利用計画の作成への意見について聞いたところ、「作成してもらった計画が、お子さまや家族の希望に沿ったものになっている」が8割以上（82.0%）で最も高かった。以下、「悩みや困っていることについて相談を受けることができた」（73.0%）、「サービスの内容や頻度を見直すことができた」（43.0%）の順になっている。

(3) 相談支援専門員の支援の満足度

◆問13で「1. 相談支援事業所が作成している」と答えた方におたずねします。  
問15 担当する相談支援専門員の支援には満足していますか。（1つに○）

図4-3-1 相談支援専門員の支援の満足度 全体

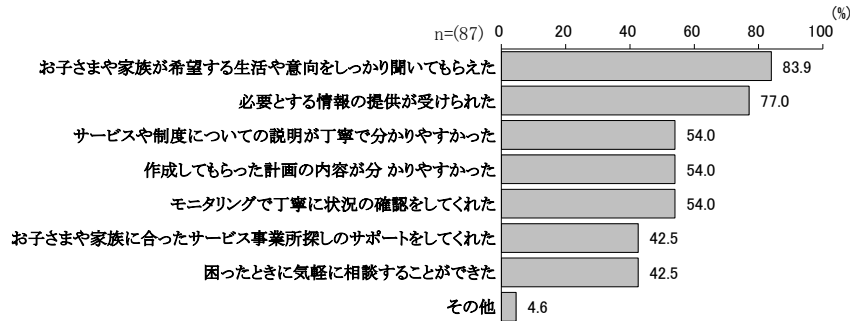


相談支援専門委員の支援の満足度について聞いたところ、「満足」（66.0%）と「やや満足」（21.0%）を合わせた肯定的な回答が9割近く（87.0%）を占めていた。

（4）相談支援専門員の支援に満足の理由

◆問15で「1. 満足」または「2. やや満足」と答えた方におたずねします。  
問16 満足の理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図4-4-1 相談支援専門員の支援に満足の理由 全体

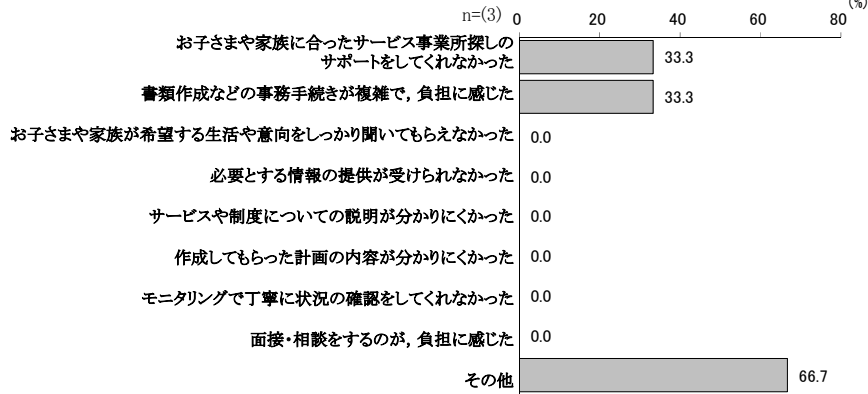


相談支援専門員の支援に満足の理由について聞いたところ、「お子さまや家族が希望する生活や意向をしっかりと聞いてもらった」(83.9%)で最も高かった。以下、「必要とする情報の提供が受けられた」(77.0%)、「サービスや制度についての説明が丁寧で分かりやすかった」(54.0%)、「作成してもらった計画の内容が分かりやすかった」(54.0%)、「モニタリングで丁寧に状況の確認をしてくれた」(54.0%)の順になっている。

（5）相談支援専門員の支援に不満の理由

◆問15で「4. やや不満」または「5. 不満」と答えた方におたずねします。  
問17 不満の理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図4-5-1 相談支援専門員の支援に不満の理由 全体

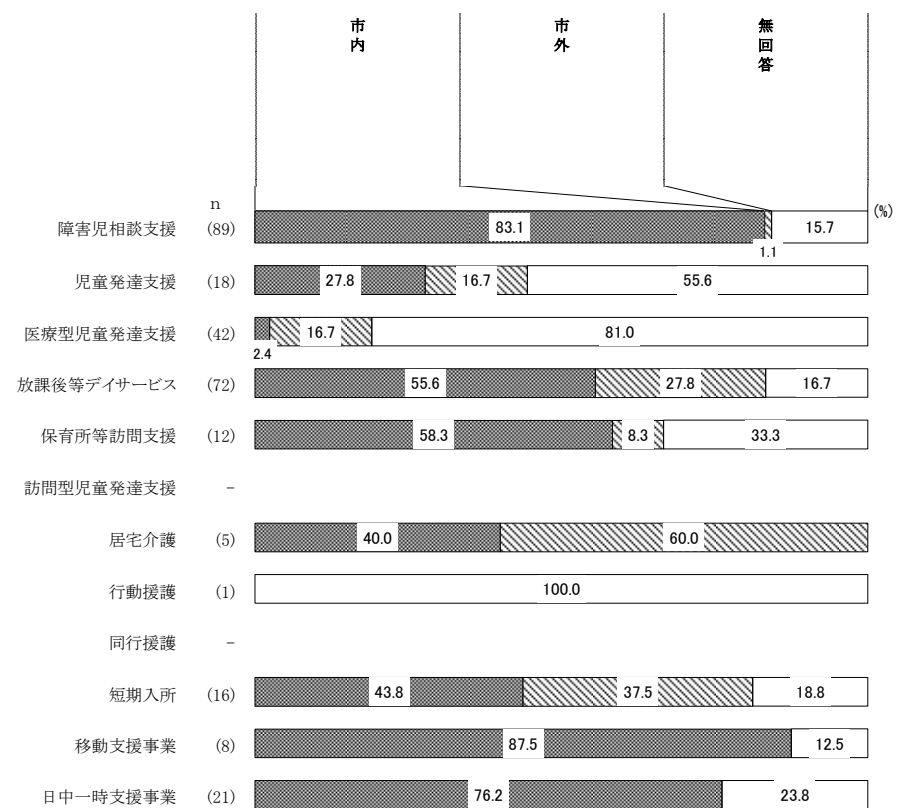


相談支援専門員の支援に不満の理由については、nが少ないため参考値とする。

（6）利用している福祉サービス事業者の所在地

◆問11で「利用している」に○をつけた方におたずねします。  
問18 利用しているサービスの事業者の所在地、満足度とその理由についておたずねします。

図4-6-1 利用している福祉サービス事業者の所在地 全体



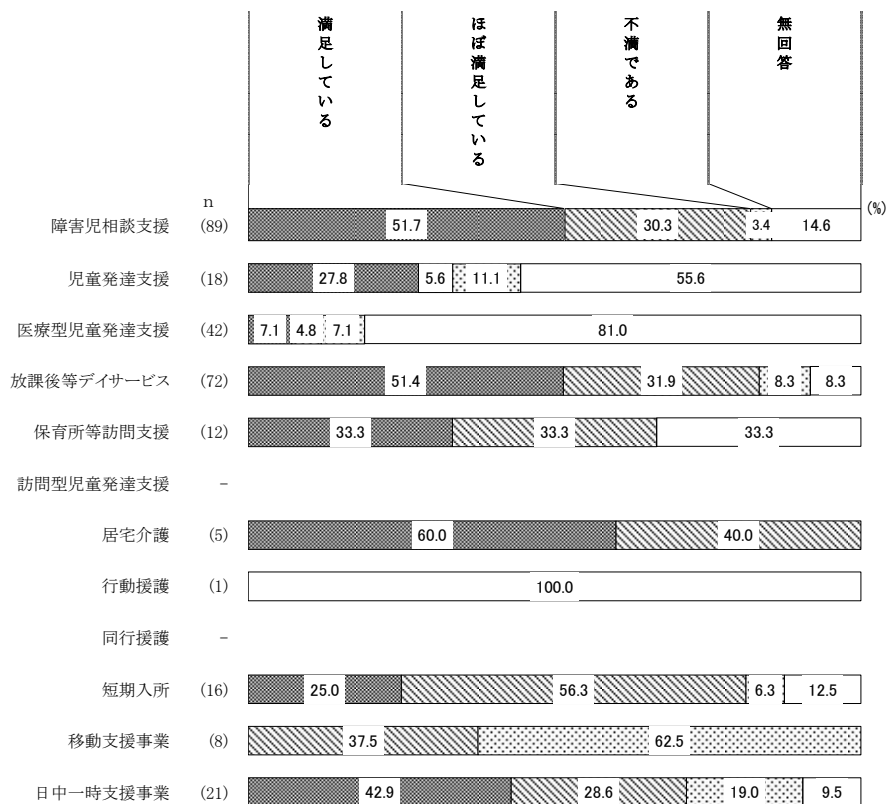
利用している福祉サービス事業者の所在地について聞いたところ、「市内」と回答した割合が高い項目については、「障害児相談支援」(83.1%)、「日中一時支援事業」(76.2%)、「保育所等訪問支援」(58.3%)となっている。

また、「市外」と回答した割合が高い項目については、「短期入所」(37.5%)、「放課後等デイサービス」(27.8%)となっている。

（7）利用している福祉サービス事業者の満足度

◆問11で「利用している」に○をつけた方におたずねします。  
問18 利用しているサービスの事業者の所在地、満足度とその理由についておたずねします。

図4-7-1 利用している福祉サービス事業者の満足度 全体



利用している福祉サービス事業者の満足度について聞いたところ、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた肯定的な回答の割合が高い項目については、「放課後等デイサービス」(83.3%)、「障害児相談支援」(82.0%)、「短期入所」(81.3%)となっている。

一方、「不満である」と回答した割合が高い項目については、「日中一時支援事業」(19.0%)、「児童発達支援」(11.1%)となっている。

（8）利用している福祉サービス事業者に不満の理由

◆問11で「利用している」に○をつけた方におたずねします。  
問18 利用しているサービスの事業者の所在地、満足度とその理由についておたずねします。

表4-8-1 利用している福祉サービス事業者に不満の理由 全体

	全体 (n)	事業者のサービスの質	希望したサービス内容ではない	支給決定を受けたがサービスが受けられない	市内にサービス事業所が少ないまたははない	希望する時間にサービスが受けられない	無回答
障害児相談支援	3	66.7	33.3	-	-	-	-
児童発達支援	2	-	50.0	-	50.0	-	-
医療型児童発達支援	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-
放課後等デイサービス	6	16.7	16.7	-	66.7	33.3	-
保育所等訪問支援	-	-	-	-	-	-	-
訪問型児童発達支援	-	-	-	-	-	-	-
居宅介護	-	-	-	-	-	-	-
行動援護	-	-	-	-	-	-	-
同行援護	-	-	-	-	-	-	-
短期入所	1	-	-	-	100.0	-	-
移動支援事業	5	20.0	-	-	20.0	60.0	-
日中一時支援事業	4	-	-	-	75.0	75.0	-

利用している福祉サービス事業者に不満の理由については、いずれの項目もnが少ないため参考値とする。

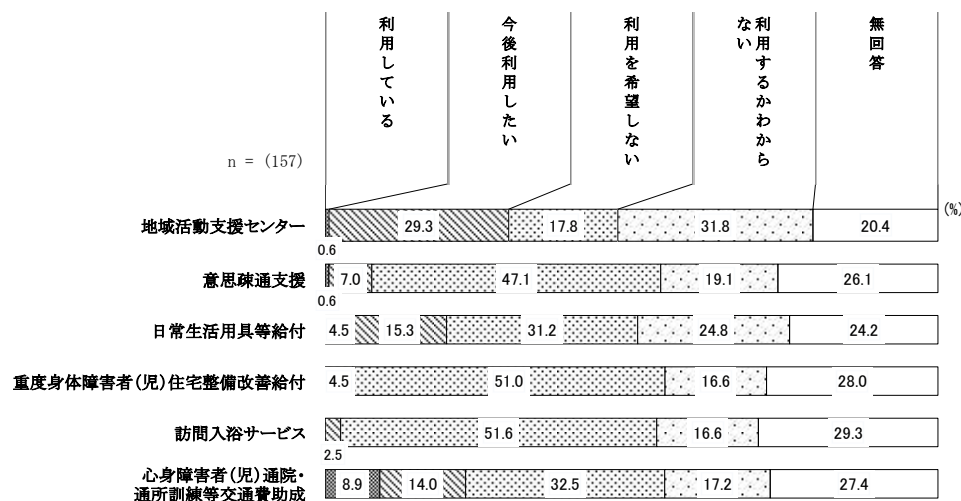


## 5. その他のサービスについて

### (1) その他のサービスの利用状況・利用意向

問19 お子さまは、次のようなサービスを利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。サービスごとに、利用状況または利用意向についてあてはまるものに○をしてください。

図5-1-1 その他のサービスの利用状況・利用意向 全体



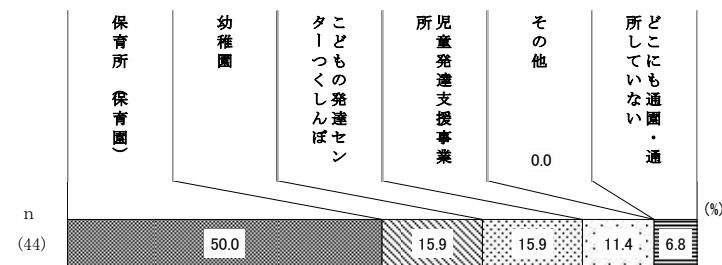
その他のサービスの利用状況・利用意向について聞いたところ、「利用している」については、いずれの項目も1割未満にとどまっている。また、「今後利用したい」と回答した割合が高い項目については、「地域活動支援センター」(29.3%)、「日常生活用具等給付」(15.3%)となっている。

## 6. 教育・保育について

### (1) 通園・通所場所

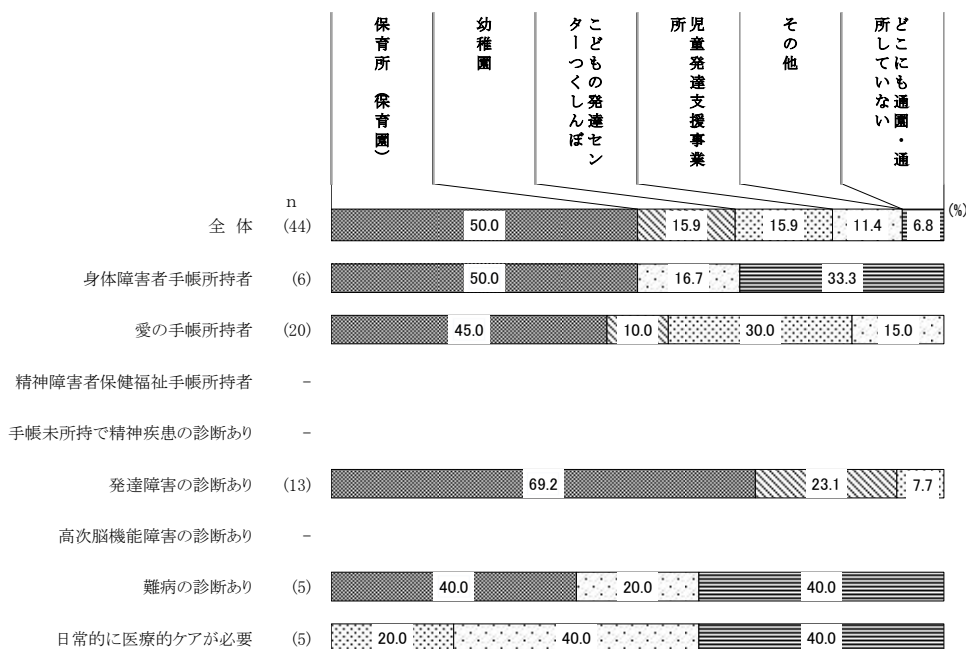
◆お子さまが小学校就学前の方におたずねします。  
問20 お子さまは、どこに通園・通所していますか。(1つに○)

図6-1-1 通園・通所場所 全体



通園・通所場所について聞いたところ、「保育所(保育園)」が5割(50.0%)で最も高かった。以下、「幼稚園」,「こどもの発達センターつくしんぼ」(ともに15.9%)、「児童発達支援事業所」(11.4%)の順になっている。

図6-1-2 通園・通所場所 障害種別



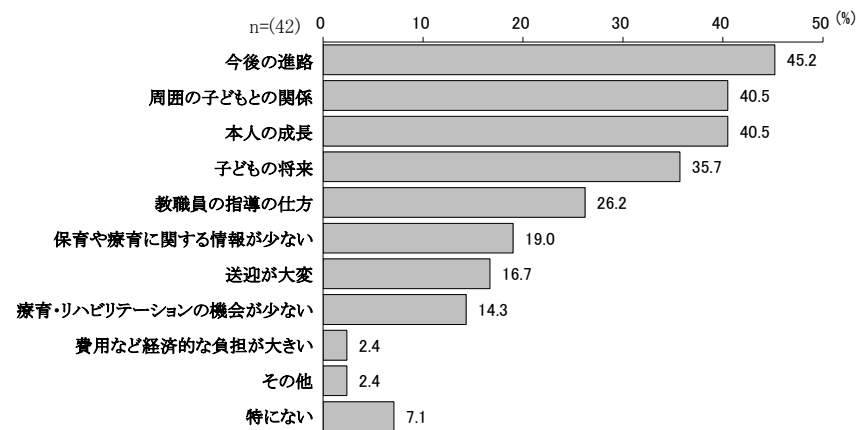
障害種別にみると、発達障害の診断を受けている人は「保育所（保育園）」の割合が高く、約7割（69.2%）となっている。

（2）通園・通所に関する困りごとや心配ごと

◆お子さまが小学校就学前の方におたずねします。

問21 お子さまの通園・通所で困っていることや心配していることはありますか。（主なもの3つまで○）

図6-2-1 通園・通所に関する困りごとや心配ごと 全体

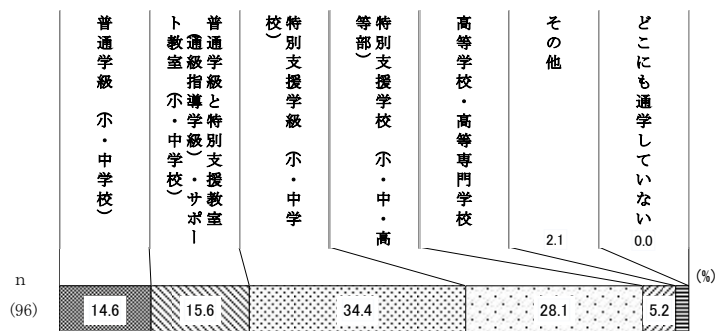


通園・通所に関する困りごとや心配ごとについて聞いたところ、「今後の進路」が4割半ば（45.2%）で最も高かった。以下、「周囲の子どもの関係」、「本人の成長」（ともに40.5%）、「子どもの将来」（35.7%）の順になっている。

(3) 通学場所

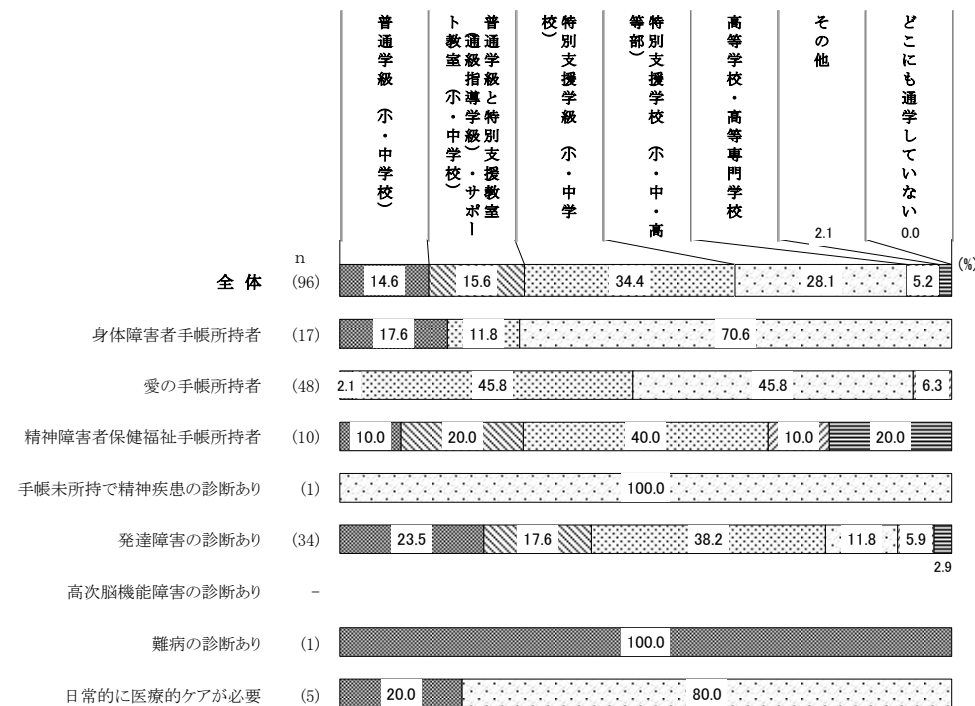
◆お子さまが小学校就学後の方におたずねします。  
問22 お子さまは、どこに通学していますか。(1つに○)

図6-3-1 通学場所 全体



通学場所について聞いたところ、「特別支援学級（小・中学校）」が3割半ば（34.4%）で最も高かった。以下、「特別支援学校（小・中・高等部）」（28.1%）,「普通学級と特別支援教室（通級指導学級）・サポート教室（小・中学校）」（15.6%）,「普通学級（小・中学校）」（14.6%）の順になっている。

図6-3-2 通学場所 障害種別



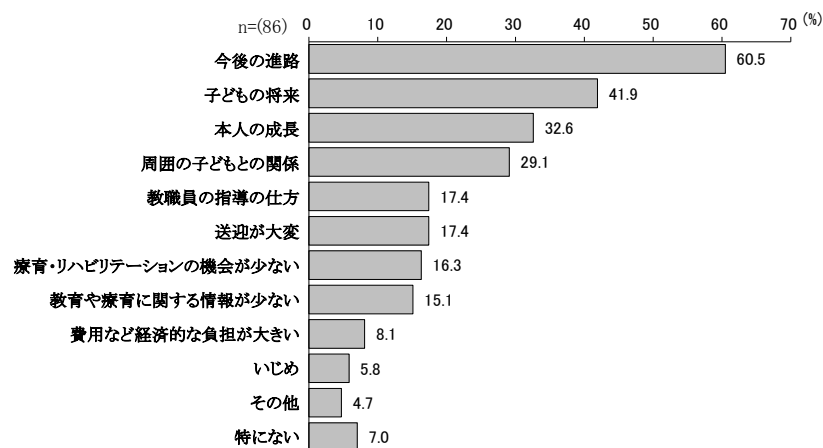
障害種別にみると、「特別支援学校（小・中・高等部）」については、身体障害者手帳所持者が約7割（70.6%）,愛の手帳所持者が4割半ば（45.8%）で全体に比べて高くなっている。また、「特別支援学級（小・中学校）」については、愛の手帳所持者が4割半ば（45.8%）、精神障害者保健福祉手帳所持者が4割（40.0%）,「普通学級（小・中学校）」については、発達障害の診断を受けている人が2割以上（23.5%）で高くなっている。

（4）通学に関する困りごとや心配ごと

◆お子さまが小学校就学後の方におたずねします。

問23 お子さまの通学で困っていることや心配していることはありますか。（主なもの3つまで○）

図6-4-1 通学に関する困りごとや心配ごと 全体



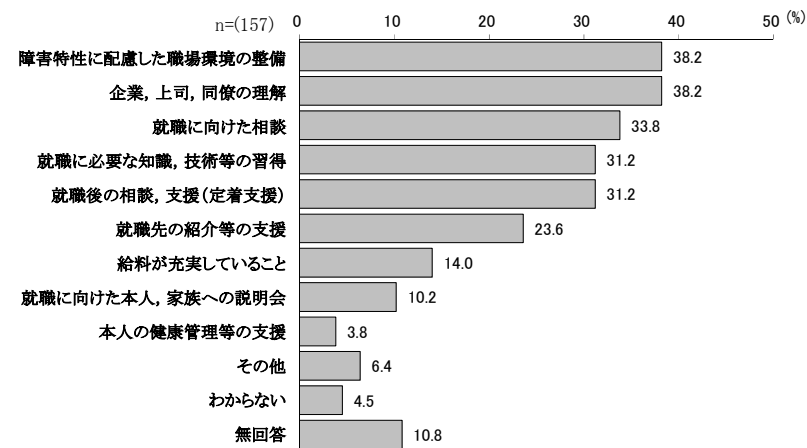
通学に関する困りごとや心配ごとについて聞いたところ、「今後の進路」が約6割（60.5%）で最も高かった。以下、「子どもの将来」（41.9%）、「本人の成長」（32.6%）、「周囲の子どもの関係」（29.1%）の順になっている。

7. 将来について

（1）将来、就職するために必要だと思うこと

問24 お子さまが、今後（将来）仕事に就くために必要だと思うことは何ですか。（主なもの3つまで○）

図7-1-1 将来、就職するために必要だと思うこと 全体

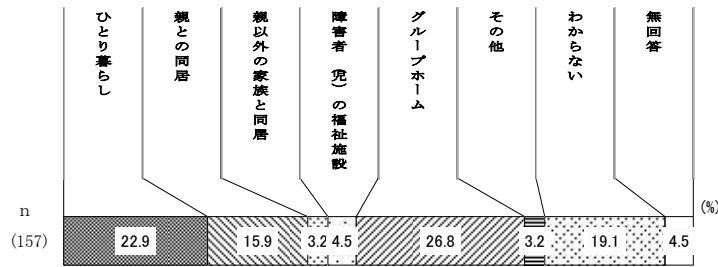


将来、就職するために必要だと思うことについて聞いたところ、「障害特性に配慮した職場環境の整備」と「企業、上司、同僚の理解」が4割近く（ともに38.2%）で最も高かった。以下、「就職に向けた相談」（33.8%）、「就職に必要な知識、技術等の習得」（31.2%）、「就職後の相談、支援（定着支援）」（31.2%）、「就職先の紹介等の支援」（23.6%）の順になっている。

(2) 将来希望する暮らし

問25 お子さまが、今後（将来）どのような住まいで生活することを希望していますか。  
（1つに○）

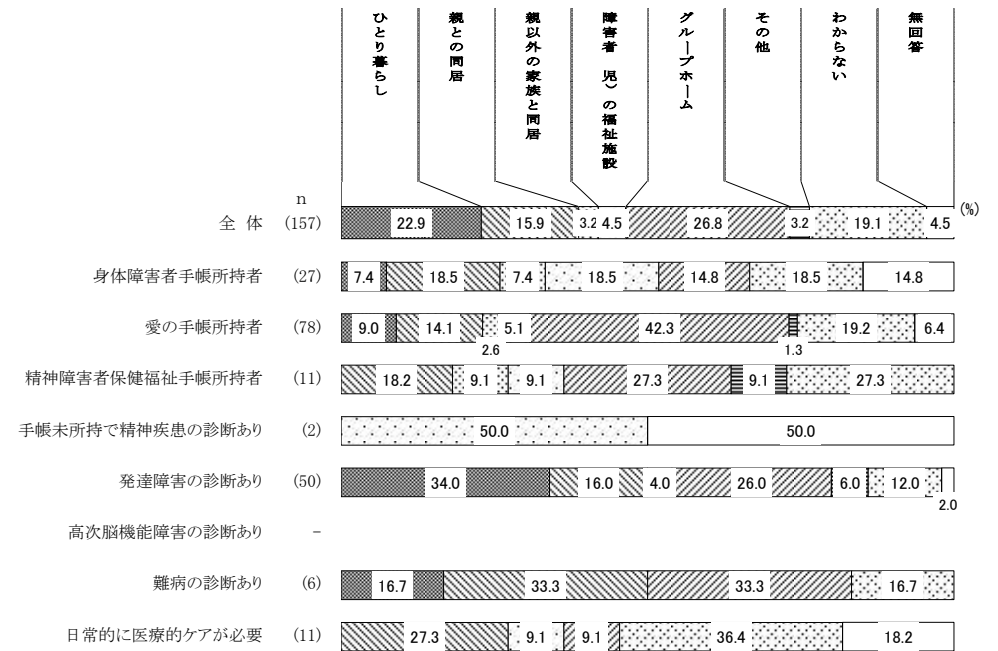
図7-2-1 将来希望する暮らし 全体



※グループホーム：世話人による介護や支援、見守りがある少人数で共同生活を行う場

将来希望する暮らしについて聞いたところ、「グループホーム」が3割近く（26.8%）で最も高かった。以下、「ひとり暮らし」（22.9%）, 「わからない」（19.1%）, 「親との同居」（15.9%）の順になっている。また、「その他」（3.2%）では、具体的に「本人の希望に応じて考えていきたい」などが記載されていた。

図7-2-2 将来希望する暮らし 障害種別

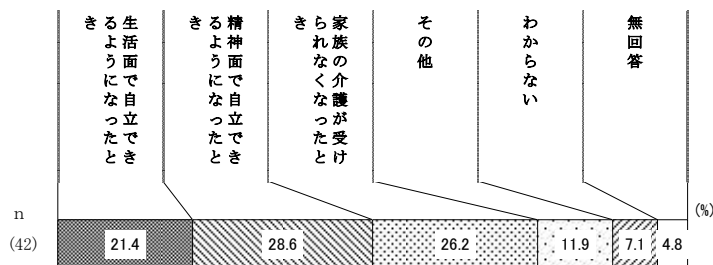


障害種別にみると、「グループホーム」については、愛の手帳所持者が4割以上（42.3%）で全体に比べて高くなっている。また、「ひとり暮らし」については、発達障害の診断を受けている人が3割半ば（34.0%）, 「親との同居」については、日常的に医療的ケアが必要な人が3割近く（27.3%）, 「障害者（児）の福祉施設」については、身体障害者手帳所持者が2割近く（18.5%）で高くなっている。

(3) グループホームの利用を希望する時期

◆問25で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。  
問26 いつ頃からグループホームで暮らしたいと思っていますか。（1つに○）

図7-3-1 グループホームの利用を希望する時期 全体



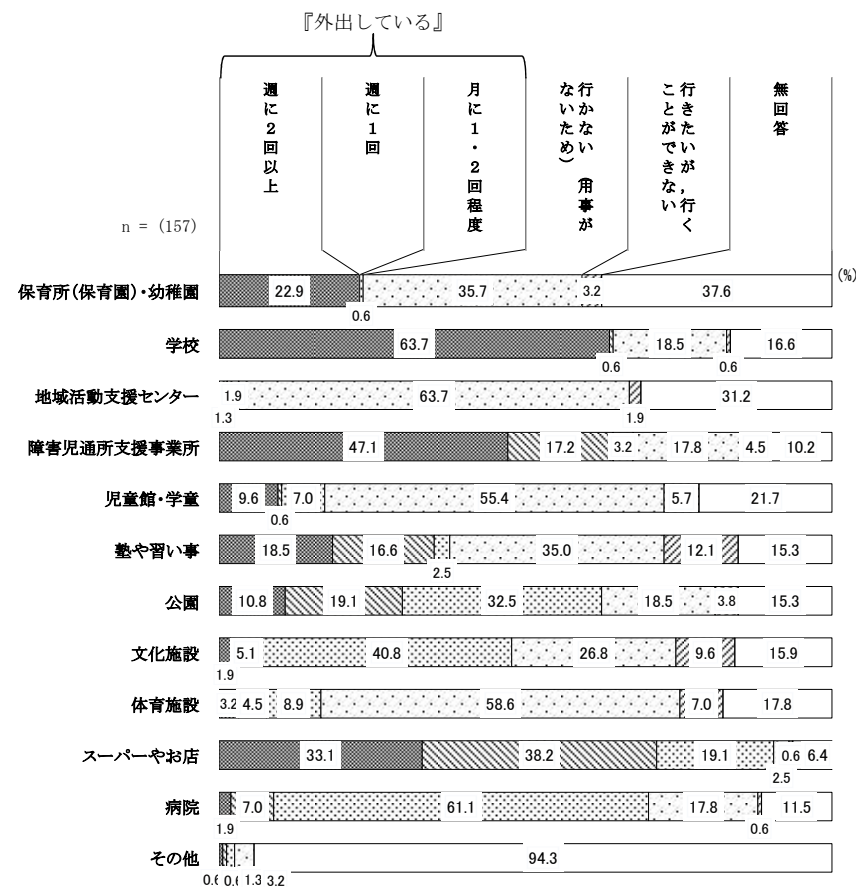
グループホームの利用を希望する時期について聞いたところ、「精神面で自立できるようになったとき」が3割近く（28.6%）で最も高かった。以下、「家族の介護が受けられなくなったとき」（26.2%）, 「生活面で自立できるようになったとき」（21.4%）の順になっている。

8. 外出について

(1) 外出頻度

問27 お子さまの外出頻度についておたずねします。外出先ごとに、あてはまるものに○をしてください。また、「行きたいが、行くことができない」と答えた方はその理由について、あてはまるものすべてに○をしてください。

図8-1-1 外出頻度 全体



外出頻度について聞いたところ、「週に2回以上」と「週に1回」、「月に1・2回程度」を合わせた『外出している』と回答した割合が高い項目については、「スーパーやお店」（90.4%）, 「病院」（70.0%）, 「障害児通所支援事業所」（67.5%）となっている。

（2）外出をしたくてもできない理由

問27 お子さまの外出頻度についておたずねします。外出先ごとに、あてはまるものに○をしてください。また、「行きたいが、行くことができない」と答えた方はその理由について、あてはまるものすべてに○をしてください。

図8-2-1 外出をしたくてもできない理由 全体

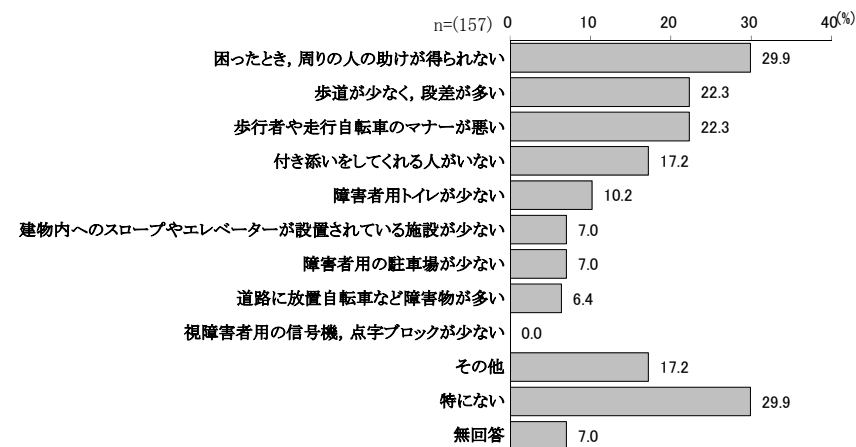
	全体 (n)	体力に自信がない	移動の手段の確保が困難	施設等がバリアフリー化されていない	施設等がバリアフリー	介助者がいない	外出に要する費用を負担できない	無回答
保育所（保育園）・幼稚園	5	20.0	-	40.0	60.0	-	-	-
学校	1	-	-	-	-	-	-	100.0
地域活動支援センター	3	33.3	-	-	66.7	-	-	-
障害児通所支援事業所	7	28.6	28.6	-	14.3	14.3	42.9	-
児童館・学童	9	22.2	22.2	11.1	44.4	-	22.2	-
塾や習い事	19	26.3	36.8	5.3	52.6	36.8	19	-
公園	6	83.3	33.3	-	50.0	16.7	6	-
文化施設	15	20.0	20.0	20.0	53.3	13.3	6.7	-
体育施設	11	9.1	36.4	-	72.7	9.1	9.1	-
スーパーやお店	1	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-
病院	1	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

外出をしたくてもできない理由について聞いたところ、「体力に自信がない」と回答した割合が高い項目については、「塾や習い事」が3割近く(26.3%)となっている。また、「移動の手段の確保が困難」と回答した割合が高い項目については、「塾や習い事」と「体育施設」が4割近く(36.8%, 36.4%)、「施設等がバリアフリー化されていない」と回答した割合が高い項目については、「文化施設」が2割(20.0%)、「介助者がいない」と回答した割合が高い項目については、「体育施設」が7割以上(72.7%)、「外出に要する費用を負担できない」と回答した割合が高い項目については、「塾や習い事」が4割近く(36.8%)となっている。

（3）外出時に感じる困難や不便

問28 お子さまが外出するとき、どのようなことに不便や困難を感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

図8-3-1 外出時に感じる困難や不便 全体



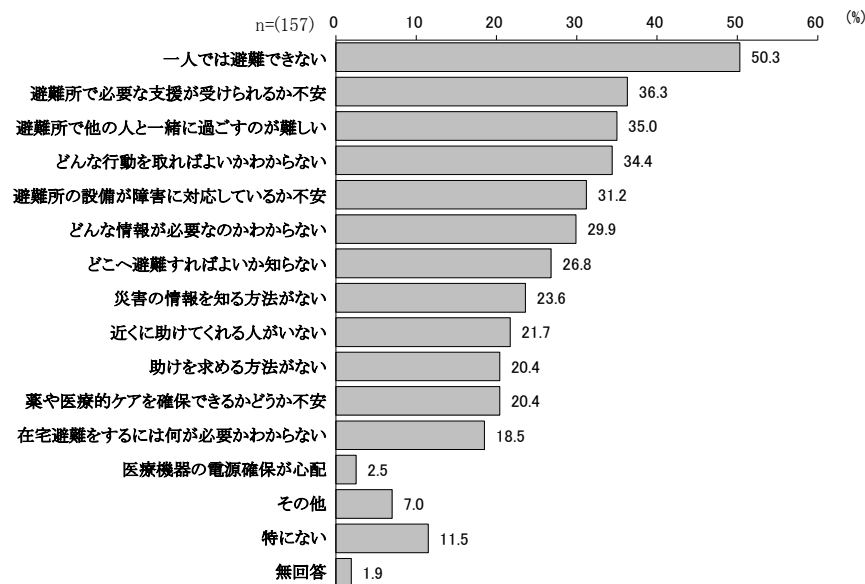
外出時に感じる困難や不便について聞いたところ、「困ったとき、周りの人の助けが得られない」が約3割(29.9%)で最も高かった。以下、「歩道が少なく、段差が多い」(22.3%)、「歩行者や走行自転車のマナーが悪い」(22.3%)、「付き添いをしてくれる人がいない」(17.2%)、「障害者用トイレが少ない」(10.2%)の順になっている。一方、「特になし」は約3割(29.9%)となっている。

## 9. 災害への備えについて

### （1）災害発生時に困ることや不安に感じること

問29 お子さまにとって、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図9-1-1 災害発生時に困ることや不安に感じること 全体

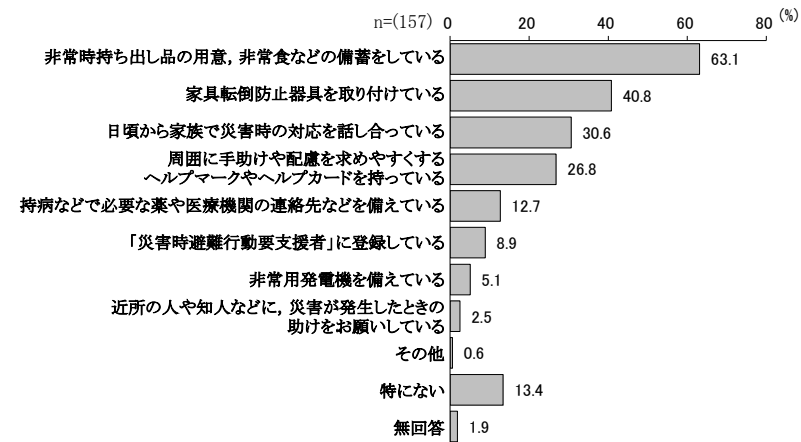


災害発生時に困ることや不安に感じることについて聞いたところ、「一人では避難できない」が約5割（50.3%）で最も高かった。以下、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」（36.3%）、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」（35.0%）、「どんな行動を取ればよいかわからない」（34.4%）、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」（31.2%）の順になっている。

### （2）災害に対する備え

問30 お子さまやあなた（保護者の方）は、災害に対してどのような備えをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

図9-2-1 災害に対する備え 全体



災害に対する備えについて聞いたところ、「非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている」（63.1%）で最も高かった。以下、「家具転倒防止器具を取り付けている」（40.8%）、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」（30.6%）、「周囲に手助けや配慮を求めやすくするヘルプマークやヘルプカードを持っている」（26.8%）の順になっている。

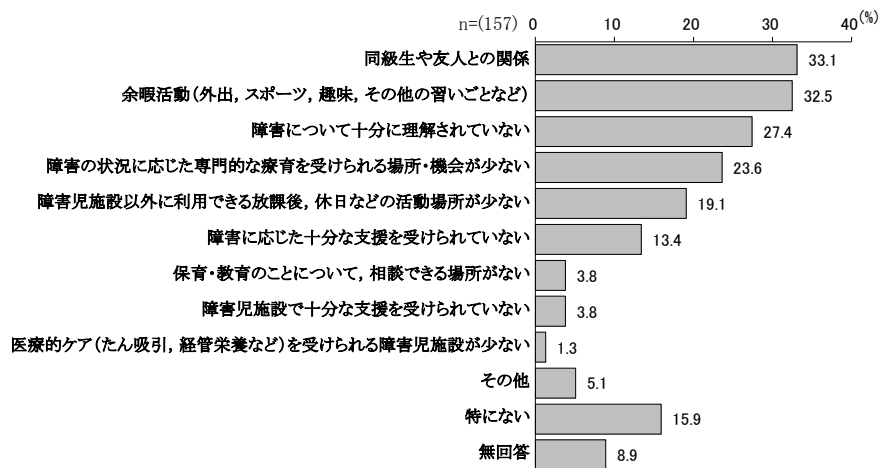


10. 相談や福祉の情報について

(1) お子さまの日常生活に関する不安や課題

問31 お子さまについて、日常生活に関して、不安や課題を感じていることはありますか。  
(主なものを3つまで○)

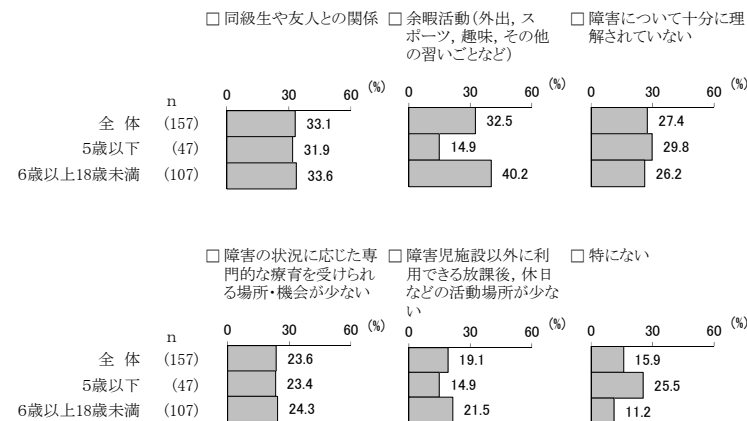
図10-1-1 お子さまの日常生活に関する不安や課題 全体



※障害児施設：つくしんぼ，児童発達支援事業所，放課後等デイサービスなど

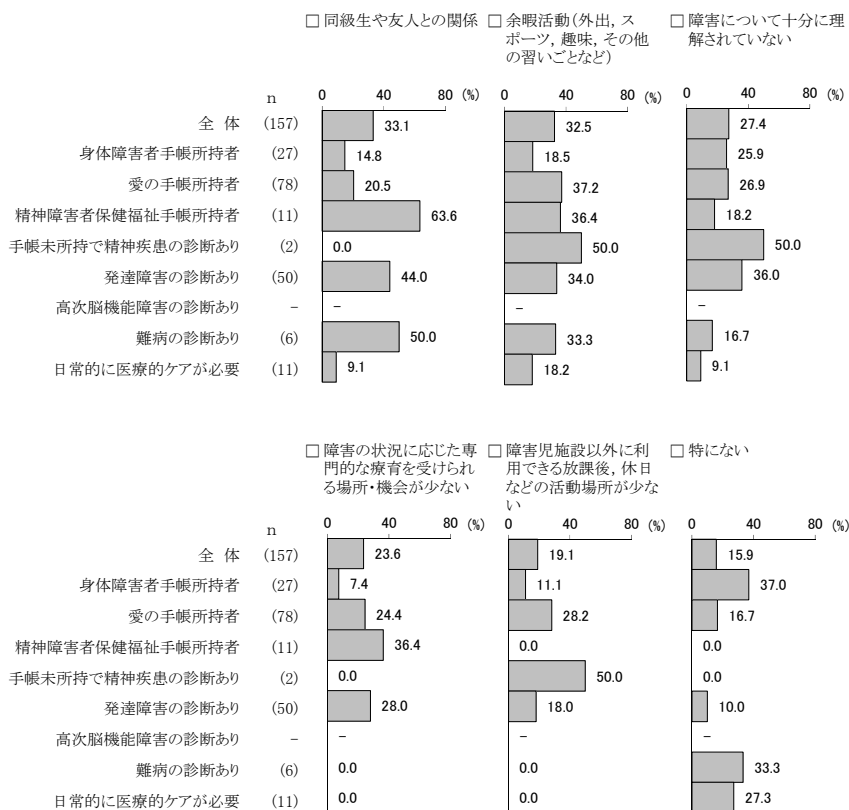
お子さまの日常生活に関する不安や課題について聞いたところ、「同級生や友人との関係」が3割以上(33.1%)で最も高かった。以下、「余暇活動(外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごとなど)」(32.5%)、「障害について十分に理解されていない」(27.4%)、「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない」(23.6%)の順になっている。

図10-1-2 お子さまの日常生活に関する不安や課題 年齢別（上位6項目）



年齢別でみると、「余暇活動(外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごとなど)」については、6歳以上18歳未満が約4割(40.2%)で5歳以下(14.9%)に比べて高くなっている。一方、「特にない」については、5歳以下が2割半ば(25.5%)で6歳以上18歳未満(11.2%)に比べて高くなっている。

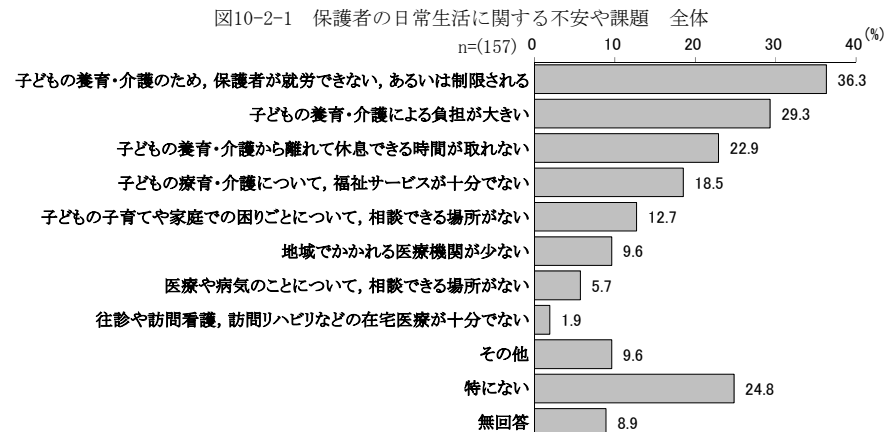
図10-1-3 お子さまの日常生活に関する不安や課題 障害種別（上位6項目）



障害種別にみると、「同級生や友人との関係」については、精神障害者保健福祉手帳所持者が6割以上（63.6%）、発達障害の診断を受けている人が4割半ば（44.0%）で全体に比べて高くなっている。また、「障害の状況に応じた専門的な療養を受けられる場所・機会が少ない」については、精神障害者保健福祉手帳所持者が4割近く（36.4%）、「障害について十分に理解されていない」については、発達障害の診断を受けている人が3割半ば（36.0%）で高くなっている。

(2) 保護者の日常生活に関する不安や課題

問32 あなた（保護者の方）は、日常生活に関して、不安や課題を感じていることはありますか。（主なもの3つまで○）



保護者の日常生活に関する不安や課題について聞いたところ、「子どもの養育・介護のため、保護者が就労できない、あるいは制限される」が4割近く（36.3%）で最も高かった。以下、「子どもの養育・介護による負担が大きい」（29.3%）、「子どもの養育・介護から離れて休息できる時間が取れない」（22.9%）、「子どもの療育・介護について、福祉サービスが十分でない」（18.5%）の順になっている。

一方、「特にない」は2割半ば（24.8%）となっている。

図10-2-2 保護者の日常生活に関する不安や課題 年齢別（上位6項目）

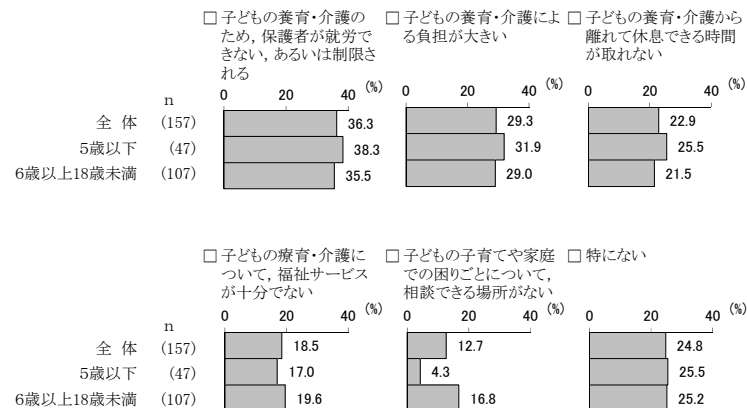
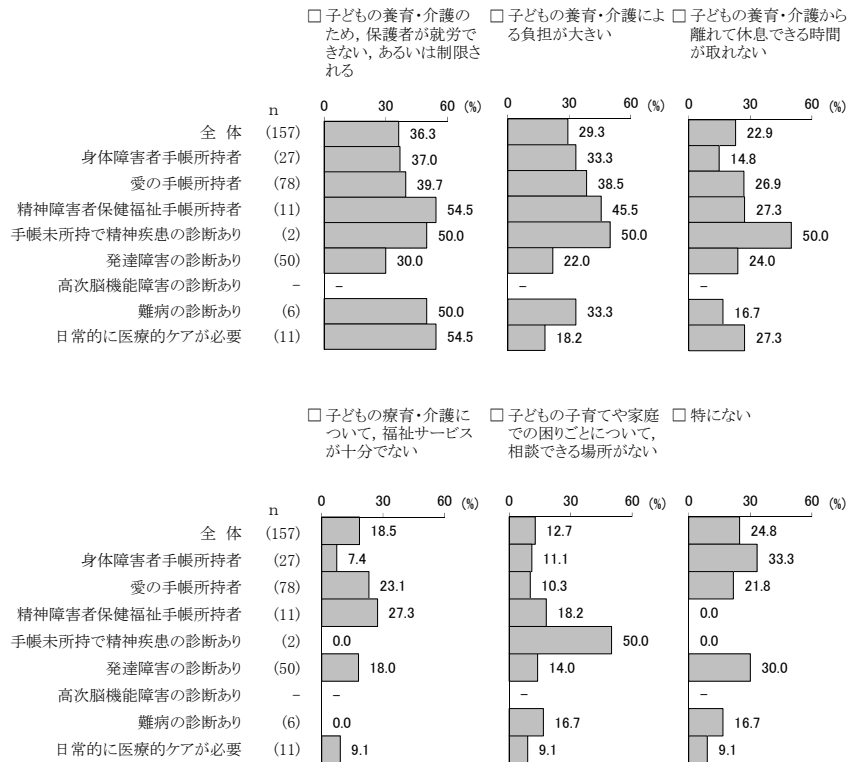


図10-2-3 保護者の日常生活に関する不安や課題 障害種別（上位6項目）

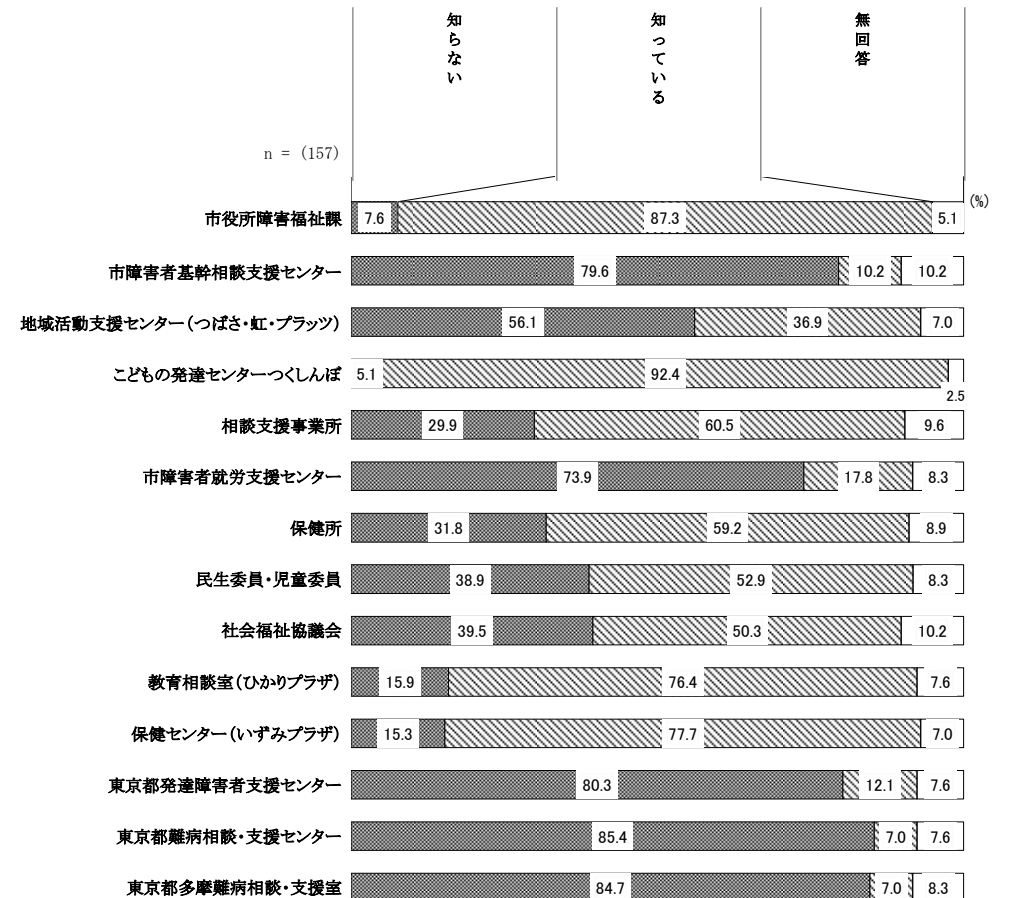


障害種別にみると、「子どもの養育・介護のため、保護者が就労できない、あるいは制限される」については、精神障害者保健福祉手帳所持者と日常的に医療的ケアが必要な人が5割半ば（ともに54.5%）で全体に比べて高くなっている。また、「子どもの養育・介護による負担が大きい」については、精神障害者保健福祉手帳所持者が4割半ば（45.5%）で高くなっている。

（3）福祉の相談窓口・機関の認知度

問33 あなた（保護者の方）が知っている、または利用したことがある相談窓口・機関はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

図10-3-1 福祉の相談窓口・機関の認知度 全体

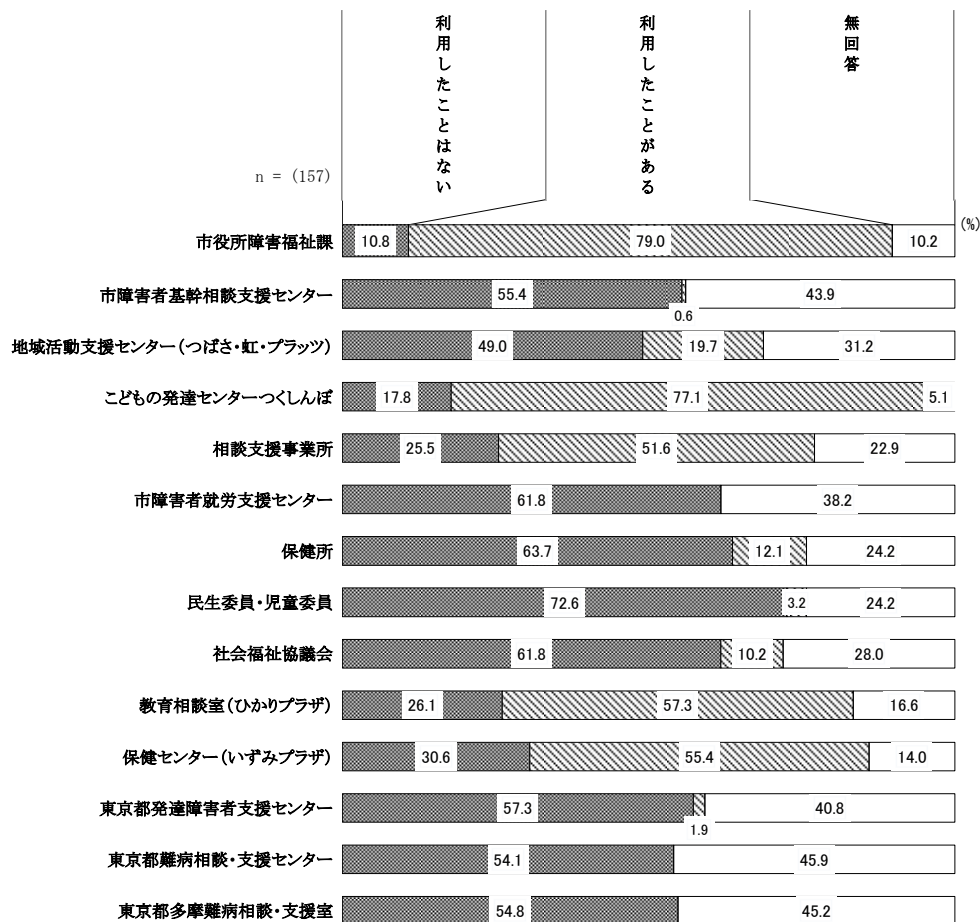


福祉の相談窓口・機関の認知度について聞いたところ、「知っている」と回答した割合が高い項目については、「こどもの発達センターつくしんぼ」（92.4%）、「市役所障害福祉課」（87.3%）、「保健センター（いずみプラザ）」（77.7%）となっている。

（4）福祉の相談窓口・機関の利用経験の有無

問33 あなた（保護者の方）が知っている、または利用したことがある相談窓口・機関はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

図10-4-1 福祉の相談窓口・機関の利用経験の有無 全体

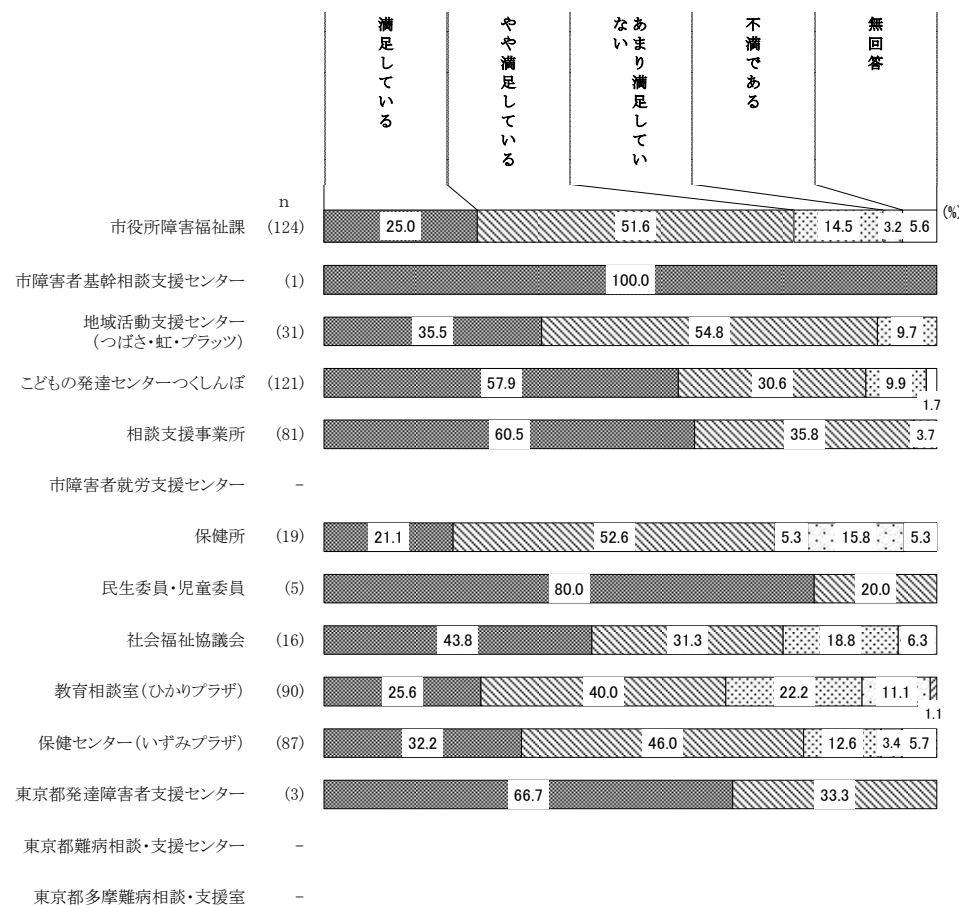


福祉の相談窓口・機関の利用経験の有無について聞いたところ、「利用したことがある」と回答した割合が高い項目については、「市役所障害福祉課」(79.0%)、「こどもの発達センターつくしんぼ」(77.1%)、「教育相談室(ひかりプラザ)」(57.3%)となっている。

（5）福祉の相談窓口・機関の満足度

問33 あなた（保護者の方）が知っている、または利用したことがある相談窓口・機関はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

図10-5-1 福祉の相談窓口・機関の満足度 全体



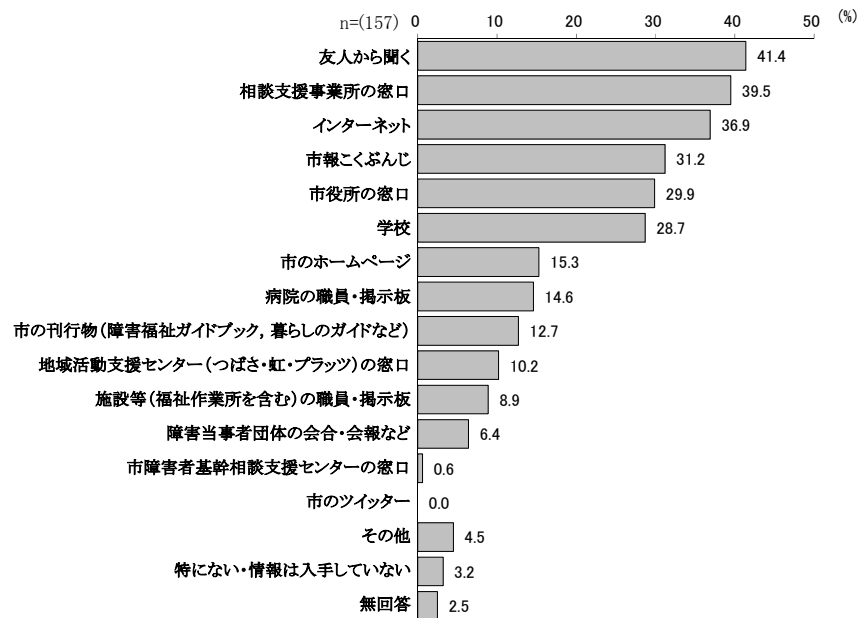
福祉の相談窓口・機関の満足度について聞いたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的な回答の割合が高い項目については、「相談支援事業所」(96.3%)、「地域活動支援センター」(90.3%)、「こどもの発達センターつくしんぼ」(88.5%)となっている。

一方、「あまり満足していない」と「不満である」を合わせた回答の割合が高い項目については、「教育相談室(ひかりプラザ)」(33.3%)、「社会福祉協議会」(25.1%)、「保健所」(21.1%)となっている。

（6）福祉サービス等の情報の入手経路

問34 お子さまのことであなた（保護者の方）は、福祉サービス等に関する情報をどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

図10-6-1 福祉サービス等の情報の入手経路 全体



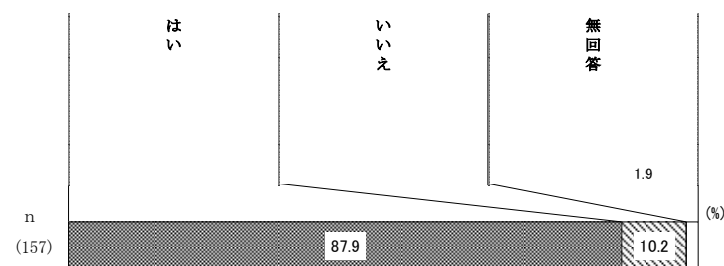
福祉サービス等の情報の入手経路について聞いたところ、「友人から聞く」が4割以上（41.4%）で最も高かった。以下、「相談支援事業所の窓口」（39.5%）、「インターネット」（36.9%）、「市報こくぶんじ」（31.2%）、「市役所の窓口」（29.9%）、「学校」（28.7%）の順になっている。

1.1 ヘルプマークとヘルプカードについて

（1）ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

問35 あなた（保護者の方）はヘルプマークまたはヘルプカードを知っていますか。

図11-1-1 ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度 全体

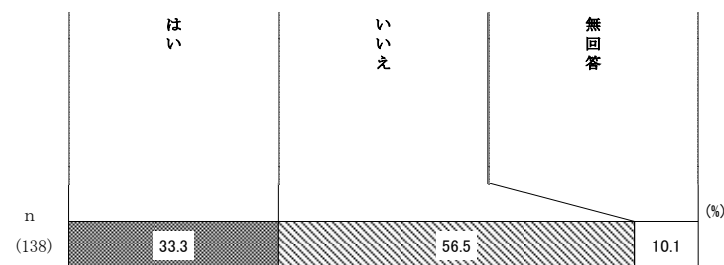


（2）ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無

◆問35で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問36 お子さまはヘルプマークまたはヘルプカードを持っていますか。

図11-2-1 ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無 全体

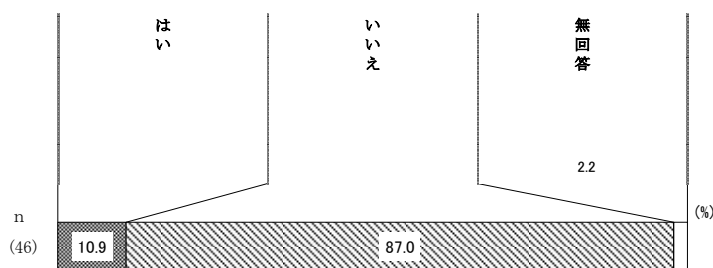


（3）ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無

◆問36で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問37 お子さまはヘルプマークまたはヘルプカードを使用することで、周囲の手助けが受けられたことはありますか。（電車、バスで優先席に座りやすくなったなど）

図11-3-1 ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無 全体

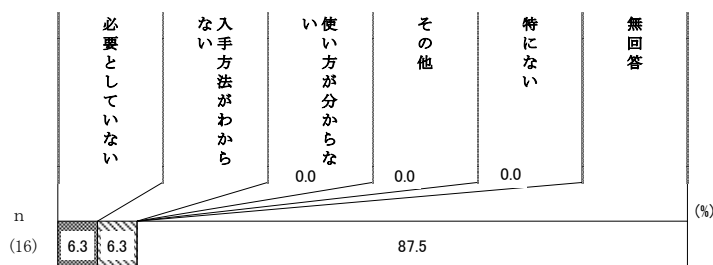


（4）ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由

◆問36で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。

問38 ヘルプマークまたはヘルプカードを持っていない理由は何ですか。（1つに○）

図11-4-1 ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由 全体



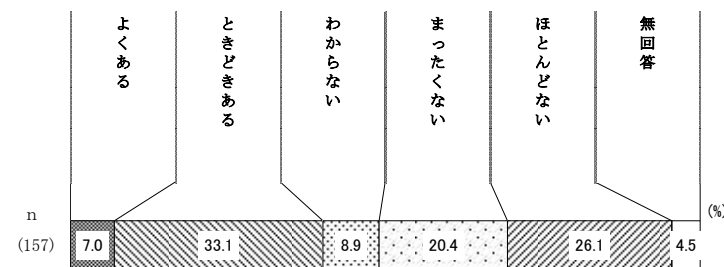
ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由について聞いたところ、「必要としていない」(6.3%)、「入手方法がわからない」(6.3%)の回答があった。

12. 障害を理由とする差別等について

（1）障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無

問39 お子さまは過去3年の間に障害があるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（1つに○）

図12-1-1 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無 全体



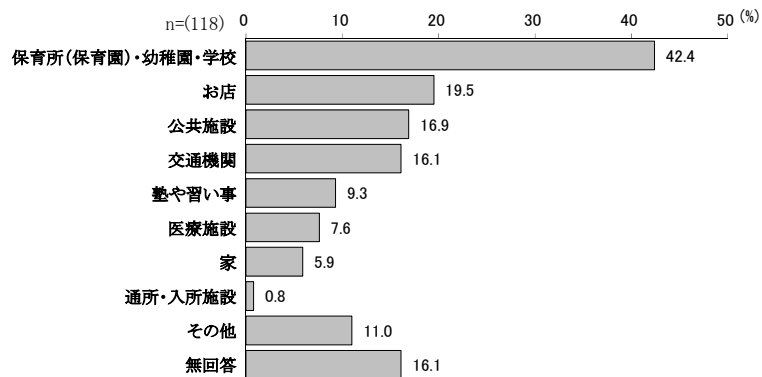
障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無について聞いたところ、「ほとんどない」は3割近く(26.1%)、「まったくない」は約2割(20.4%)となっている。一方、障害による差別やいやな思いを受けた経験がある中では、「よくある」(7.0%)、「ときどきある」(33.1%)を合わせると、約4割(40.1%)となっている。

（2）差別やいやな思いを受けた場所

◆問39で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」「4. わからない」と答えた方におたずねします。

問40 お子さまはどこで、誰から、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをされましたか。また、あなた（保護者の方）はどこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

図12-2-1 差別やいやな思いを受けた場所 全体



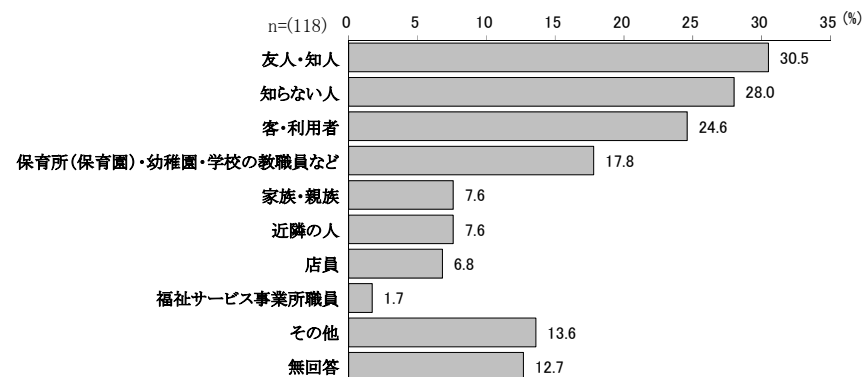
差別やいやな思いを受けた場所について聞いたところ、「保育所（保育園）・幼稚園・学校」が4割以上（42.4%）で最も高かった。以下、「お店」（19.5%）、「公共施設」（16.9%）、「交通機関」（16.1%）の順になっている。また、「その他」（11.0%）では、具体的に「公園」や「学童保育所」などが記載されていた。

（3）差別やいやな思いを受けた相手

◆問39で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」「4. わからない」と答えた方におたずねします。

問40 お子さまはどこで、誰から、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをされましたか。また、あなた（保護者の方）はどこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

図12-3-1 差別やいやな思いを受けた相手 全体



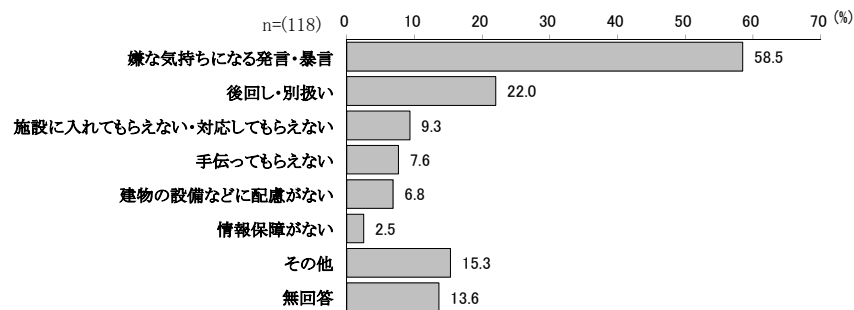
差別やいやな思いを受けた相手について聞いたところ、「友人・知人」が約3割（30.5%）で最も高かった。以下、「知らない人」（28.0%）、「客・利用者」（24.6%）、「保育所（保育園）・幼稚園・学校の教職員など」（17.8%）の順になっている。また、「その他」（13.6%）では、具体的に「学童の職員」や「医師」などが記載されていた。

（4）差別やいやな思いを受けた内容

◆問39で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」「4. わからない」と答えた方におたずねします。

問40 お子さまはどこで、誰から、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをされましたか。また、あなた（保護者の方）はどこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

図12-4-1 差別やいやな思いを受けた内容 全体



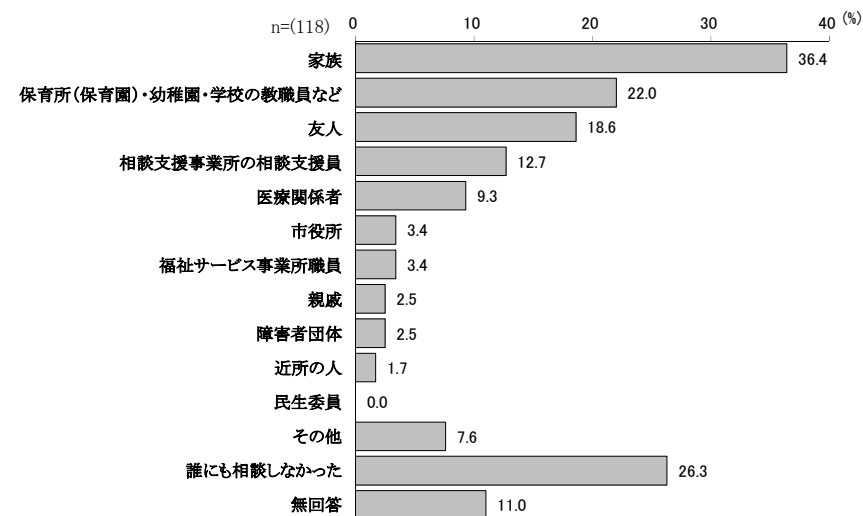
差別やいやな思いを受けた内容について聞いたところ、「嫌な気持ちになる発言・暴言」(58.5%)が最も高かった。以下、「後回し・別扱い」(22.0%)、「施設に入れてもらえない・対応してもらえない」(9.3%)、「手伝ってもらえない」(7.6%)の順になっている。また、「その他」(15.3%)では、具体的に「じろじろ見られる」などが記載されていた。

（5）差別やいやな思いを受けた時の相談先

◆問39で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」「4. わからない」と答えた方におたずねします。

問40 お子さまはどこで、誰から、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをされましたか。また、あなた（保護者の方）はどこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

図12-5-1 差別やいやな思いを受けた時の相談先 全体



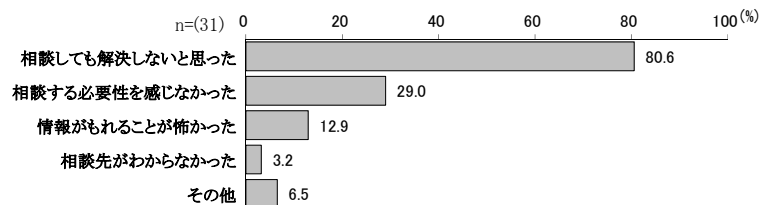
差別やいやな思いを受けた時の相談先について聞いたところ、「家族」が4割近く(36.4%)で最も高かった。以下、「保育所(保育園)・幼稚園・学校の教職員など」(22.0%)、「友人」(18.6%)。「相談支援事業所の相談支援員」(12.7%)、「医療関係者」(9.3%)の順になっている。一方、「誰にも相談しなかった」は3割近く(26.3%)となっている。



（6）差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由

◆問40の相談先で「13. 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。  
問41 相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図12-6-1 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由 全体



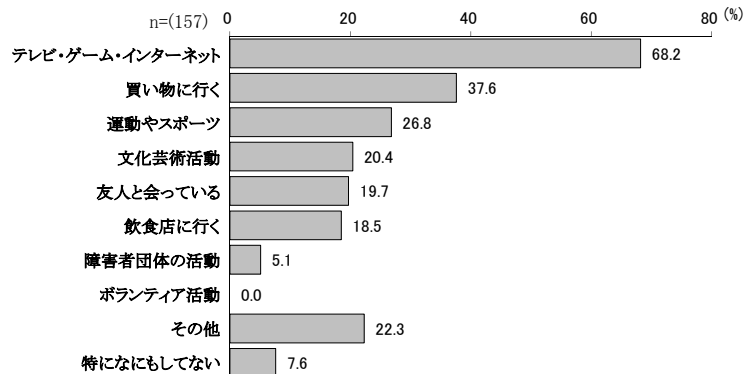
差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由について聞いたところ、「相談しても解決しないと思った」が約8割（80.6%）で最も高かった。以下、「相談する必要性を感じなかった」（29.0%）、「情報がもれることが怖かった」（12.9%）、「相談先がわからなかった」（3.2%）の順になっている。

1.3. 余暇活動について

（1）余暇の過ごし方

問42 お子さまは、通所・学校以外の時間でどのようなことをして過ごしていることが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

図13-1-1 余暇の過ごし方 全体

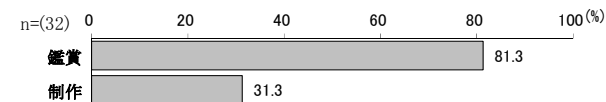


余暇の過ごし方について聞いたところ、「テレビ・ゲーム・インターネット」が7割近く（68.2%）で最も高かった。以下、「買い物に行く」（37.6%）、「運動やスポーツ」（26.8%）、「文化芸術活動」（20.4%）の順になっている。また、「その他」（22.3%）では、具体的に「家族と遊ぶ」などが記載されていた。

（2）文化芸術への関わり方

◆問42で「6. 文化芸術活動」と答えた方におたずねします。  
問43 お子さまは、文化芸術にどのように関わっていますか。（あてはまるものすべてに○）

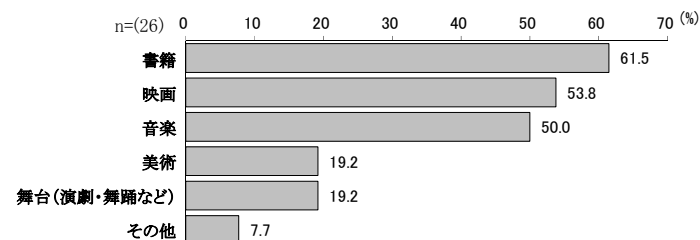
図13-2-1 文化芸術への関わり方 全体



（3）鑑賞した文化芸術の種類

◆問43で「1. 鑑賞」と答えた方におたずねします。  
問44 お子さまは、過去1年の間にどの文化芸術を鑑賞したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

図13-3-1 鑑賞した文化芸術の種類 全体

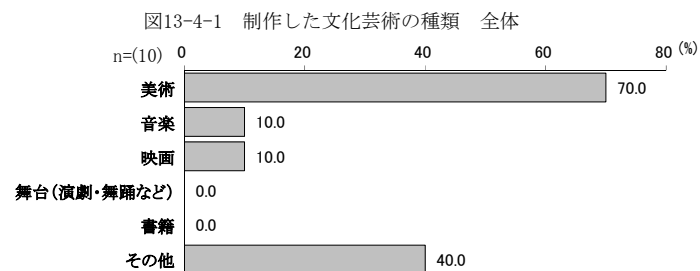


鑑賞した文化芸術の種類について聞いたところ、「書籍」が6割以上（61.5%）で最も高かった。以下、「映画」（53.8%）、「音楽」（50.0%）、「美術」（19.2%）、「舞台（演劇・舞踊など）」（19.2%）の順になっている。

（4）制作した文化芸術の種類

◆問43で「2. 制作」と答えた方におたずねします。

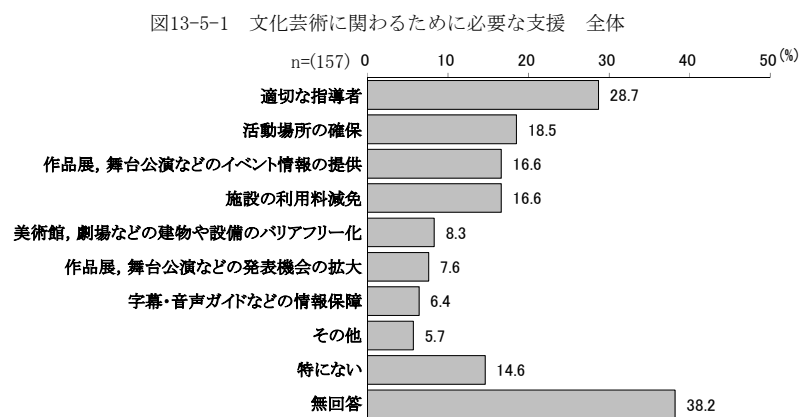
問45 お子さまは、過去1年の間にどの文化芸術を制作したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）



作成した文化芸術の種類について聞いたところ、「美術」が7割（70.0%）で最も高かった。以下、「音楽」（10.0%）、「映画」（10.0%）の順になっている。

（5）文化芸術に関わるために必要な支援

問46 お子さまが、文化芸術活動に関わるために必要な支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

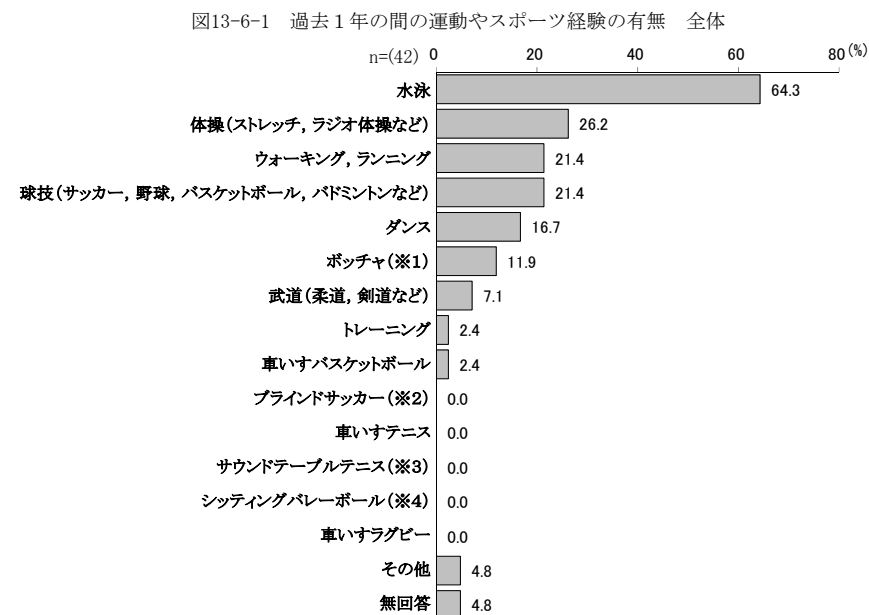


文化芸術に関わるために必要な支援について聞いたところ、「適切な指導者」が3割近く（28.7%）で最も高かった。以下、「活動場所の確保」（18.5%）、「作品展、舞台公演などのイベント情報の提供」（16.6%）、「施設の利用料減免」（16.6%）の順になっている。

（6）過去1年の間の運動やスポーツ経験の有無

◆問42で「7. 運動やスポーツ」と答えた方におたずねします。

問47 お子さまは、過去1年の間にどの運動やスポーツを行ったことがありますか。（あてはまるものすべてに○）



(※1) ボッチャ：最初にジャックボールと呼ばれる白いボールを投げ、続いて赤と青の各6個のボールを投げて、どれだけジャックボールに近いところにボールを置くことができるかを競います。

(※2) ブラインドサッカー：視覚障害者5人制サッカー。目隠しを着用し、転がると音が出るボールを使用します。

(※3) サウンドテーブルテニス：視覚障害の方が行う卓球です。卓球台のネットの下がおり、ネットの下にボールを転がして競技を行います。目隠しを着用し、転がると音が出るボールを使用します。

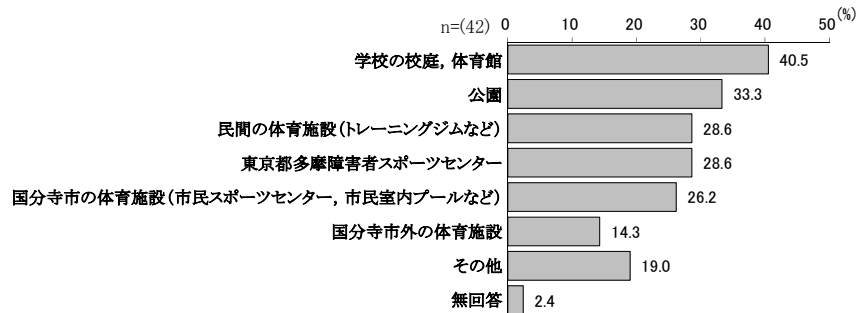
(※4) シッティングバレーボール：座った姿勢のままで行うバレーボールです。

過去1年の間の運動やスポーツ経験の有無について聞いたところ、「水泳」が6割半ば（64.3%）で最も高かった。以下、「体操（ストレッチ、ラジオ体操など）」（26.2%）、「ウォーキング、ランニング」（21.4%）、「球技（サッカー、野球、バスケットボール、バドミントンなど）」（21.4%）、「ダンス」（16.7%）、「ボッチャ」（11.9%）の順になっている。

(7) 運動やスポーツをする場所

◆問42で「7. 運動やスポーツ」と答えた方におたずねします。  
問48 お子さまが運動をする場所はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

図13-7-1 運動やスポーツをする場所 全体

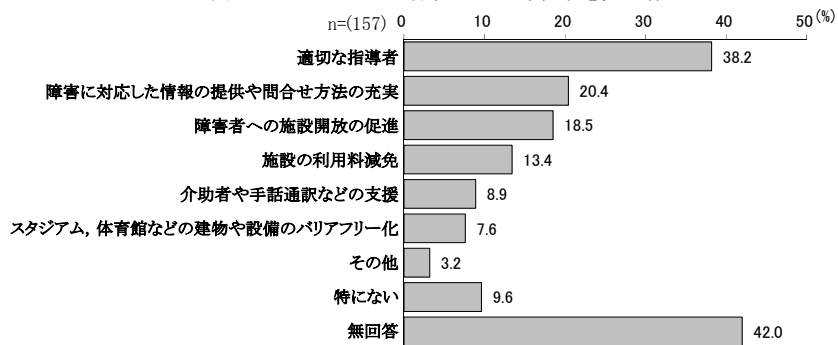


運動やスポーツをする場所について聞いたところ、「学校の校庭, 体育館」が約4割(40.5%)で最も高かった。以下、「公園」(33.3%)、「民間の体育施設(トレーニングジムなど)」(28.6%)、「東京都多摩障害者スポーツセンター」(28.6%)、「国分寺市の体育施設(市民スポーツセンター, 市民室内プールなど)」(26.2%)の順になっている。

(8) スポーツを行うために必要な支援

問49 お子さまが、運動やスポーツを行うために必要な支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図13-8-1 スポーツを行うために必要な支援 全体



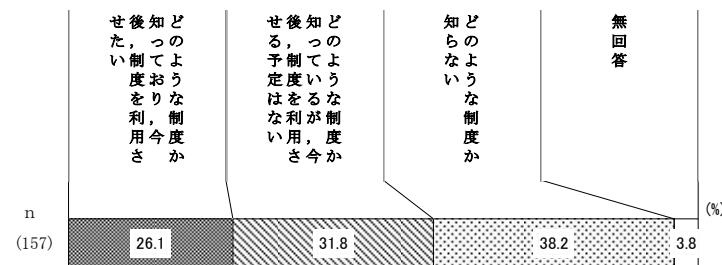
スポーツを行うために必要な支援について聞いたところ、「適切な指導者」が4割近く(38.2%)で最も高かった。以下、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(20.4%)、「障害者への施設開放の促進」(18.5%)、「施設の利用料減免」(13.4%)になっている。

14. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度と利用傾向

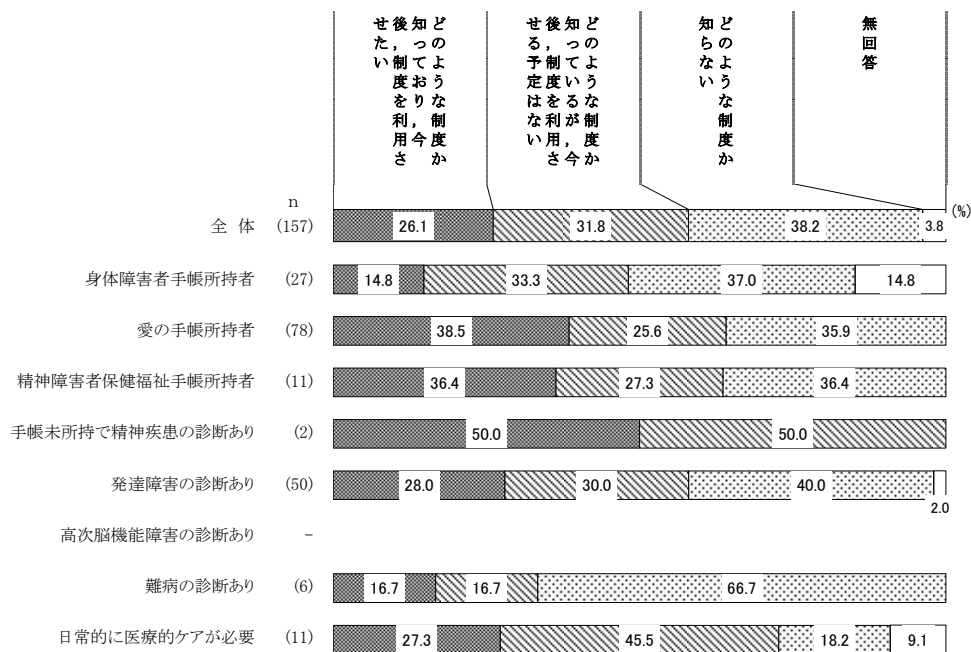
問50 あなた（保護者の方）は、成年後見制度を知っていますか。また、今後、お子さまに制度を利用させたいですか。（1つに○）

図14-1-1 成年後見制度の認知度と利用傾向 全体



成年後見制度の認知度と利用意向について聞いたところ、「どのような制度か知らない」が4割近く(38.2%)で最も高かった。以下、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用させる予定はない」(31.8%)、「どのような制度か知っており、今後、制度を利用させたい」(26.1%)の順になっている。

図14-1-2 成年後見制度の認知度と利用傾向 障害種別

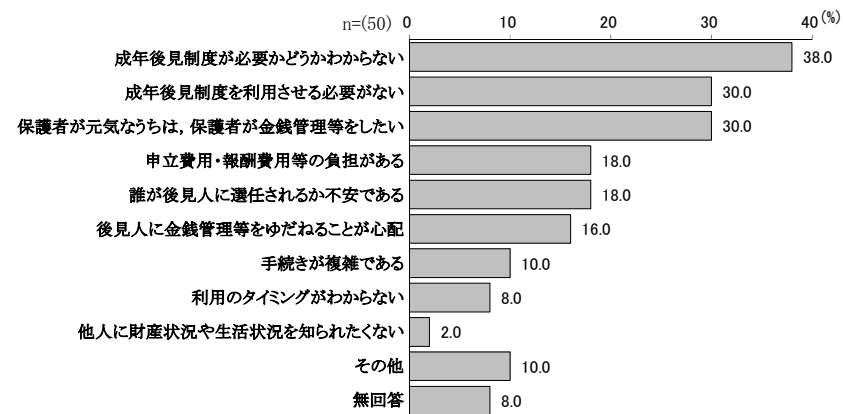


障害種別にみると、「どのような制度か知っており、今後、制度を利用させたい」については、愛の手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者が4割近く（38.5%、36.4%）で全体に比べて高くなっている。また、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用させる予定はない」については、日常的に医療的ケアが必要な人が4割半ば（45.5%）で高くなっている。

(2) 成年後見制度を利用しない理由

◆問50で「2. どのような制度か知っているが、今後、制度を利用させる予定はない」と答えた方におたずねします。  
問51 お子さまに制度を利用させる予定がない理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

図14-2-1 成年後見制度を利用しない理由 全体



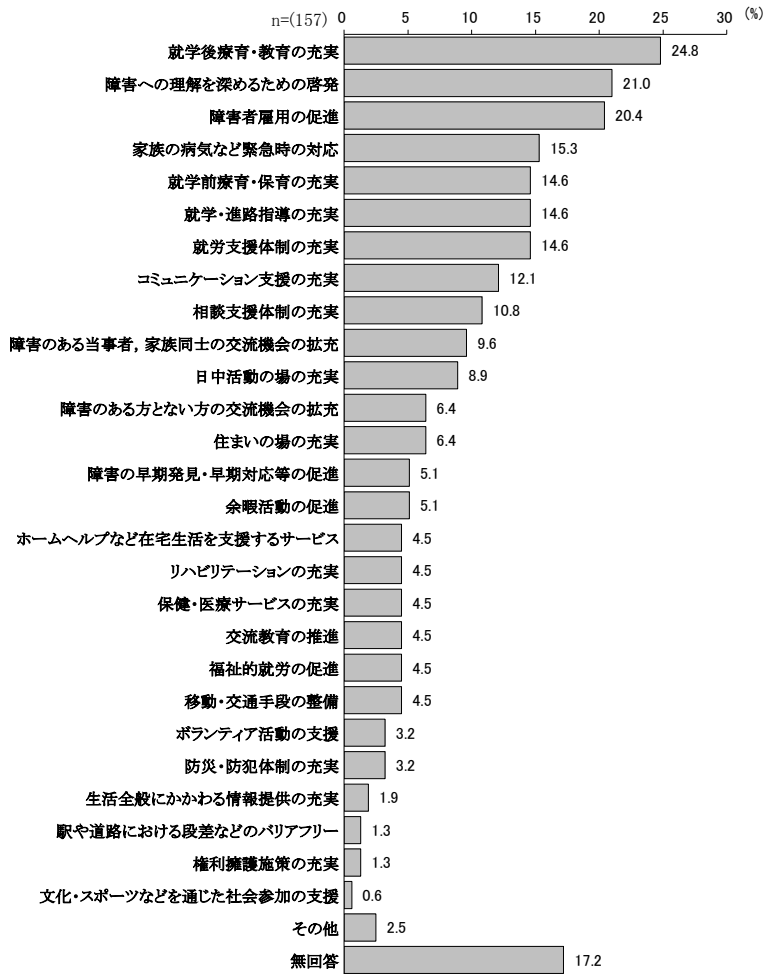
成年後見制度を利用しない理由について聞いたところ、「成年後見制度が必要かどうかわからない」が4割近く（38.0%）で最も高かった。以下、「成年後見制度を利用させる必要がない」（30.0%）、「保護者が元気なうちは、保護者が金銭管理等をしたい」（30.0%）、「申立費用・報酬費用等の負担がある」（18.0%）、「誰が後見人に選任されるか不安である」（18.0%）の順になっている。

1.5. 全体的な施策について

(1) 暮らしのために充実してほしいこと

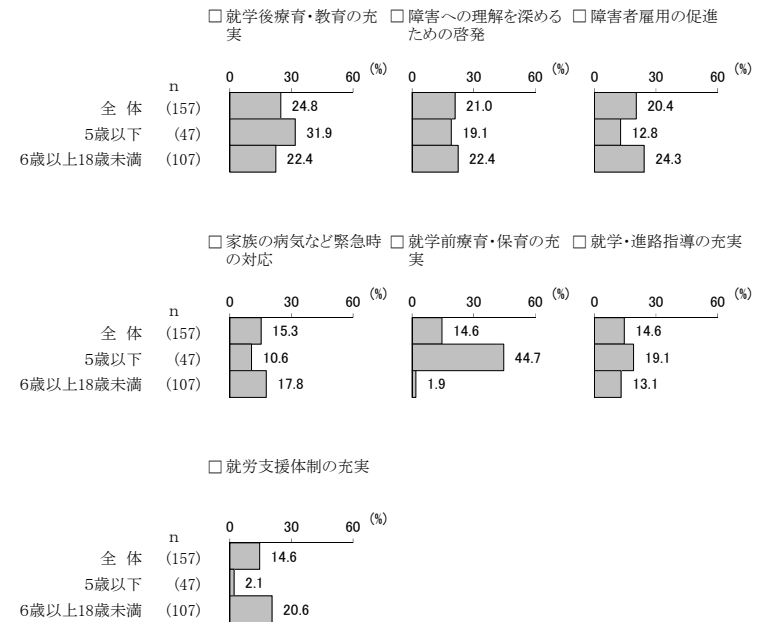
問52 お子さまが暮らしやすくなるために、充実してほしいことは何ですか。（主なもの3つまで○）

図15-1-1 暮らしのために充実してほしいこと 全体



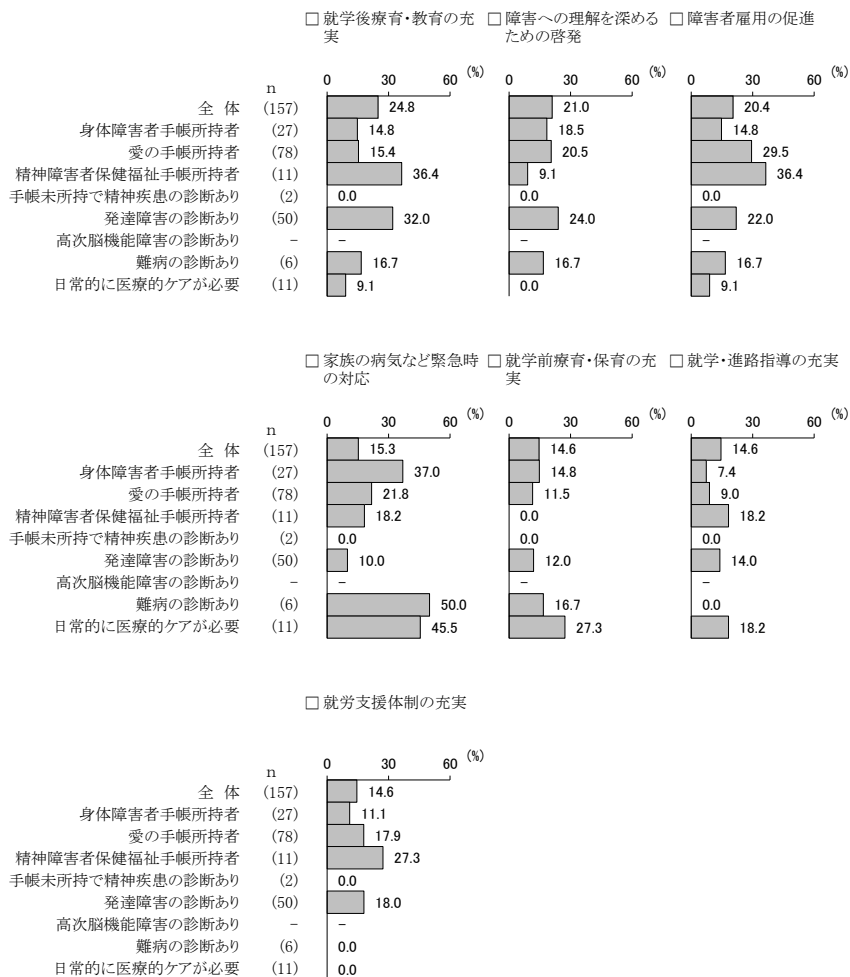
暮らしのために充実してほしいことについて聞いたところ、「就学後療育・教育の充実」が2割半ば（24.8%）で最も高かった。以下、「障害への理解を深めるための啓発」（21.0%）、「障害者雇用の促進」（20.4%）、「家族の病気など緊急時の対応」（15.3%）の順になっている。

図15-1-2 暮らしのために充実してほしいこと 年齢別（上位7項目）



年齢別でみると、「就学前療育・保育の充実」については、5歳以下が4割半ば（44.7%）で全体に比べて高くなっている。一方、「就労支援体制の充実」については、6歳以上18歳未満が約2割（20.6%）で5歳以下（2.1%）に比べて高く、「障害者雇用の促進」についても、6歳以上18歳未満が2割半ば（24.3%）で5歳以下（12.8%）に比べて高くなっている。

図15-1-3 暮らしのために充実してほしいこと 障害種別（上位7項目）



障害種別にみると、「家族の病気など緊急時の対応」については、日常的に医療的ケアが必要な人が4割半ば（45.5%）、身体障害者手帳所持者が4割近く（37.0%）で全体に比べて高くなっている。また、「就学後療育・教育の充実」については、精神障害者保健福祉手帳所持者が4割近く（36.4%）、「就学前療育・保育の充実」については、日常的に医療的ケアが必要な人が3割近く（27.3%）、「障害者雇用の促進」については、精神障害者保健福祉手帳所持者が4割近く（36.4%）、「就労支援体制の充実」については、精神障害者保健福祉手帳所持者が3割近く（27.3%）、「障害への理解を深めるための啓発」については、発達障害の診断を受けている人が2割半ば（24.0%）で高くなっている。

## 16. 自由意見

アンケート調査全体を通じてご意見やご要望を自由に記述していただいたところ、67票の様々な意見が寄せられた。その中から、内容を一定の分野ごとに整理し、その概要を示したものである。

### ◆教育・保育に関すること

- ・今後職員の加配を増やし、障害児の保育園、幼稚園の枠を増やして欲しい。
- ・国の示すインクルーシブ教育が、サポート不足を理由に市の教育内容に全く反映されていない。

### ◆福祉サービスに関すること

- ・紙おむつの給付対象を、脳性麻痺等の重度障害者のみとせず、見直して欲しい。
- ・国分寺市は他市と比べ、障害児の福祉サービスが整っていると思うが、移動支援、行動援護、日中一時支援のサービスについて、受給者証があっても、事業所と契約すらできない状況。皆が利用できるサービスにしてもらいたい。
- ・放課後等デイサービスの事業所が少なく、本人が希望する事業所が見つからない。もっと増やしてもらいたい。
- ・就学前後の療育、学業支援の促進、情報の提供・交換の場、各サポートが充実してくれると助かる。就学後の療育は、児童発達支援の枠から外れてしまう事業所が多く、月額2万円等の費用の負担が大きい。無理して通わせている方が多い。

### ◆相談や福祉の情報に関すること

- ・乳幼児健診で相談したが、あまり親身になってくれず、その後、つくしんぼに相談したら親身に相談に乗ってもらえ、適切な支援を受けられることになった。もっと保健師さんも親身に相談に乗って頂きたい。
- ・妊娠中から、相談機関などのお知らせが欲しかった。
- ・子どもに合う支援や参加できる活動を見つけることが難しい。個々の特性が異なるため、多くの選択肢が欲しい。周りの人から色々意見をもらい、本人が成長できるよう支援を利用したい。
- ・就学から就職まで一貫して、相談に乗ってくれる制度が欲しい。その都度担当が変わるのではなく10年、20年単位で一貫してその子を見てくれる制度でないと、相談しても意味がないし、相談する気にもならない。保護者の負担軽減のため、その場しのぎの付け焼き刃的な相談窓口ではなく、腰をすえて半生を見てくれるような体制を整えて欲しい。

## ◆障害福祉行政に関すること

- ・障害に関する手続きを市役所内で全て行えるようにして欲しい。いずみプラザに行かなければならない手続きがあり、障害児を連れて移動するのはとても大変。障害や介護についての手続き更新等は、1つの建物で行えるようにして頂きたい。
- ・私立学校の助成制度の確立を求める。
- ・国分寺市の福祉に携さわる方の働き方の更なる向上のため、福祉施設への援助の充実を図ってほしい。

## ◆アンケート自体に関すること

- ・まだ“障害”という言葉に慣れてない。子どもを発達障害児かもしれないと心配しているが、障害児前提のアンケートに疑問を感じた。
- ・アンケートに答えることで制度を認知することができ、今後の考えなければならないことが明確化された。
- ・集計結果と政策への盛り込みをアンケート回答者へフィードバックして欲しい。アンケート用紙にいつの市報に掲載予定等の記載をして欲しかった。
- ・自由記入欄を設け、より幅広い意見を収集した方が良かった。
- ・紙とQRコードからの回答を併用して欲しかった。

## ◆将来に関すること

- ・親なき後などの生活の場として、グループホームや施設などが心配。福祉にかかわる人員の増員を求める。
- ・普通級在籍の子供が「発達グレー児」で、手帳類の取得が難しく、就労支援や公的支援も十分に受けられないため、将来に不安がある。

## ◆余暇活動に関すること

- ・健常児に比べて、文化、スポーツ、社会参加などの様々な活動に制限が生じている。障害児は一人で遊びに行くことも難しく、デイも学童も質を伴っていない。様々な社会参加の場を設けて欲しい。デイの実態を是非見に行ってほしい。
- ・学校通学しているときは、放課後等デイサービスが充実しているが、18才以上は余暇活動の場が無いので、増やしてほしい。

## ◆その他

- ・知的と身体とで支援方法が異なるため、ヘルプカードはもう少し細かく分類した方が良いと思う。
- ・周囲の理解が得られるよう、市の広報等でもさらにお知らせしてもらいたい。まだまだじろじろ見られたり、お断わりされることも多いので、今後もう少し理解が進むことを期待したい。
- ・災害時の障害者のサポート、情報展開を行って欲しい。子どもが以前よりは、一人で過ごせるようになり、介護者の私をもっと長時間働きに出たいと考えているが、近隣に親族等がおらず、地震などの災害時のことが心配で、働くことが制限されている。